

長崎県埋蔵文化財センター調査報告書 第46集

津 吹 遺 跡
原 口 B 遺 跡
上 新 高 野 遺 跡
大 高 野 遺 跡

一般国道251号道路改良工事（出平有明バイパス）に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 II

2 0 2 3

長崎県教育委員会

長崎県埋蔵文化財センター調査報告書 第46集

津 吹 遺 跡
原 口 B 遺 跡
上 新 高 野 遺 跡
大 高 野 遺 跡

一般国道251号道路改良工事（出平有明バイパス）に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 II

2 0 2 3

長崎県教育委員会



写真1 遺跡遠景（北東方向から雲仙岳・眉山を望む）

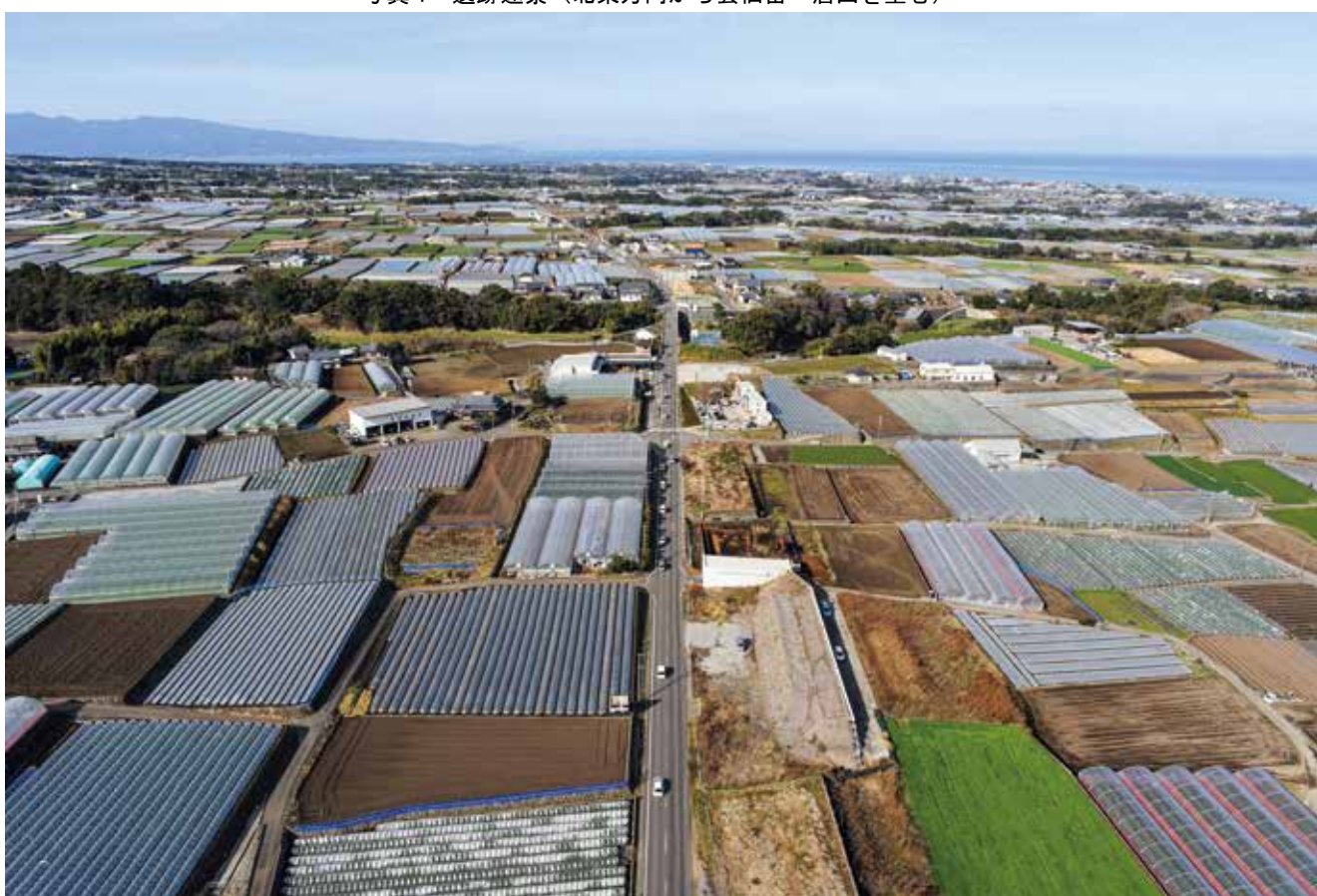


写真2 遺跡遠景（南東方向から多良岳・有明海を望む）



写真3 津吹遺跡



写真4 原口B遺跡1区



写真 5 原口 B 遺跡 2 区



写真 6 上新高野遺跡



写真 7 大高野遺跡



写真 8 津吹遺跡Ⅱ e 層ミニチュア土器出土状況

刊行にあたって

本書は、一般国道 251 号道路改良工事（出平有明バイパス）に伴い、2021(令和 3) 年度に実施した津吹遺跡、原口 B 遺跡、上新高野遺跡、大高野遺跡の発掘調査報告書です。

近年、長崎県では地域経済を促進するための高規格道路の整備を進めており、島原半島においても南島原市深江町から諫早市貝津町の長崎自動車道諫早インターチェンジまでを繋ぐ一般国道 251 号道路「島原道路」の改良工事が進められています。この工事に伴い、長崎県教育委員会ではこれまで埋蔵文化財の有無を確認するための試掘・範囲確認調査や記録保存のための本発掘調査を進めてきました。

本書で報告する遺跡は、雲仙岳から広がるなだらかな台地の上であり、これまでの調査により縄文時代や弥生時代の遺構や遺物が確認されています。この度の発掘調査では、旧石器時代から古墳時代初頭、中世、江戸時代の遺物が出土しました。

埋蔵文化財は、その土地の歴史を知ることのできる貴重な資料であるとともに、教育や地域づくりに活用できる大切な地域資源でもあります。このような文化財を未来に伝えていくために保存すること、広く活用を図っていくことが、私たちの責務と考えております。

最後になりますが、この度の発掘調査にあたり御協力いただいた多くの関係者の皆様方に深く感謝を申し上げます。本書が県民の皆様にとって埋蔵文化財への理解を深める一助となれば幸いです。

令和 5 年 3 月

長崎県教育委員会

教育長 中崎 謙司

例 言

1. 本書は、一般国道 251 号道路改良工事（出平有明バイパス）に伴い 2021(令和 3) 年度に実施した津吹遺跡、原口 B 遺跡、上新高野遺跡、大高野遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本書は、一般国道 251 号道路改良工事（出平有明バイパス）に伴う津吹遺跡等発掘調査報告書作成費にもとづいて発行した。
3. 本事業は長崎県島原振興局建設部道路第二課が事業主体となり、発掘調査主体は長崎県教育委員会が、発掘調査は長崎県教育庁長崎県埋蔵文化財センターが担当した。発掘調査の長崎県遺跡調査番号は TBK202103（津吹遺跡）、HGB202104（原口 B 遺跡、上新高野遺跡）、JCA202105（大高野遺跡）である。
4. 発掘調査にあたっては、以下の業務委託を行った。
発掘調査支援：津吹遺跡等特定埋蔵文化財発掘調査共同企業体（株式会社島田組長崎営業所・株式会社トライスペース G）
5. 発掘調査及び報告書作成に係る指導、情報提供など以下の方々に御指導、御協力を頂いた（敬称略、所属（当時）、順不同）。
早田勉（前橋工科大学基礎教育非常勤講師）、長井大輔（雲仙岳災害記念館）、辻田直人・村子晴奈（雲仙市教育委員会）、宇土靖之（島原市）、大津英稔・吉岡慈文・山下祐雨（島原市教育委員会）、川道寛（西海市教育委員会）、野澤哲朗（諫早市文化振興課）、常盤敬仁（奈良大学）、藤高麻衣（長崎国際大学）。
6. 本書に掲載した地質図は、産業技術総合研究所地質調査総合センターウェブサイトの 20 万分の 1 地質図幅「熊本」データを使用し、加工して作成したものである。
7. 本書に掲載した周辺遺跡分布図と調査地位置図は長崎県遺跡地図を使用し、加工して作成したものである。
8. 座標数値は平面直角座標系、測地系は世界測地系を使用した。
9. 土色は、農林水産省農林水産技術会議監修の『新版・標準土色帖』を使用した。
10. 遺構及び土層実測は、前田加美、津吹遺跡等特定埋蔵文化財発掘調査共同企業体が行った。
調査写真の撮影は前田、濱村一成、津吹遺跡等特定埋蔵文化財発掘調査共同企業体が行った。
11. 本書で使用した遺構略号は以下の通りである。
SD（溝状遺構） SK（土坑） SX（不明遺構）
12. 本書に収録した遺物の実測と製図及び遺物の写真撮影は、長崎県埋蔵文化財センターが行った。
13. 金属製品の保存処理は、近藤佳恵が行った。
14. 黒曜石、安山岩の産地分析は、今西亮太が行った。
15. 本書の執筆者は目次に記した。また、編集は前田と濱村で行った。
16. 記録類及び出土遺物は、長崎県埋蔵文化財センターで保管している。

本文目次

I. 遺跡の環境	1
1. 地理的環境(前田・濱村)	1
2. 歴史的環境(前田・濱村)	2
II. 調査に至る経緯	5
1. 事業計画の概要(前田)	5
2. 調整と協議(前田)	5
3. 調査の概略(前田・濱村)	5
4. 調査体制と整理作業・報告書作成	8
(1) 試掘調査の体制(前田)	8
(2) 本調査の体制(前田)	9
(3) 整理作業・報告書作成(前田・近藤)	10
III. 津吹遺跡	11
1. 過年度調査(前田)	11
(1)2018(平成30)年度の試掘調査	11
(2)2020(令和2)年度の本調査	12
2. 本調査	12
(1) 調査概要(前田・濱村)	12
(2) 層序(前田・濱村)	13
(3) 遺構(前田)	14
(4) 遺物(今西)	14
(5) 自然科学分析(今西)	22
【写真図版】	
IV. 原口B遺跡	29
1. 試掘調査(前田)	29
(1)2019(令和元)年度の試掘調査	29
(2)2020(令和2)年度の試掘調査	29
2. 本調査	30
(1) 調査概要(前田)	30
(2) 層序(前田・濱村)	31
(3) 遺構(前田)	39
(4) 遺物(今西)	39
(5) 自然科学分析(今西)	41
【写真図版】	
V. 上新高野遺跡	50
1. 試掘調査(前田)	50
(1)2020(令和2)年度の試掘調査	50
2. 本調査	51

(1) 調査概要(前田)	51
(2) 層序(前田・濱村)	51
(3) 遺構(前田)	52
(4) 遺物(今西)	53
(5) 自然科学分析(今西)	54

【写真図版】

VI. 大高野遺跡	67
1. 試掘調査(前田)	67
(1)2019(令和元)年度の試掘調査	67
2. 本調査	68
(1) 調査概要(前田)	68
(2) 層序(前田・濱村)	68
(3) 遺構(前田)	69
(4) 遺物(今西)	75
(5) 自然科学分析(今西)	87

【写真図版】

VII. 総括(前田・濱村)	98
----------------	----

【引用・参考文献】

図目次

図1 表層地質図
図2 周辺遺跡分布図
図3 高規格道路の計画図
図4 調査地位置図
【津吹遺跡】
図5 試掘調査と本調査の位置図(S=1/1,500)
図6 I層出土遺物(S=2/3)
図7 平面図及び等高線図(S=1/300)
図8 調査区東壁土層断面図(S=1/80)
図9 調査区北壁土層断面図(S=1/80)
図10 II層出土遺物1(S=1/3)
図11 II層出土遺物2(S=2/3)
図12 III層出土遺物(S=1/3)
図13 黒曜石・安山岩産地推定判別図(上:Rb分率 vs Mn/Fe、下:Sr分率 vs Fe/K)
図14 分析資料
【原口B遺跡】
図15 試掘調査と本調査の位置図(S=1/800)
図16 1区平面図及び等高線図(S=1/300)
図17 1区土層断面図(S=1/80)
図18 2区土層断面図(S=1/80)

図 19	2 区平面図及び等高線図 (S=1/200)
図 20	VI層出土遺物 (S=2/3)
図 21	VII層出土遺物 (S=2/3)
図 22	黒曜石・安山岩産地推定判別図 (上 : Rb 分率 vs Mn/Fe、下 : Sr 分率 vs Fe/K)
図 23	分析資料
【上新高野遺跡】	
図 24	試掘調査と本調査の位置図 (S=1/900)
図 25	SK1 平面図及び断面図 (S=1/20)
図 26	風倒木痕出土遺物 (S=1/3)
図 27	VI層出土遺物 (S=2/3)
図 28	調査区土層断面図 (S=1/80)
図 29	調査区平面図及び等高線図 (S=1/400)
図 30	分析資料
図 31	黒曜石・安山岩産地推定判別図 (上 : Rb 分率 vs Mn/Fe、下 : Sr 分率 vs Fe/K)
【大高野遺跡】	
図 32	試掘調査と本調査の位置図 (S=1/1,000)
図 33	SX1 平面図及び断面図 (S=1/20)
図 34	SD1 土層断面図 (S=1/50)
図 35	SD2 及び SD3 土層断面図 (S=1/20)
図 36	調査区Ⅲ b 層平面図及び等高線図 (S=1/250)
図 37	調査区Ⅳ b 層平面図 (S=1/250)
図 38	SD1 出土石器 (S=2/3)
図 39	調査区土層断面図 1(S=1/80)
図 40	調査区土層断面図 2(S=1/80)
図 41	SD1 出土石器・陶磁器 (S=1/3)
図 42	Ⅱ層出土遺物 1(S=1/3)
図 43	Ⅱ層出土遺物 2(S=2/3)
図 44	Ⅲ層出土遺物 1(S=1/3)
図 45	Ⅲ層出土遺物 2(S=2/3)
図 46	Ⅳ層出土遺物 (S=2/3)
図 47	分析資料
図 48	黒曜石・安山岩産地推定判別図 (上 : Rb 分率 vs Mn/Fe、下 : Sr 分率 vs Fe/K)

表目次

表 1	周辺遺跡一覧
表 2	調査番号と遺跡名称の対応表
【津吹遺跡】	
表 3	遺物一覧 (Ⅰ層出土石器)
表 4	遺物一覧 (Ⅱ層出土椀形滓)
表 5	遺物一覧 (Ⅱ層出土土器)

表 6	遺物一覧 (Ⅱ層出土石器)
表 7	遺物一覧 (Ⅲ層出土土器)
表 8	黒曜石・安山岩分析結果一覧
【原口 B 遺跡】	
表 9	遺物一覧 (Ⅵ層出土遺物)
表 10	遺物一覧 (Ⅶ層出土遺物)
表 11	黒曜石・安山岩分析結果一覧
【上新高野遺跡】	
表 12	遺物一覧 (Ⅲ層出土遺物)
表 13	遺物一覧 (Ⅵ層出土遺物)
表 14	黒曜石・安山岩分析結果一覧
【大高野遺跡】	
表 15	遺物一覧 (SD1 出土石器)
表 16	遺物一覧 (SD1 出土土器・陶磁器)
表 17	遺物一覧 (SD1 出土鉄滓)
表 18	遺物一覧 (Ⅱ層出土土器・陶磁器)
表 19	遺物一覧 (Ⅱ層出土石器)
表 20	遺物一覧 (Ⅲ層出土土器)
表 21	遺物一覧 (Ⅲ層出土石器)
表 22	遺物一覧 (Ⅳ層出土土器)
表 23	遺物一覧 (Ⅳ層出土石器)
表 24	黒曜石・安山岩分析結果一覧

写真目次

【巻頭図版】

巻頭図版 1

- 写真 1 遺跡遠景 (北東方向から雲仙岳・眉山を望む)
- 写真 2 遺跡遠景 (南東方向から多良岳・有明海を望む)

巻頭図版 2

- 写真 3 津吹遺跡
- 写真 4 原口 B 遺跡 1 区

巻頭図版 3

- 写真 5 原口 B 遺跡 2 区
- 写真 6 上新高野遺跡

巻頭図版 4

- 写真 7 大高野遺跡
- 写真 8 津吹遺跡Ⅱ e 層ミニチュア土器出土状況

【津吹遺跡】

- 写真 9 出土遺物
- 写真 10 着手前調査区風景 (北西方向から)
- 写真 11 完掘状況調査区風景 (南方向から)
- 写真 12 Ⅱ e 層検出状況 (南西方向から)

写真 13 II e 層検出状況(南東方向から)
写真 14 調査区南側完掘状況(北東方向から)
写真 15 調査区東側完掘状況(南東方向から)
写真 16 調査区西側完掘状況(南方向から)
写真 17 調査区東側完掘状況(北西方向から)
写真 18 北壁土層堆積状況(南東方向から)
写真 19 東壁土層堆積状況 1(南西方向から)
写真 20 東壁土層堆積状況 2(南西方向から)
写真 21 東壁土層堆積状況 3(南西方向から)
写真 22 東壁土層堆積状況 4(南西方向から)

【原口 B 遺跡】

写真 23 出土遺物
写真 24 1 区表土除去状況遠景(南東方向から)
写真 25 1 区完掘状況調査区遠景(南東方向から)
写真 26 1 区サブトレンチ 1 北壁土層堆積状況(南東方向から)
写真 27 1 区サブトレンチ 1 東壁土層堆積状況(南西方向から)
写真 28 1 区サブトレンチ 2 西壁土層堆積状況(北東方向から)
写真 29 1 区サブトレンチ 2 北壁土層堆積状況(南東方向から)
写真 30 1 区サブトレンチ 3 南壁土層堆積状況(北西方向から)
写真 31 1 区サブトレンチ 3 東壁土層堆積状況(南西方向から)
写真 32 1 区 Gr7109Bc・Gr7109Bd・Gr7109Da・Gr7109Dd 完掘状況(南東方向から)
写真 33 1 区 Gr7110Ac・Gr7110Ad・Gr7110Ca・Gr7110Cb 完掘状況(南東方向から)
写真 34 1 区 Gr7110Cc・Gr7110Cd・Gr7210Aa・Gr7210Ab 完掘状況(南東方向から)
写真 35 1 区 Gr7210Bc・Gr7210Bd・Gr7210C・Gr7210Da 完掘状況(東方向から)
写真 36 1 区 Gr7211Cd 完掘状況(北東方向から)
写真 37 1 区 Gr7311Dd 完掘状況(南東方向から)
写真 38 1 区 VII a 層上面流紋岩剥片(14) 出土状況
写真 39 1 区 VII a 層上面安山岩剥片(13) 出土状況
写真 40 2 区着手前状況(南西方向から)
写真 41 2 区表土除去状況(南西方向から)
写真 42 2 区 VII d 層検出状況(北東方向から)
写真 43 2 区完掘状況(北東方向から)

写真 44 2 区サブトレンチ 4 西壁土層堆積状況(北東方向から)
写真 45 2 区サブトレンチ 4 北壁土層堆積状況(南東方向から)
写真 46 2 区サブトレンチ 5 南壁土層堆積状況(北西方向から)
写真 47 2 区サブトレンチ 5 西壁土層堆積状況(南西方向から)

【上新高野遺跡】

写真 48 出土遺物
写真 49 1 区完掘状況(南西方向から)
写真 50 1 区サブトレンチ 10 東壁 1 土層堆積状況(南西方向から)
写真 51 1 区サブトレンチ 10 東壁 2 土層堆積状況(南西方向から)
写真 52 1 区サブトレンチ 10 東壁 3 土層堆積状況(南西方向から)
写真 53 1 区サブトレンチ 10 北壁 1 土層堆積状況(南東方向から)
写真 54 1 区サブトレンチ 10 北壁 2 土層堆積状況(南東方向から)
写真 55 1 区 Gr5190D 完掘状況(南東方向から)
写真 56 1 区 Gr5194D VI b 層下面黒曜石剥片(6) 出土状況
写真 57 2 区完掘状況(南東方向から)
写真 58 2 区サブトレンチ 8 北壁土層堆積状況(南東方向から)
写真 59 2 区 Gr5095D 完掘状況と 2020(令和 2) 年度試掘坑
写真 60 2 区 Gr5196A 完掘状況(南東方向から)
写真 61 2 区 Gr5196Bb 完掘状況(南東方向から)
写真 62 2 区 Gr5095DdSK1 半截状況(北東方向から)
写真 63 2 区 Gr5095Db VI b 層黒曜石剥片(3) 出土状況
写真 64 2 区 Gr5095Db VI b 層黒曜石剥片(4) 出土状況
写真 65 2 区 Gr5196Ab VI b 層黒曜石剥片(2) 出土状況
写真 66 2 区 Gr5196Ab VI b 層黒曜石剥片(5) 出土状況
写真 67 2 区 Gr5198Bc VI d 層黒曜石剥片(8) 出土状況
写真 68 2 区 Gr5095Db VI b 層黒曜石剥片(7) 出土状況
写真 69 2 区 Gr5095Db VI c 層クラック内黒曜石剥片 出土状況
写真 70 3 区完掘状況(北西方向から)
写真 71 3 区サブトレンチ 7 西壁土層堆積状況(北東方向から)

写真 72 3区サブトレンチ7南壁土層堆積状況(北西方向から)
写真 73 4区サブトレンチ6北壁土層堆積状況(南東方向から)
写真 74 4区サブトレンチ6東壁土層堆積状況(南西方向から)
写真 75 5区完掘状況(南東方向から)
写真 76 5区サブトレンチ9南壁土層堆積状況(北西方向から)
写真 77 5区風倒木痕出土土器(1)出土状況

写真 102 SD3完掘状況(東方向から)
写真 103 III b層検出状況(東方向から)
写真 104 完掘状況(南東方向から)

【大高野遺跡】

写真 78 出土遺物1
写真 79 出土遺物2
写真 80 出土遺物3
写真 81 出土遺物4
写真 82 北側II a層上面検出状況(南方向から)
写真 83 南側II a層上面検出状況(北方向から)
写真 84 サブトレンチ1西壁上段土層堆積状況(北東方向から)
写真 85 サブトレンチ1西壁下段土層堆積状況(北東方向から)
写真 86 サブトレンチ1南壁土層堆積状況1(北東方向から)
写真 87 サブトレンチ1南壁土層堆積状況2(北東方向から)
写真 88 サブトレンチ2東壁土層堆積状況1(南東方向から)
写真 89 サブトレンチ2東壁土層堆積状況2(南東方向から)
写真 90 サブトレンチ3西壁土層堆積状況1(北東方向から)
写真 91 サブトレンチ3西壁土層堆積状況2(北東方向から)
写真 92 谷埋土堆積状況(北東方向から)
写真 93 SD1完掘状況(北東方向から)
写真 94 SD1北壁埋土堆積状況(南西方向から)
写真 95 SD1中央ベルト埋土堆積状況(南方向から)
写真 96 SD1陶器(7)出土状況
写真 97 SX1半截状況(西方向から)
写真 98 SD2完掘状況(南方向から)
写真 99 SD2埋土堆積状況(北東方向から)
写真 100 SD3中央ベルト埋土堆積状況(東方向から)
写真 101 SD3南ベルト埋土堆積状況(南東方向から)

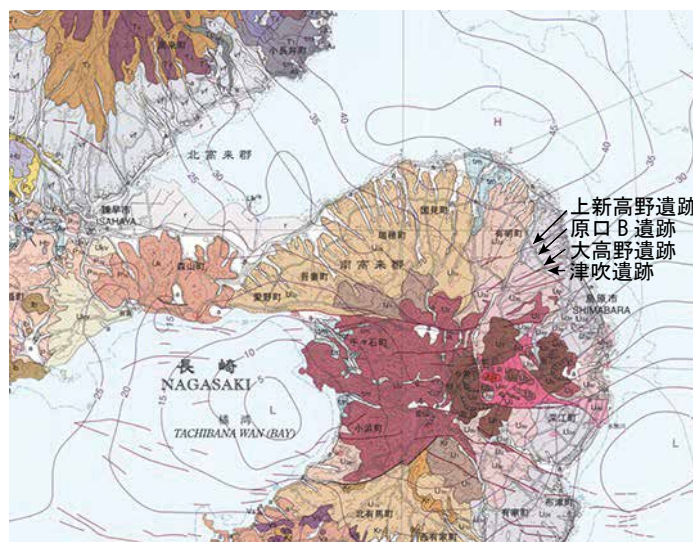
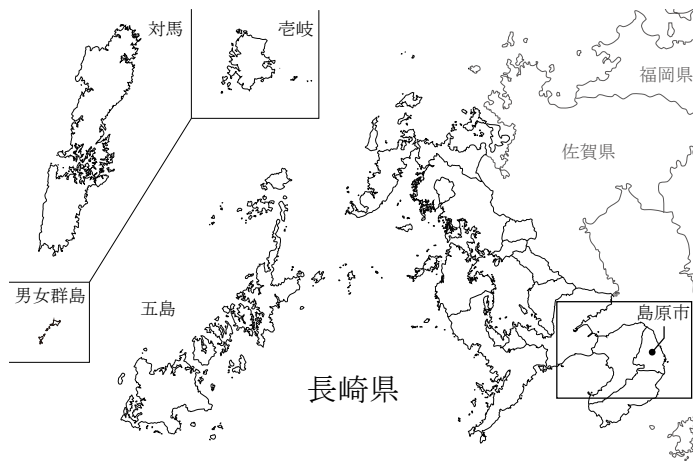
I . 遺跡の環境

1. 地理的環境

津吹遺跡、原口B遺跡、上新高野遺跡、大高野遺跡は、長崎県南部の島原半島北東部に所在し、火山麓扇状地の中腹下方に立地する。標高は83 m～96 m程度を測る。

島原半島は、北岸から東岸にかけては有明海に面し、南岸の有明海の開口部で宇土半島や天草諸島と対峙する。西岸は橘湾に面し、北西部で県央部と接する。島原半島の中央部に位置する雲仙火山は、古くから火山活動が活発であり、半島の大部分は第四期更新世中期から完新世に至るまでの噴出物によって形成されている。普賢岳、国見岳、妙見岳など20以上の山々から構成されるが、中央部の山体ほど古く、更新世中期の古期雲仙火山の溶岩及び火砕流が表層となっている。半島の北東部の表層は、完新世の新規雲仙火山に由来する火山麓扇状地堆積物により形成される。この中には、普賢岳火山に由来する礫石原火砕流堆積物(14,000年前及び19,000年前)や鬼界アカホヤ火山灰(約7,300年前)を覆う島原岩屑なだれ堆積物、眉山火山(4,000年前)に由来する六ツ木火砕流堆積物などの分布を違えつつ重なっている(地質調査総合センターウェブサイト)。また、これらの堆積がさらに流水などの影響で移動し、再堆積しているところもあると思われる。

有史以降の大きな火山活動では、1792(寛政4)年には眉山で山体崩壊が発生し(いわゆる「島原大変肥後迷惑」)、1990(平成2)年から1995(平成7)年までの



第四期	完新世	埋立及び干拓地	r			
		沖積層	a	砂、砂及び泥		
		後期更新世	中位段丘堆積物	trn	礫、砂及び泥	
	更新世	後期更新世	火山麓扇状地堆積物	vf	礫、砂及び泥	
			完新世	1991-95土流堆積物	U4d	角閃石デイサイト火山灰、火山礫及び火山角礫
		1991-95火砕流堆積物		U4p	火山礫及び火山角礫	
		1991-95溶岩ドーム		U4	角閃石デイサイト溶岩	
		火山麓扇状地堆積物		U3d	角閃石デイサイト-安山岩火山灰、火山礫及び火山角礫	
		火砕流及び岩屑なだれ堆積物		U3p	火山礫及び火山角礫	
		溶岩		U3	角閃石デイサイト-安山岩溶岩	
		中期更新世	古期更新世	火砕流及び火山麓扇状地堆積物	U2p	角閃石デイサイト-安山岩火山灰、火山礫及び火山角礫
				溶岩	U2	角閃石デイサイト-安山岩溶岩
			更新世	火砕流及び火山麓扇状地堆積物	U1p	角閃石デイサイト火山灰、火山礫及び火山角礫(軽石を含む)
				溶岩	U1	角閃石デイサイト溶岩

図1 表層地質図(産業技術総合研究所地質調査総合センターウェブサイトの20万分の1地質図幅「熊本」データを使用し加工して作成)

I. 遺跡の環境

火山活動では、新たに平成新山が形成され、地震、火山ガス噴出、噴火、火砕流、土石流などにより広範囲で大規模な災害が発生している。

一方で、雲仙火山は豊かな自然も育み、ミヤマキリシマなどの貴重な植物の群落のほか、温泉群や湧水群に恵まれ、県内有数の農業地帯が広がっている。2009（平成 21）年には地球科学的特徴が認められ、「島原半島ユネスコ世界ジオパーク」として認定されている。現在は火山灰土を含む土質を活かした根菜類を中心とした耕作地が広がり、周囲には肉牛などの畜産を行う牧場もみられる。

2. 歴史的環境

調査地は、縄文時代から中世の遺跡が点在している地域にあり、近隣には灰ノ久保遺跡、上一野遺跡、上中野遺跡、寺中 A 遺跡、三会中学校遺跡、人塚古墳、長貫 B 遺跡、原口 A 遺跡が所在する。

島原半島北東部の様相については、旧石器時代は、調査地から北西方向に約 4 km の距離にある百花台遺跡や魚洗川遺跡、小ヶ倉遺跡が知られ、剥片尖頭器や細石刃などが出土している。調査地近隣では、『長貫遺跡緊急調査概報』（古田正隆 1986 島原市文化財調査報告書第 3 号）によると、「昭和 32 年 7 月諫早水害の直後頃、当時の三会中学校生徒が、長貫において 2 個の「ハンドアックス」（握槌）を川原化した道路上にて発見…（中略）…慶応大学考古学研究室におられた江坂輝弥教授がみて、旧石器文化の遺物であることを述べられた。」との記述があるが、遺物包含層は確認されていない。縄文時代は、早期、後期、晩期の遺跡が多く知られ、礫石原遺跡、肥賀太郎遺跡、小原下遺跡、一野遺跡、大野原遺跡などがある。調査地より標高の低い場所に所在する遺跡では、一野遺跡で早期に位置付けられる貝殻条痕文系土器の一野式土器や、円筒形土器の弘法原式土器が出土している。小原下遺跡では、縄文時代後期後半の集落跡の一部が確認され、土偶も出土している。また、大野原遺跡では、縄文時代後期後半の粘土貯蔵穴や焼土土坑が確認されている。調査地より標高の高い場所に所在する遺跡では、下油堀遺跡で落とし穴状遺構から平椀・塞ノ神式土器が出土しているほか、焼土遺構から坂の下式土器と思われる土器底部が出土している。長貫 A 遺跡でも落とし穴状遺構が確認され、押型文土器が出土している。

弥生時代は、一野遺跡や大野原遺跡で石棺や甕棺が出土し、小原下遺跡では弥生時代中期の集落跡が確認されている。景華園遺跡では、銅剣や銅矛、鉄製鋤先、貝輪、玉類が出土している。

古墳時代については、周辺に人塚古墳や鬼の塚古墳があったとされているが、土地改変によって現状では確認できない。現状が確認できる古墳としては、墳丘と玄室及び前室の一部が残存する平山古墳ある。その他、一野遺跡では墳丘は消失していたが主体部と周溝が残存していた 8 基の古墳を検出・調査しており、小規模な古墳が点在する。

古代は、松尾遺跡で 8 世紀代の土師器・須恵器や甌が出土し竈も検出されている。北に離れた場所には高来郡家の関連施設とも目される大野原遺跡（大野原七反畑遺跡）が知られている。また、そこから島原市街地付近の野鳥駅比定地を結ぶ海沿いが伝路の想定ルートとなっている。のちに近世の島原街道となるこのルートは国道 251 号線と概ね重なる。

中世では沿岸部の寺中城跡や畑中遺跡、小原下遺跡が知られる。寺中城跡は沿岸部の谷底平野に浮かぶ小規模な独立丘陵に位置する。標高 16 m ほどで周囲の谷底平野とは比高差 8 m を測る。有馬氏の家臣・和泉氏の居城と伝えられており、布目瓦や土師質土器が表面採集されており、掘切の遺構も確認されている。畑中遺跡では溝状遺構・掘立柱建物跡・精錬鍛冶遺構が検出されている。小原下遺跡では 2 間×5 間の掘

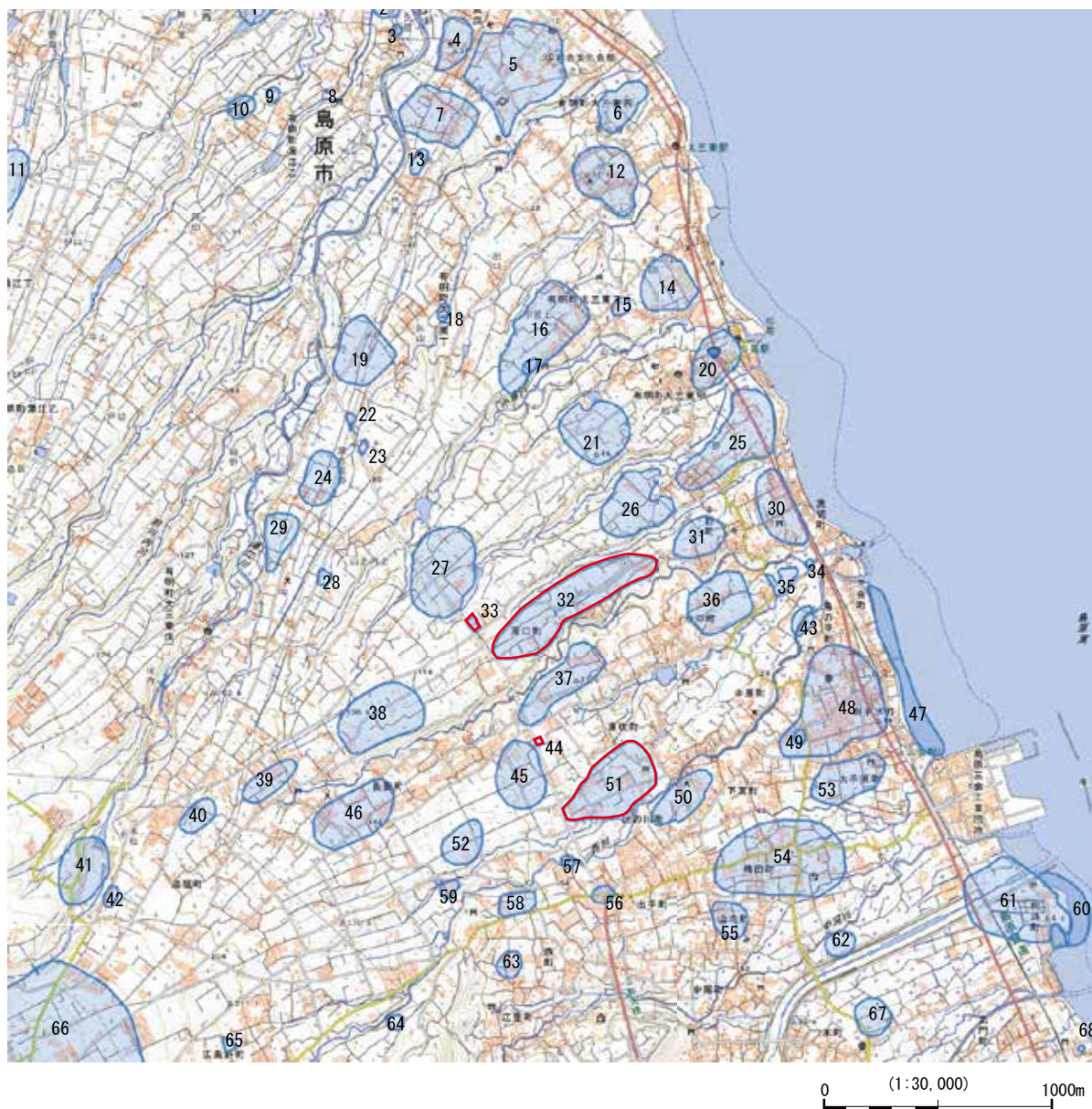


図2 周辺遺跡分布図（『長崎県遺跡地図』を加工して作成）

立柱建物跡1棟や溝状遺構・土坑が検出されている。遺物でも土師質・須恵質・瓦質土器等の国産品に加え中国産や朝鮮系の貿易陶磁器も出土しており、大野城の南東にある古閑越後守（有馬家臣）の東古閑城跡との関連が想定されている。一方で、東古閑城跡の北側に位置する大野城跡は16世紀後半、龍造寺と有馬氏との沖田畷の戦いにおいて、高来の直轄地の最終端であり龍造寺氏の兵站基地であったとされ、龍造寺軍の敗退後、大野城の城主であった大野山城守は、この城の軍需物資を有馬晴信に提供することにより助命された。このように中世・戦国時代の城郭が点在する他、下宮遺跡、稗田原遺跡、大タブ沢遺跡、大塚下遺跡は踏査によって中世の遺物散布が認められている。

近世では、調査地周辺は島原藩領内の三会村に位置していた。この「三会」という地名については、古くは「美江」、「三戸」、「三重」、「三江」と記されていたとされ、元来の意味としては「三江」すなわち、洗切川、大橋川、中川の川尻に三つの入り江があったことに由来があると言われている。

I. 遺跡の環境

表1 周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	種別	立地	時代
1	庄司屋敷遺跡	遺物包含地	丘陵	弥生・中世
2	大野浜城跡	城館跡	丘陵	中世
3	久原遺跡	遺物包含地	丘陵	縄文
4	大野城跡	城館跡	丘陵	中世
5	大野原遺跡	集落・遺物包含地・墳墓(弥生)	丘陵	縄文・弥生・古墳・古代
6	東古閑城跡	城館跡	丘陵	中世
7	甘木遺跡	遺物包含地	丘陵	弥生・古墳
8	平山古墳	古墳	丘陵	古墳
9	塔ノ鼻横穴遺跡	墳墓(古墳)	丘陵	古墳
10	六人道横穴古墳	古墳	丘陵	古墳
11	清水山遺跡	遺物包含地	台地	縄文
12	才木遺跡	遺物包含地	丘陵	縄文
13	温泉神社台地遺跡	遺物包含地	丘陵	縄文
14	小原下遺跡	集落・遺物包含地	丘陵	縄文・中世
15	小原下B地点遺跡	遺物包含地	平地	縄文
16	小原上遺跡	遺物包含地	丘陵	縄文
17	国土神社裏横穴	墳墓(古墳時代)	丘陵	古墳
18	弘山横穴古墳	古墳	平地	古墳
19	上松高野遺跡	遺物包含地	台地	弥生
20	松尾遺跡	遺物包含地	丘陵	古墳・古代
21	山ノ内遺跡	遺物包含地	丘陵	古墳・古代
22	下雨粒木遺跡	遺物包含地	扇状台地	旧石器・縄文・弥生
23	楠沢上遺跡	遺物包含地	扇状台地	旧石器・縄文・弥生
24	下源在高野遺跡	遺物包含地	台地	縄文
25	一野遺跡	遺物包含地・古墳	丘陵	縄文・弥生・古墳
26	上一野遺跡	遺物包含地	丘陵	古墳・古代
27	灰ノ久保遺跡	遺物包含地	丘陵	縄文
28	山ノ内上横穴古墳	古墳	丘陵	古墳
29	上源在高野遺跡	遺物包含地	丘陵	縄文
30	景華園遺跡	墳墓(弥生時代)	海岸段丘	弥生
31	上中野遺跡	遺物包含地	台地	弥生・古墳
32	原口B遺跡	遺物包含地	丘陵	弥生・古墳
33	上新高野遺跡	遺物包含地	台地	縄文
34	中野川遺跡	遺物包含地	川床	弥生
35	寺中城跡	城館跡	丘陵	中世
36	寺中B遺跡	遺物包含地	平地	弥生・古墳
37	寺中A遺跡	遺物包含地	丘陵	弥生
38	原口A遺跡	遺物包含地	台地	縄文・弥生
39	下油堀遺跡	遺物包含地	河岸段丘	縄文・弥生
40	上油堀遺跡	遺物包含地	河岸段丘	縄文
41	東鷹野遺跡	遺物包含地	台地	縄文
42	一本松遺跡	遺物包含地	台地	縄文
43	西川遺跡	遺物包含地	平野	弥生
44	大高野遺跡	遺物包含地	台地	縄文
45	長貫B遺跡	遺物包含地	台地	縄文・弥生
46	長貫A遺跡	遺物包含地	丘陵	弥生
47	三会下町海中遺跡	遺物包含地	海底	縄文・弥生
48	畑中遺跡	遺物包含地	平地	弥生・古墳・古代・中世
49	大塚古墳	古墳	丘陵	古墳
50	三会中学校遺跡	遺物包含地	台地	縄文
51	津吹遺跡	遺物包含地	丘陵	縄文・弥生
52	南楠沢遺跡	遺物包含地	台地	弥生
53	下宮遺跡	遺物包含地	平野	縄文・弥生・中世
54	稗田原遺跡	遺物包含地	平地	縄文・弥生・中世
55	山崎遺跡	遺物包含地	台地	弥生・古墳
56	鬼の家古墳	古墳	丘陵	古墳
57	人塚古墳	古墳	丘陵	古墳
58	大塚下遺跡	遺物包含地	台地	中世
59	大塚後遺跡	遺物包含地	台地	縄文・中世
60	沖田海中遺跡	遺物包含地	海底	弥生・古墳
61	沖田遺跡	遺物包含地	平地	弥生・古墳
62	長塚古墳	古墳	平地	古墳
63	坪浦遺跡	遺物包含地	台地	縄文
64	尻無遺跡	遺物包含地	台地	縄文
65	大タブ沢遺跡	遺物包含地	台地	縄文・中世
66	礫石原遺跡	遺物包含地・墳墓(その他)	丘陵	縄文
67	道田遺跡	墳墓(弥生時代)	平地	弥生・古墳
68	沖田畷遺跡	遺物包含地	海岸段丘	古墳

II. 調査に至る経緯

1. 事業計画の概要

長崎県は九州の西北部に位置し、陸地は平坦に乏しく、多くの山岳、丘陵、半島、岬、湾、入江、離島で形成されている。この地理的ハンディキャップを解消し、地域経済を促進するため、高規格道路の整備を進めている。

一般国道 251 号線（島原道路）は、南島原市深江町と諫早インター間を結ぶ延長約 50 km の自動車専用道路である。島原半島は高速交通ネットワークの空白地帯であり、高規格道路を整備することで、交流人口の拡大や物流の効率化に加えて、重篤患者の 3 次救急医療施設への搬送時間の改善や、災害時の避難路あるいは緊急輸送路として貢献するものと期待されている。



図 3 高規格道路の計画図（画像提供：土木部道路建設課）

2. 調整と協議

一般国道 251 号線（島原道路）の事業計画に基づき、2012（平成 24）年から県事業の島原道路建設に伴う埋蔵文化財の取り扱いに関する協議がなされ、2017（平成 29）年度に用地交渉が始まった。

2018（平成 30）年 5 月 28 日、出有明バイパス区間の一部について用地買収がある程度進んだところで、島原振興局道路第二課と学芸文化課、埋蔵文化財センターが現地協議を行った。協議した区間は、既存の島原半島広域農道（雲仙グリーンロード）に併走する幅約 35 m の路線であり、津吹遺跡や長貫 B 遺跡、寺中 A 遺跡に隣接するため、試掘・範囲確認調査が必要であること、9 月以降に調査可能であることを申し合わせた。以降、作付けや用地買収の状況を確認しながら、段階的に試掘・範囲確認調査を実施していった。本調査が必要と判断した場所については、道路建設課と島原振興局道路第二課、学芸文化課、埋蔵文化財センターで協議を行い、道路建設工事の状況を勘案しながら当該年度の本調査地について調整を行った。

3. 調査の概略

これまでの試掘・範囲確認調査の結果により、遺跡の範囲変更と名称変更が行われている。本調査に関する調査番号の対応関係については表 2、調査対象地の位置は図 4 の通りである。調査の結果については各遺跡の章に記載しているので、ここでは省略する。

2021（令和 3）年度の本調査は、4 遺跡 5 地点（対象総面積 5,374 m²）である。調査方法については、原則として 2020（令和 2）年度に実施した島原道路（出有明バイパス）における津吹遺跡本調査（TBK202011）

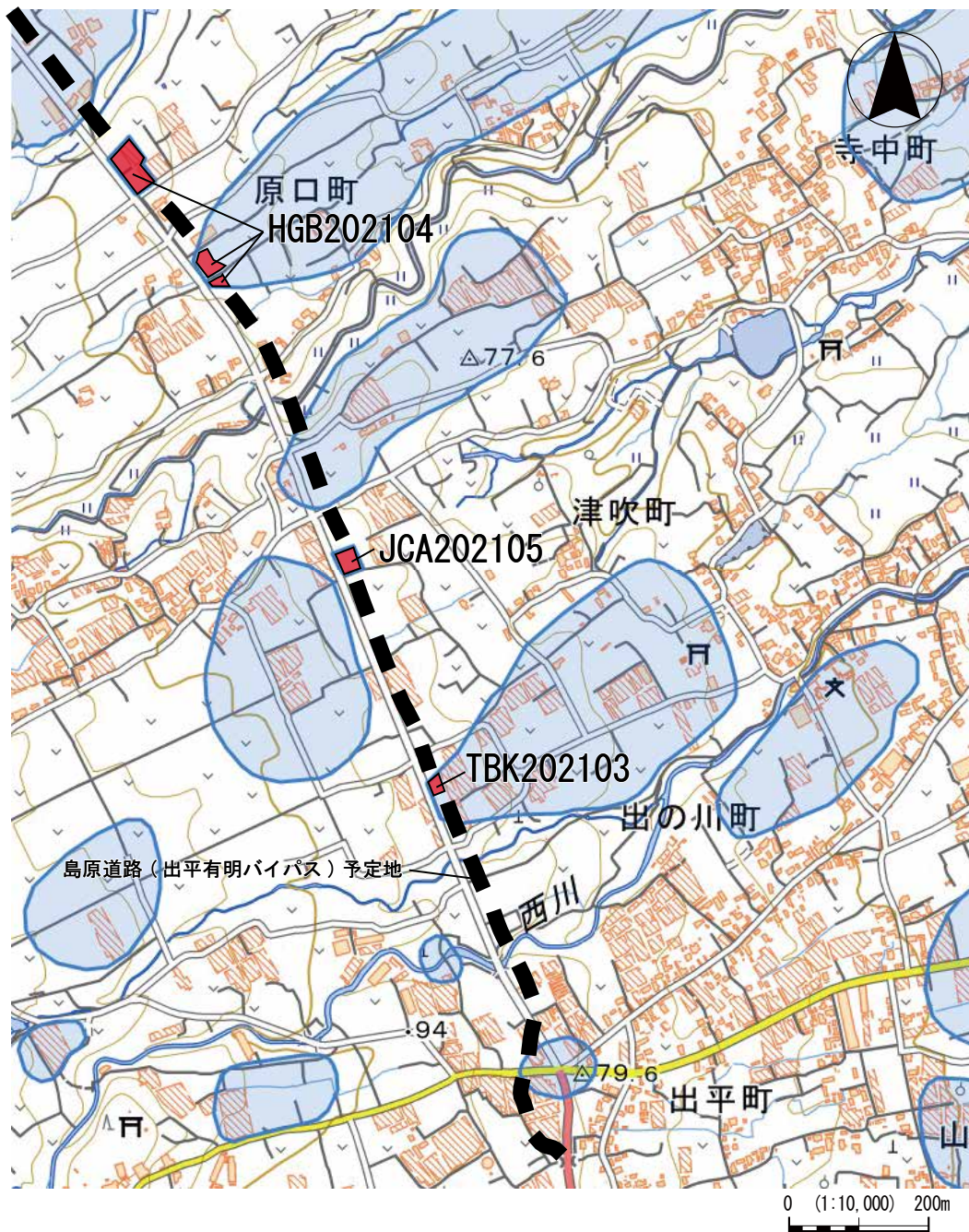


図4 調査地位置図(『長崎県遺跡地図』を加工して作成。点線は高規格道路の線形。)

に準じるものとした。表記の統一を図るため、グリッドは2020(令和2)年度津吹遺跡本調査(TBK202011)と同様に平面直角座標系に基づいて5m×5mで設定した。I層は原則として重機掘削としたが遺物が多く含まれていたIe層のみ人力掘削を行った。II層は人力掘削を行い、事前に実施した試掘・範囲確認調査の結果から遺物包含層の可能性が低いと想定されたIII層は、重機掘削と人力掘削を併用することとした。旧石器時代の遺物包含層の可能性があったIV層以降は、設定した5m×5mグリッドを用いて適宜間隔を空けて調査し、その際遺物の出土や遺構の検出があったグリッドについては、遺物の出土や遺構の検出があったグリッドに隣接する方向に拡張する形で調査を行った。遺物については、必要に応じて出土地点の平面直角座標系における座標と標高値情報を保持させる遺物点上げを行った。

表2 調査番号と遺跡名称の対応表

試掘調査		本調査		遺跡名称変更後
201809	津吹遺跡(隣接地)	202011	津吹遺跡	変更なし
		202103	津吹遺跡	
201911	寺中A遺跡(隣接地)	202105	寺中A遺跡	大高野遺跡
201912	原口B遺跡(隣接地)	202104	原口B遺跡	原口B遺跡
202017	原口B遺跡(隣接地)			上新高野遺跡

層序については、島原半島北部の標準的な土層(川道・辻田 2015)と類似している。但し、調査区によっては島原半島北部の標準的な土層に無い層が確認される場合や、逆に標準的な土層が確認できない場合もあった。このことから、雲仙岳の火山活動を含む様々な自然現象により、土砂移動の影響が場所によって差異があるものと考えられる。このような状況の中、今回、最も北に位置する上新高野遺跡から最も南に位置する津吹遺跡までの全長約1kmの南北に長い範囲における調査を一括して報告するに際しては、基本層序を過去の調査成果を踏まえて以下のとおりI層からIX層に大別し、その中で細分することで整理した。また、土層の用語については、今回の調査が調査状況等の諸事情により火山灰の自然科学分析を実施しておらず科学的な確証が無いことから、「カシノミ」や「始丹沢火山灰降下層」といった特定の年代の自然現象を示す用語の使用は避けることとした。以下に示す土層についての表記や説明は今回報告する4遺跡5地点の土層を包括した概略であり、各遺跡における層序や土層についての内容の詳細については各遺跡の章であらためて報告する。

<今回の報告における基本層序>

I層：現代の耕作土・旧耕作土・造成土等。

I a 層：暗褐色土 (Hue10YR3/3)。現代の耕作土。

I b 層：暗褐色土 (Hue10YR3/4)。現代の耕盤層。

I c 層：暗褐色土 (Hue10YR3/3)。現代の造成土。

I d 層：褐色土 (Hue10YR4/6)。旧耕作土。

I e 層：黒褐色土 (Hue10YR2/3)。旧耕作土。縄文時代～明治時代初頭の遺物が含まれる。

II層：黒色砂質土。縄文時代～中世の遺物包含層。

II a 層：黒色砂質土 (Hue10YR1.7/1)。

II b 層：黒色砂質土 (Hue10YR2/1)。

II c 層：黒褐色砂質土 (Hue10YR3/2)。

II d 層：黒褐色砂質土 (Hue10YR2/2)。漸位層。

II e 層：黒褐色砂質土。津吹遺跡でのみ確認。II a～II d 層相当。

III層：褐色砂質土。縄文時代の遺物包含層。

III a 層：こぶい黄褐色砂質土 (Hue10YR5/4)。縄文時代晩期の遺物包含層。

III b 層：褐色砂質土 (Hue10YR4/6)。遺物が極めて希薄な層。

III c 層：黄褐色砂質土。津吹遺跡のみで確認。III a～III b 層相当。

IV層：暗褐色砂質土。縄文時代早期の遺物包含層。

IV a 層：暗褐色砂質土 (Hue10YR3/3)。

IV b 層：黒褐色粘質土 (Hue10YR2/2)。

II. 調査に至る経緯

V層：黒褐色土。遺物が極めて希薄な層。

V a 層：黒褐色硬質土 (Hue10YR2/2)。クラックが発達する。

V b 層：黒褐色土 (Hue10YR2/2)。硬質土のブロックを含む。

V c 層：暗褐色土 (Hue10YR3/3)。硬質土のブロックを含む。

VI層：褐色硬質土。旧石器時代の遺物包含層。

VI a 層：褐色硬質土 (Hue10YR4/4)。クラックが発達する。

VI b 層：暗褐色硬質土 (Hue10YR3/3)。クラックが発達する。

VI c 層：にぶい黄褐色硬質土 (Hue10YR4/3)。クラックが発達する。

VI d 層：褐色硬質土 (Hue10YR4/6)。クラックが発達する。

VI e 層：褐色硬質土。クラックが発達する。津吹遺跡のみで確認。VI a ～VI d 層相当。

VII層：黒褐色粘質土。旧石器時代の遺物包含層。

VII a 層：黒褐色粘質土 (Hue10YR2/2)。

VII b 層：暗褐色粘質土 (Hue10YR3/3)。

VII c 層：黒褐色粘質土 (Hue10YR2/3)。

VII d 層：にぶい黄褐色粘質土 (Hue10YR4/3)。

VII e 層：暗褐色粘質土 (Hue10YR3/4)。

VIII層：橙色シルト土。無遺物層。

VIII層：橙色シルト土 (Hue7.5YR6/8)。

IX層：黄褐色礫質土。無遺物層。

IX a 層：橙色礫質砂 (Hue7.5YR6/8)。原口 B 遺跡のみで確認。

IX b 層：にぶい橙色礫質砂 (Hue2.5YR6/4)。原口 B 遺跡のみで確認。

IX c 層：にぶい黄褐色シルト土 (Hue10YR5/4)。原口 B 遺跡のみで確認。

IX d 層：明褐色シルト質粗粒砂 (Hue7.5YR5/6)。原口 B 遺跡のみで確認。

4. 調査体制と整理作業・報告書作成

(1) 試掘調査の体制

①津吹遺跡(隣接地) 試掘調査【調査番号：TBK201809】

発掘調査主体者

長崎県教育委員会

発掘調査担当

長崎県埋蔵文化財センター

所長

石橋 明

総務課長

田川正明

調査課長

寺田正剛

調査課主任文化財保護主事

松元一浩

調査課主任文化財保護主事	山梨千晶
調査課文化財調査員	千原和己

②寺中 A 遺跡（隣接地）試掘調査【調査番号：JCA201911】

発掘調査主体者	
長崎県教育委員会	
発掘調査担当	
長崎県埋蔵文化財センター	
所長	石橋 明
総務課長	加治直美
調査課長	寺田正剛
調査課係長	松元一浩

③原口 B 遺跡（隣接地）試掘調査【調査番号：HGB201912】

発掘調査主体者	
長崎県教育委員会	
発掘調査担当	
長崎県埋蔵文化財センター	
所長	石橋 明
総務課長	加治直美
調査課長	寺田正剛
調査課係長	松元一浩

④原口 B 遺跡（隣接地）試掘調査【調査番号：HGB202017】

発掘調査主体者	
長崎県教育委員会	
発掘調査担当	
長崎県埋蔵文化財センター	
所長兼調査課長兼東アジア考古学研究室長	寺田正剛
総務課長	加治直美
調査課係長	松元一浩
調査課主任文化財保護主事	山梨千晶

(2) 本調査の体制

2021（令和 3）年度に行った津吹遺跡【TBK202103】、原口 B 遺跡・上新高野遺跡【HGB202104】、大高野遺跡【JCA202105】の調査体制は共通である。

発掘調査主体者

II. 調査に至る経緯

長崎県教育委員会

発掘調査担当

長崎県埋蔵文化財センター

所長兼調査課長兼東アジア考古学研究室長 寺田正剛

総務課長 加治直美

調査課係長 松元一浩

調査課主任文化財保護主事 濱村一成

調査課主任文化財保護主事 前田加美

調査支援

津吹遺跡等特定埋蔵文化財発掘調査共同体

現場代理人 林 那智

調査主任 坂本雄介

調査員 宮下貴浩

調査員 坂本大海

調査員 深町祥子

現場測量補助 樽谷雅幸

現場測量補助 西条洋樹

現場測量補助 佐々木健生

(3) 整理作業・報告書作成

調査主体者

長崎県教育委員会

整理作業担当

長崎県埋蔵文化財センター

所長兼調査課長兼東アジア考古学研究室長 寺田正剛

総務課長 崎谷恵子

調査課島原分室係長 濱村一成

調査課島原分室主任文化財保護主事 前田加美

調査課文化財調査員 今西亮太

2022(令和4)年3月に記録類と出土遺物を長崎県埋蔵文化財センターに移動し、同年4月から報告書作成に向けた整理作業を実施した。遺物整理は、洗浄、接合、ID番号付与、実測、拓本、デジタルトレース、写真撮影の流れで行った。金属製品の保存処理は、透過X線撮影等の事前調査後、メスやグラインダーなどを用いて錆取り作業を行った。鍛造の鉄製品は脱塩処理後、銅製品はBTA(ベンゾトリアゾール)処理後、アクリル樹脂含浸強化処理を実施した。鉄滓については、クリーニング作業のみ行った。

Ⅲ. 津吹遺跡

1. 過年度調査

(1)2018 (平成 30) 年度の試掘調査【調査番号：TBK201809】

①調査期間と面積

期間：2019 (平成 31) 年 3 月 4 日～同年 3 月 15 日

面積：81.4 m² 所在地：長崎県島原市津吹町乙 1171・415-3 地先

②調査方法

作付けのある畑面を除いた各畑面の南北両端に TP1～10 計 10 か所の試掘坑を設定した。小型のバックホウを用いて表土や耕作土等を掘削し、Ⅱ層（黒ボク）は人力掘削による調査を行った。その下は試掘坑によって人力と機械の併用で掘削した。

③基本層序 ※層序の番号表記は報告当時のままである。

I層：現耕作土・旧耕作土・造成土等。

Ⅱ層：黒色細砂質シルト土（黒ボク）。縄文時代、弥生時代、中世の遺物包含層。

Ⅲ層：褐色細砂質シルト土。縄文時代早期の遺物包含層。

Ⅳ層：黒色細砂質シルト土。縄文時代草創期の遺物包含層。

V層：暗褐色混礫砂質土。カシノミ層。礫石原火砕流由来。硬質ローム層。

Ⅵ層：黒色細砂質シルト土（黒ボク）。

④調査結果

遺物包含層はⅡ～Ⅲ層で、Ⅱ層では縄文時代～弥生時代・中世の土器や石器（扁平打製石斧・石鏃）が、Ⅲ層では縄文時代早期の押型文土器が出土した。Ⅱ～Ⅲ層境が縄文時代後・晩期の、Ⅲ層が縄文時代早期の文化層と考えられた。TP2・3のⅢ層上面では黒褐色土を埋土とするピット状プランが複数検出されたが、いずれも植物痕等の自然攪乱と判断した。TP1～5ではⅡ層が確認できたが、TP6～9ではⅡ・Ⅲ層が削平され残存していない可能性が高い。

⑤協議

遺物包含層の確認された箇所を含むように遺跡範囲を拡張する必要があること。また、当該範囲での工事に際しては協議が必要となることを申し合わせた。

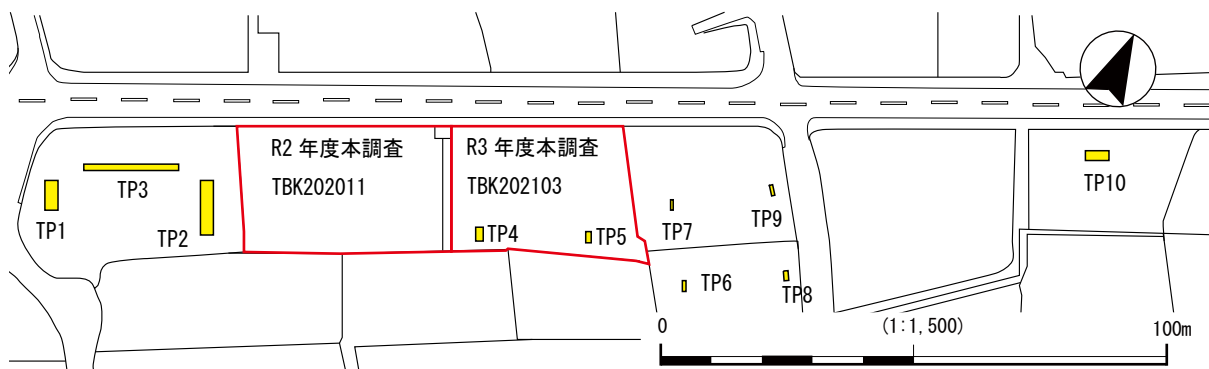


図5 試掘調査と本調査の位置図 (S=1/1,500)

(2)2020(令和2)年度の本調査【TBK202011】

①調査期間と面積

期間：2020(令和2)年11月12日～2021(令和3)年1月27日

面積：1,060 m² 所在地：長崎県島原市津吹町乙1171・乙415-3地先

②調査方法

グリッドは5m×5mで設定した。Ⅱ層を人力掘削し、Ⅲ層上面の検出を行った。調査区北西部で検出した大規模な攪乱範囲は重機で掘削した。Ⅲ層以降は検出したピット及び自然攪乱を掘削調査した。その後、調査区南側を12m×15mの範囲に限りⅢ層を掘削・完掘し、Ⅲ層とⅣ層間に局所的に堆積する砂礫を重機で掘削した。深度が大きくなったため範囲をさらに限定し、Ⅳ層とⅤ層を掘削した。

③基本層序 ※層序の番号表記は報告当時のままである。

I層：黒褐色～灰黄褐色砂質シルト土。しまり極めて弱い。粘性弱い。1cm未満の小礫を10～20%含む。

現代の耕作土。部分的に旧耕作土やⅢ層以下に由来のブロック土が混じる造成土が存在する。

Ⅱ層：黒色細砂質シルト土(黒ボク)。しまりやや弱い。粘性やや弱い。遺物包含層(縄文時代、弥生時代、中世)。

Ⅲ層：褐色中砂質シルト土(火山灰由来か)。しまりやや強い。粘性弱い。小礫、礫を10%程含む。出土遺物なし。

Ⅳ層：黒色中砂質シルト土(黒ボク)。しまり極めて強い。粘性やや強い。1cm未満の小礫、岩片、パミスを10～20%含む。出土遺物なし。

Ⅴ層：暗褐色混礫砂質土(礫石原火砕流の再堆積層か)。しまり極めて強い。粘性極めて弱い。浅黄～橙色を呈する1cm未満の小礫、岩片が90%を占める。出土遺物なし。

④調査結果

Ⅱ層最下層で直径5mに収まるほどの硬化土範囲を検出したが、成因は不明であり積極的に遺構と評価できなかった。Ⅲ層上面で溝状遺構1条、ピット38基を確認した。いずれもⅡ層由来の土を埋土としていことから、本来的にはⅡ層中の遺構と考えられる。溝状遺構は埋土状況から近現代の可能性が考えられる。ピットの分布状況は建物跡や柵列等の配置は認められない。ほかに多数の自然攪乱(樹痕・倒木痕等)を検出した。Ⅲ層とⅣ層間の局所的に堆積する砂礫は、調査地より上位に堆積していた礫石原火砕流等が、雨水等の影響で再堆積した可能性がある(雲仙岳災害記念館・長井氏の御教示)。遺物は、土器・陶磁器・石製品・鉄製品がコンテナケース4箱分出土した。

2. 本調査【TBK202103】

(1) 調査概要

①調査期間と面積

期間：2021(令和3)年7月2日～2021(令和3)年9月29日

面積：487 m² 所在地：長崎県島原市津吹町乙1124-1・乙1125-1

②調査の方法

グリッドは5m×5mで設定し、北西交点(グリッドの左上)を基準にX座標の百の位、十の位、Y座標

の百の位、十の位の数字を組み合わせた4桁の番号と、A～Dのアルファベットを北西、北東、南西、南東の順に付与したものをグリッド名とした。さらに、5mピッチのグリッド内に2m×2mの小グリッドと1mのベルトを設定し、グリッド名に加えてa～dのアルファベットを北西、北東、南西、南東の順に付与したものの小グリッド名とした。

表土を重機で除去したあと、人力掘削で行った。調査対象は、過年度の調査結果からⅢ層上面までとした。攪乱坑は、攪乱坑内の遺物が遺物包含層に混入することを防ぐために包含層掘削前の完掘を基本としたが、現場の安全を優先して一部は段下げに留めた。遺物は、比較的大きなものや特徴的なものは座標と標高値情報を保持させる遺物点上げを行った。

③発掘作業の経過

道路工事の日程から調査区とバックヤードの明け渡しが2021(令和3)年10月になり、調査は撤収も含め9月末となった。発掘調査支援業者との現地協議は同年7月5日に行い、環境整備と現況測量を行った。調査区中央の攪乱坑を排土置場に利用し、重機を据えて常時処理を行った。人力掘削完了後に空撮、記録作業と並行して次の調査区である大高野遺跡への移動を開始し、9月末までに調査と撤収を完了した。

④調査結果の概要

遺構は積極的に認定できるものはなかった。遺物は土器・陶磁器類が約980点、石器が約30点、金属製品が約10点、合計約1,020点出土した。

(2) 層序

基本層序は以下の通り。なお、層序の番号表記については、Ⅱ-3. 調査の概略で述べた通り、今回報告する4遺跡5地点の土層を総括して付与した番号である。

I層：現代の耕作土・旧耕作土・造成土等。

I a層：暗褐色土(Hue10YR3/3)。現代の耕作土。

I b層：暗褐色土(Hue10YR3/4)。現代の耕盤層。

I c層：暗褐色土(Hue10YR3/3)。現代の造成土。

I e層：黒褐色土(Hue10YR2/3)。縄文時代～明治時代初頭の遺物包含層。旧耕作土。

Ⅱ層：黒色砂質土。縄文時代～中世の遺物包含層。

Ⅱ e層：黒褐色砂質土。津吹遺跡のみで確認。Ⅱ a～Ⅱ d層相当。

Ⅲ層：褐色砂質土。縄文時代の遺物包含層。

Ⅲ c層：黄褐色砂質土。津吹遺跡のみで確認。Ⅲ a～Ⅲ b層相当。

Ⅳ層：暗褐色砂質土。縄文時代早期の遺物包含層。

Ⅳ a層：暗褐色砂質土(Hue10YR3/3)。

V層：黒褐色土。遺物が極めて希薄な層。

V b層：黒褐色土(Hue10YR2/2)。硬質土のブロック含む。

Ⅵ層：褐色硬質土。旧石器時代の遺物包含層。

Ⅵ e層：褐色硬質土。クラックが発達する。津吹遺跡のみで確認。Ⅵ a～Ⅵ d層。

Ⅶ層：黒褐色粘質土。旧石器時代の遺物包含層。

Ⅶ a層：黒褐色粘質土(Hue10YR2/2)。

VII d 層：にぶい黄褐色粘質土 (Hue10YR4/3)。

VIII層：橙色シルト土。無遺物層。

VIII層：橙色シルト土 (Hue7.5YR6/8)。

雲仙グリーンロードに面する調査区北西側はVI層（褐色硬質土）まで削平を受けているが、南西側ではII e 層が比較的厚く残存していた。北壁の土層図から勾配を計算すると約 11%あり、旧地形は北西方向から南東方向にある谷へと落ち込むやや急な傾斜地に復元できる。

II e 層の主体となる遺物は弥生土器と縄文土器であるが、III c 層上面に近くなると縄文土器が主体となる傾向がある。

(3) 遺構

III c 層上面及び削平により表土直下で露出したVI e 層で多数のピット状プランを検出した。いずれも平面プランは略円形で底面は不整形であり、埋土はII e 層由来の黒褐色土で遺物は無かった。建物跡や柵列のような柱穴配置も認められず、積極的に遺構と認定できるものは無かった。状況から樹痕と考えられる。

(4) 遺物

①I層の遺物

1は二次加工痕のある黒曜石製剥片である。縄文時代晩期の石鋸未成品か。2は二次加工痕のある安山岩製剥片である。片側の側面に抉りと調整痕がある。ツール未成品か。そのほか、鉄製品の小片や鉄滓が出土している。椀形滓については、表4、写真9を参照。

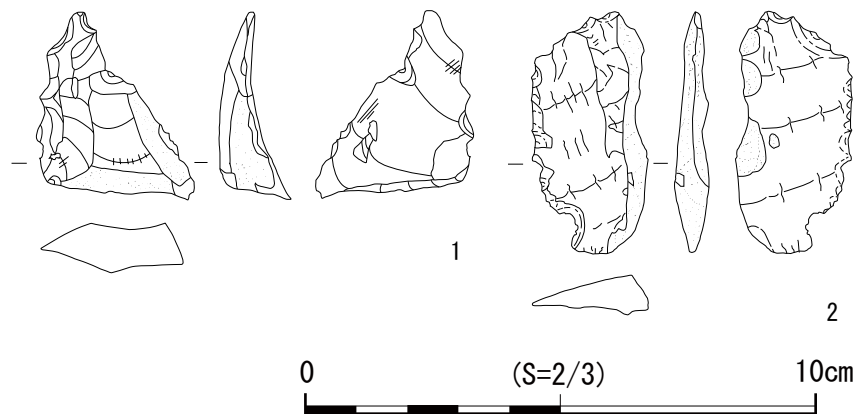


図6 I層出土遺物 (S=2/3)

表3 遺物一覧 (I層出土石器)

番号	ID	出土位置	器種	石材	法量 (cm・g)				調整ほか特徴	備考
					長さ	幅	厚み	g		
1	5006	Gr4946A I e層	剥片	黒曜石	3.6	3.1	0.9	7.17	二次加工あり	
2	5018	Gr5246D I e層	剥片	安山岩	4.8	2.3	0.8	7.13	二次加工あり	

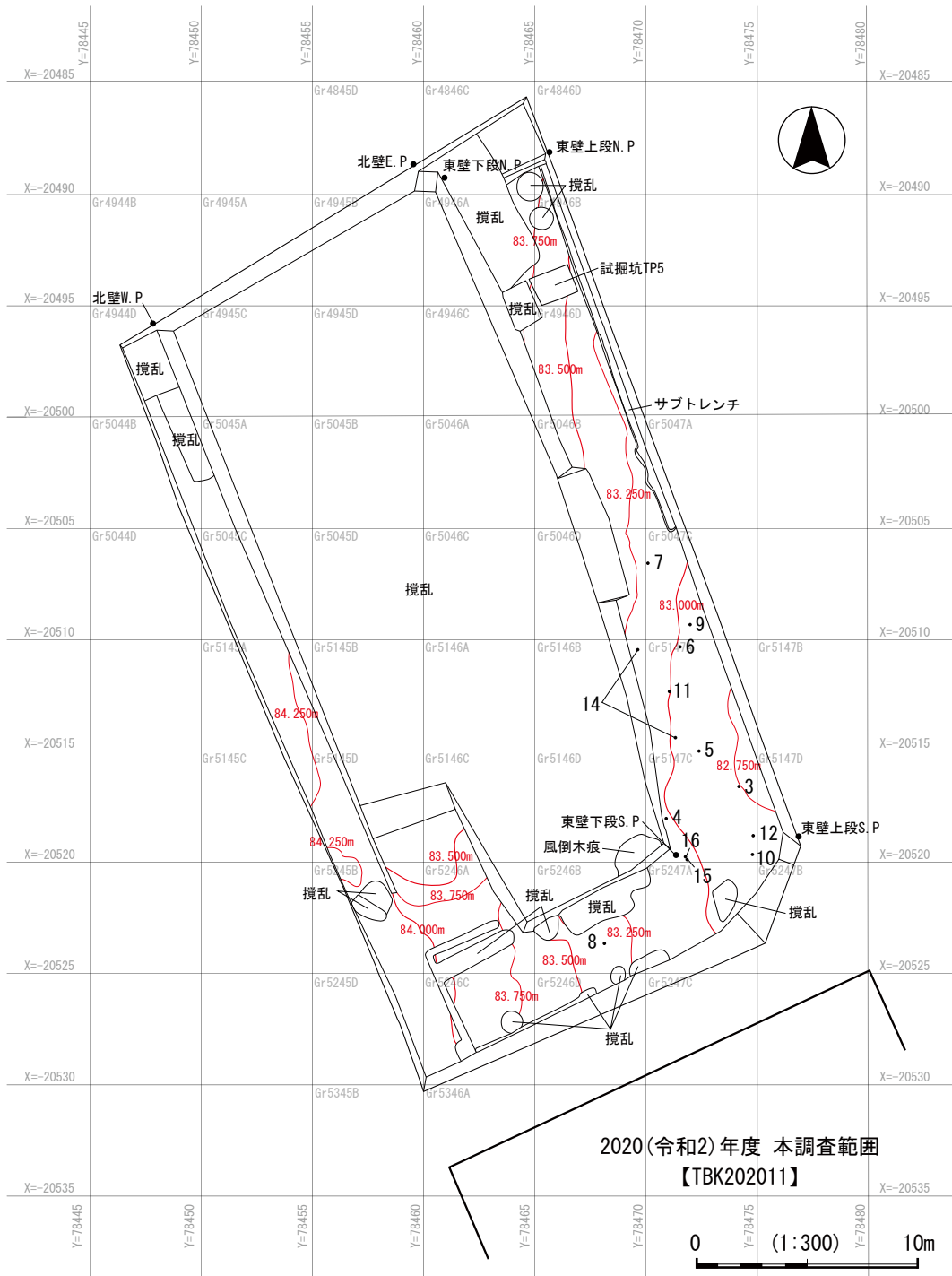


図7 平面図及び等高線図 (S=1/300)

表4 遺物一覧(Ⅱ層出土椀形滓)

番号	ID	出土位置	器種	材質	法量 (cm・g)				備考
					長さ	幅	厚み	g	
—	9002	Gr5247AⅡ層	鉄滓	鉄	7.8	5.0	1.9	109.43	椀形滓。写真9に掲載。

②Ⅱ層の遺物

3は縄文時代晩期後葉の深鉢である。外面は条痕文が施され、内面はミガキが施される。4は縄文時代後期から晩期にかけての鉢である。5は縄文時代晩期の条痕文土器である。胴部片外面に貝殻条痕が施される。外面にミガキが施される。6は縄文土器胴部片である。粘土紐の輪積痕が残る。7は弥生時代中期の甕である。8は弥生時代後期の複合口縁壺である。9、10は弥生の台付甕胴部片である。どちらも台部は欠損する。11は手捏ねによるミニチュア土器である。内面に指押さえ痕が残り、外面にナデ、ハケメが施される。

12は安山岩製の打製石斧である。基部と刃部の一部が欠損する。13はサヌカイト製剥片である。表面の風化が著しい。

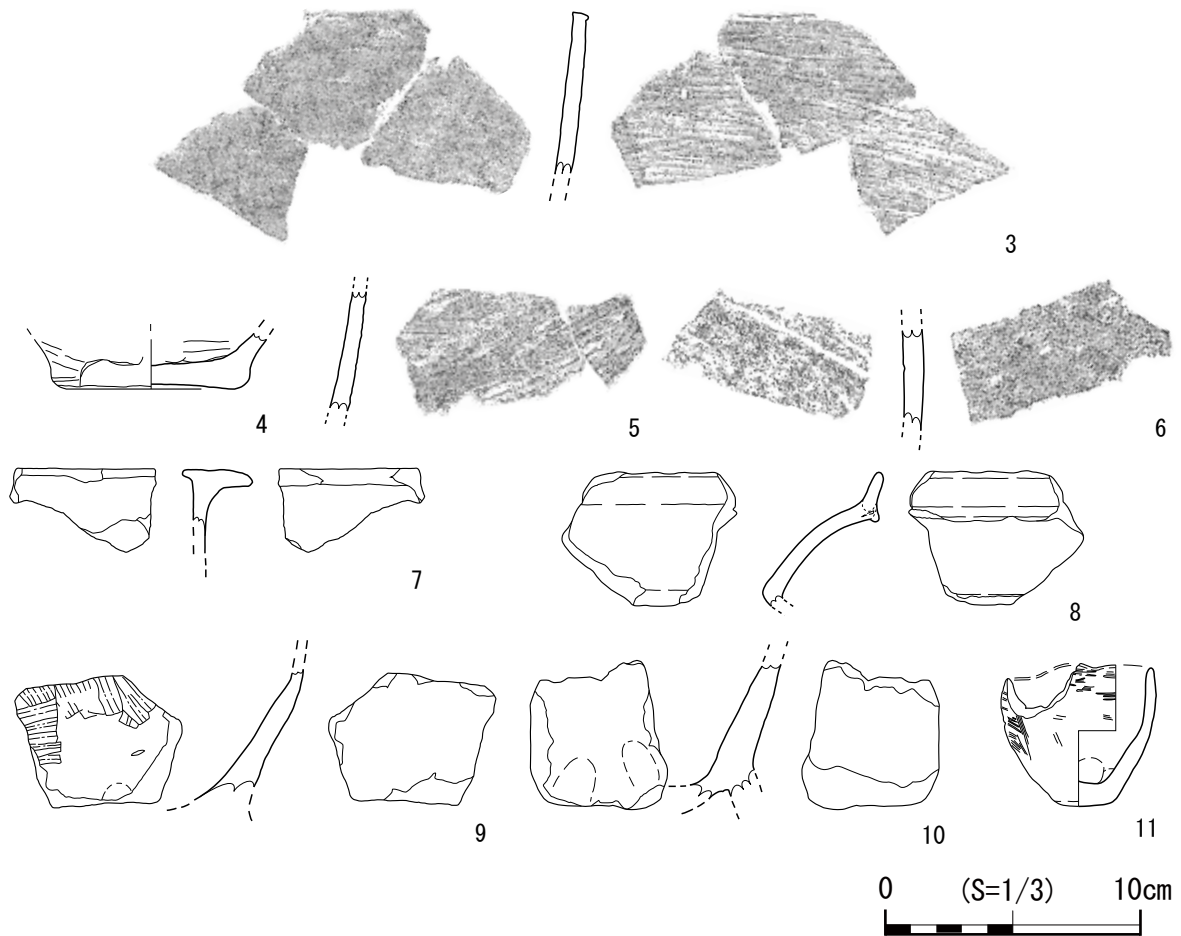


図10 Ⅱ層出土遺物1(S=1/3)

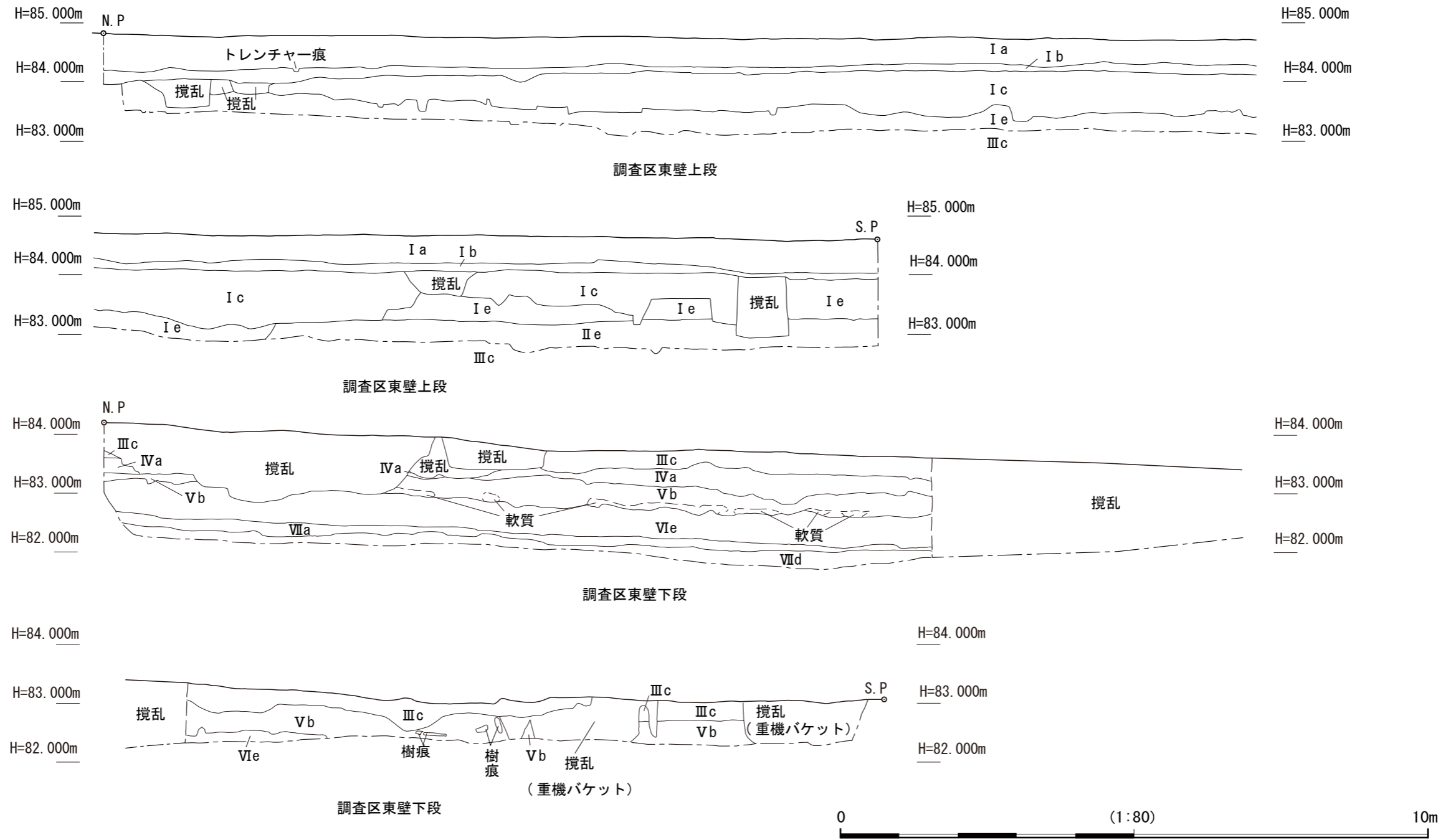
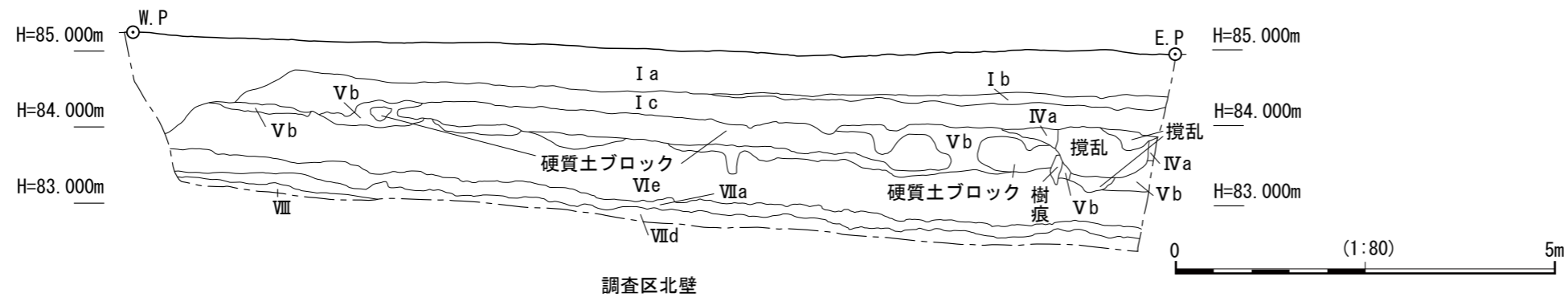


図8 調査区東壁土層断面図 (S=1/80)



<土層注記>

- I a層：暗褐色土 (Hue10YR3/3)
現代の耕作土。しまり弱い。細～中礫を30%、100～200mm程度の黒褐色硬質土 (Hue10YR2/2) とにぶい黄褐色硬質土 (Hue10YR5/4) のブロックを30%含む。ビニール紐が混入する。
- I b層：暗褐色土 (Hue10YR3/4)
現代の耕盤層。しまりやや強い。2～8mmの顆粒 (肥料か) を25%、炭化物を少量含む。I a層との境には100mm大の玄武岩の超角礫が入る。
- I c層：暗褐色土 (Hue10YR3/3)
現代の造成土。しまりやや弱い。粗粒砂を25%、3～10mmの顆粒 (肥料か) を10%、100～200mm程度の黒褐色硬質土 (Hue10YR2/2) と、にぶい黄褐色硬質土 (Hue10YR5/4) のブロックを5%、60～150mm程度の垂角礫を含む。
- I e層：黒褐色土 (Hue10YR2/3)
旧耕作土。縄文時代～明治時代初頭の遺物が含まれる。しまりやや弱い。10mm程度の礫を少量含む。II e層と土色が非常に近似している。II e層が攪乱を受けてきた層と考えられる。

- II e層：黒褐色砂質土
津吹遺跡のみで確認。II a～II d層相当。しまりやや強い。上位から下位にいくにつれて黒褐色 (Hue10YR2/2) から黒色 (Hue10YR2/1)、暗褐色 (Hue10YR3/3) へとグラデーション状に変化する。2～5mm程度の白色粒子を8%程度含む。縄文時代後晩期から弥生時代の土器片が出土する。土器は大半が小片であるが、磨滅の程度は比較的軽く、同じグリッド内や周辺で接合するものがみられる。
- III c層：黄褐色砂質土
津吹遺跡のみで確認。III a～III b層相当。しまり強い。1～3mmの白色粒子を30%程度含む。上位の土色は灰色味を帯び、上面から縄文時代晩期の土器が出土する。中位～下位は黄褐色 (Hue10YR4/4) を呈す。
- IV a層：暗褐色砂質土 (Hue10YR3/3)
しまりやや弱い。1～3mm程度の白色粒子を1%含む。10～20mm程度の褐色の斑文が入り、上位ほど斑紋の密度は濃く、下位に行くにつれて薄くなる。

- V b層：黒褐色土 (Hue10YR2/2)
硬質土のブロックを含む層。黒褐色土は2mm前後の白色粒子を3%含む。硬質土はしまりが非常に強く、クラックが発達し、2mm前後の白色粒子を40%、5～10mm程度の白色粒子を5%含む。部分的に土色が灰黄褐色 (Hue10YR4/2) を呈するところや、軟質 (しまりが弱い) ところがある。
- VI e層：褐色硬質土
クラックが発達する。津吹遺跡のみで確認。VI a～VI d層相当。土色及び含有物は、上位が暗褐色 (Hue10YR3/3) で1～5mm程度の白色粒子を45%程度、中位がにぶい黄褐色 (Hue10YR5/3) で1～5mm程度の白色粒子を60%、下位がにぶい黄褐色 (Hue10YR5/3) で1～5mm程度の白色粒子を15%含む。
- VII a層：黒褐色粘質土 (Hue10YR2/2)
しまり弱い。1～3mmの白色粒子を1%含む。
- VII d層：にぶい黄褐色粘質土 (Hue10YR4/3)
VIII層との漸移層。しまり強い。1～3mm程度の白色粒子をごく少量含む。
- VIII層：褐色シルト土 (Hue7.5YR6/8)
しまりやや弱い。直径500mm前後の垂円礫を含む。

図9 調査区北壁土層断面図 (S=1/80)

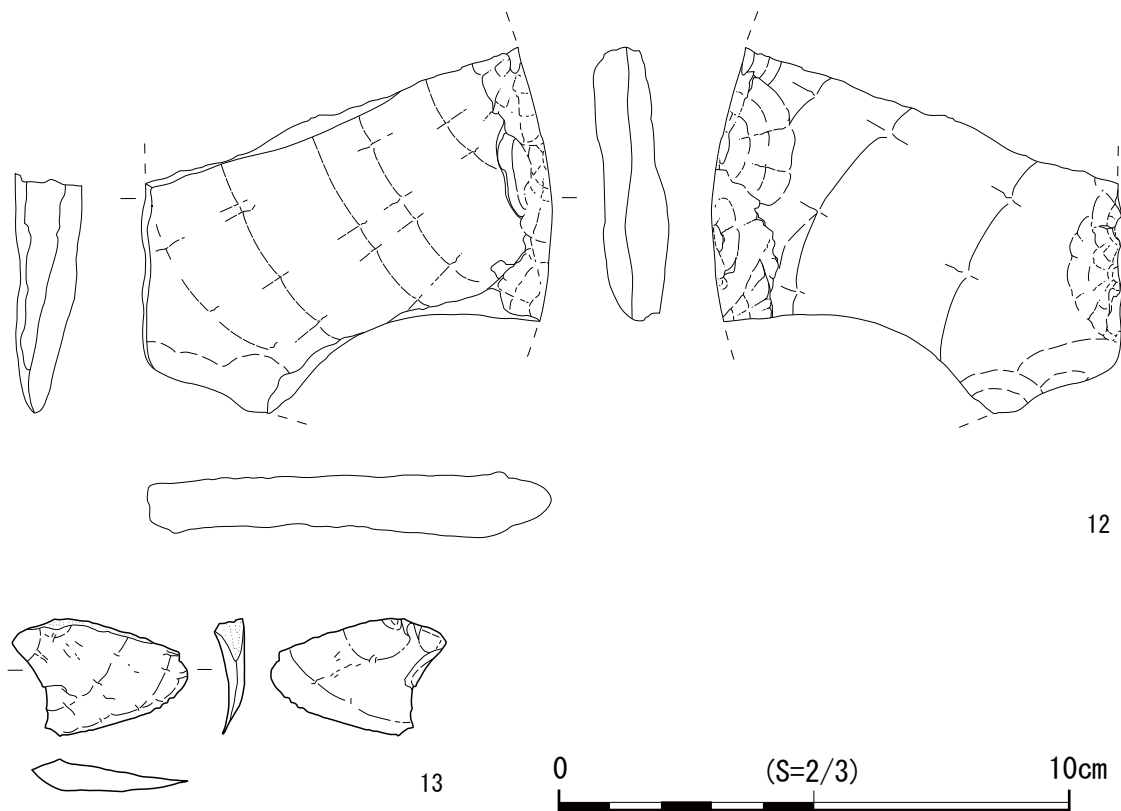


図 11 II層出土遺物 2(S=2/3)

表 5 遺物一覧 (II層出土土器)

番号	ID	出土位置	種別・器種 型式・時期	部位	法量 (cm)			調整ほか特徴	色調 上段：外面 下段：内面	備考
					器高	口径	底径			
3	0017	Gr5147C II層下位P17	縄文晩期後葉 浅鉢	胴	-	-	-	外】条痕 内】ミガキ (研磨調整)	5YR5/4にぶい赤褐 7.5YR5/4にぶい橙	黒川式頃
4	0010	Gr5147C II層下位P10	縄文後期～晩 期 鉢	底	-	-	(7.9)	外】ミガキ	5YR6/4にぶい橙 10YR7/4にぶい黄橙	
5	0009	Gr5147C II層下位P9	縄文晩期 条痕文土器	胴	-	-	-	外】貝殻条痕、ナデ消し 内】ミガキ	7.5YR6/6橙 7.5YR6/6橙	
6	0014	Gr5147A II層下位P14	縄文 土器片	胴	-	-	-	外】ナデ	10YR5/3にぶい黄褐 2.5Y7/3浅黄	粘土紐の輪積痕あり
7	0006	Gr5047C II層中位P6	弥生 甕	口	-	-	-	内】ハケメ	2.5Y7/3浅黄 2.5Y8/4淡黄	鋤先口縁
8	0001	Gr5246B II層中位P1	弥生後期 複合口縁壺		-	-	-		7.5Y5/1灰 2.5Y5/2暗灰黄	
9	0011	Gr5047C II層中位P11	弥生 台付甕	胴	-	-	-	内】ハケメ	10YR5/6黄褐 10YR4/1褐灰	台部欠損。
10	0013	Gr5147C II層中位P13	弥生 台付甕	胴	-	-	-	内】指押さえ痕	10YR6/6明黄褐 7.5YR6/6橙	台部欠損。
11	0005	Gr5147A II層中位P5	弥生 鉢 ミニチュア土器		5.5	5.8	2.2	外】ナデ、ハケメ 内】指押さえ痕	7.5Y6/6橙 5Y6/6橙	1/3欠損。丸底に近い

表 6 遺物一覧（Ⅱ層出土石器）

番号	ID	出土位置	器種	石材	法量 (cm・g)				調整ほか特徴	備考
					長さ	幅	厚み	g		
12	5001	Gr5147C Ⅱ層下位	扁平打製石斧	安山岩	7.25	8.15	1.3	85.08	基部と刃部の一部欠損	
13	5002	Gr5247A Ⅱ層下位	剥片	ガラス質性安山岩 (サヌカイト)	2.4	3.5	0.6	2.91	全体的に風化する	

③Ⅲ層の遺物

14 は縄文時代晩期の浅鉢である。両面にミガキが施される。15 は縄文時代晩期の深鉢である。底部に筋状の圧痕がある。16 は弥生時代の甕である。底部がやや上げ底気味になる。

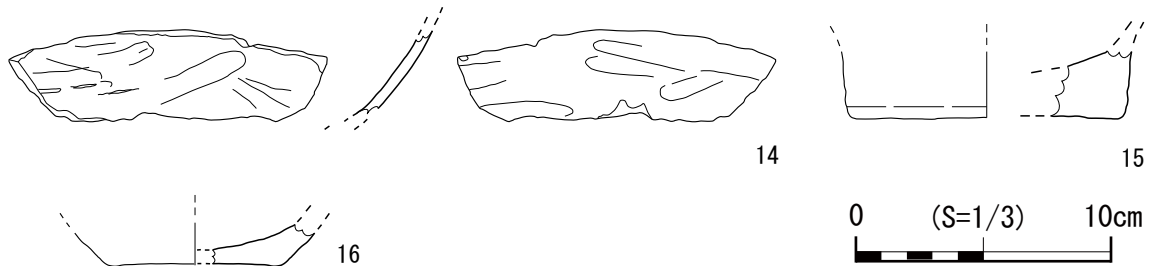


図 12 Ⅲ層出土遺物 (S=1/3)

表 7 遺物一覧（Ⅲ層出土土器）

番号	ID	出土位置	種別・器種 型式・時期	部位	法量 (cm)			調整ほか特徴	色調 上段：外面 下段：内面	備考
					器高	口径	底径			
14	0012	Gr5147A Ⅲ層上位	縄文晩期 浅鉢	胴	-	-	-	内・外】ミガキ	10YR5/4にぶい黄褐 10YR4/4褐色	
15	0007	Gr5147C Ⅲ層上位	縄文晩期 深鉢	底部	-	-	(10.6)	底】筋状の圧痕	10YR6/6暗黄褐 10YR6/4にぶい黄橙	底部残存1/6程度
16	0020	Gr5147C Ⅲ層上位	弥生 甕	底部	-	-	(6.8)	やや上げ底	10YR6/4にぶい黄色橙 2.5Y7/2灰黄色	

(5) 自然科学分析

①黒曜石、安山岩産地推定

長崎県埋蔵文化財センターでは、2014（平成 26）年以來、主に九州圏内から産出する黒曜石原石の分析データを蓄積し、遺跡出土黒曜石の産地推定を実施している（片多 2015、川道ほか 2018）。また、2022（令和 4）年度から新たに安山岩の分析データを蓄積し、産地推定を実施している。今回の津吹遺跡発掘調査で出土した 7 点の資料（図 14）を対象に、分析した結果を報告する。

分析には、エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置を用いて非破壊で定性分析を実施し、判別図法によって原産地を推定している。装置の使用及び分析条件は以下のとおり。エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置：SSI ナノテクノロジー社（現株式会社日立ハイテクサイエンス）製「SEA1200VX」を使用した。下面照射式で照射径は 8 Φ、Rh（ロジウム）管球、SDD 検出器で液体窒素を必要としない。分析状況は管電圧 40 kV で、管電流は抵抗値によって自動設定とした。大気雰囲気測定時間は 100 秒（デッドタイム 30%前後でのライブタイム）で分析を行った。分析資料は極力石器表面が均一で、風化していない面を測定した。

産地推定の手法は、検出した元素のうち、K（カリウム）、Mn（マンガン）、Fe（鉄）、Rb（ルビジウム）、Sr（ス

トロンチウム)、Y (イットリウム)、Zr (ジルコニウム) の7元素のX線強度 (CPS 値 : Count Per Second/1秒間に蛍光 X 線を検出した量) から下記の①～④のパラメータを用いて①・②の散布図 (以下、Rb 散布図) と、③・④の散布図 (以下、Sr 散布図) の2種類の散布図 (判別図) を作成するという望月明彦氏の開発した手法に基づいている (望月 1997)。

- ① Mn 強度×100 / Fe 強度
- ② Rb 分率 = {Rb 強度×100 / (Rb 強度+ Sr 強度+ Y 強度+ Zr 強度) }
- ③ Log (Fe 強度 / K 強度)
- ④ Sr 分率 = {Sr 強度×100} / (Rb 強度+ Sr 強度+ Y 強度+ Zr 強度) }

分析結果を表 8 に、判別図を図 13 に示す。分析 ID にはセンターが出土品に付与し、管理している遺物 ID (遺跡調査番号 - 遺物番号) を使用している。今回報告する分析結果は、2022(令和 4)年 12 月 14 日時点までの原産地データの成果を利用した。

分析の結果、黒曜石は 5 点のうち 4 点 ([5005]、[5006]、[5021]、[5023]) が『腰岳系 (腰岳・有田川・松浦Ⅲ群・古里海岸⑥)』を示した。2019(平成 31)年度の津吹遺跡の調査では黒曜石 47 点中 44 点が腰岳系と分析結果が出ており、前回調査と比べても今回調査での出土点数は少ないものの、津吹遺跡では腰岳系の黒曜石を主に利用していた可能性が伺える。また、[5018] は『多久産』を示した。多久系のサヌカイトは前回調査でも出土しており、島原半島における当時の黒曜石、安山岩の流通を調べる上で一助になると考えられる。

【参考文献】

片多雅樹 2015「判別法を用いた黒曜石の安置推定～基礎データの構築～」『長崎県埋蔵文化財センター研究紀要第 5 号』長崎県埋蔵文化財センター

川道寛・隅田祥光・片多雅樹・辻田直人 2018「原産地判別プログラムを用いた黒曜石製石器の産地同定」『九州旧石器第 22 号』九州旧石器文化研究会

望月明彦 1997「蛍光 X 線分析による中部・関東地方の黒曜石産地の判別」『X 線分析の進歩第 28 集』アグネ技術センター

長崎県教育委員会 2022『津吹遺跡』長崎県埋蔵文化財センター調査報告書第 41 集

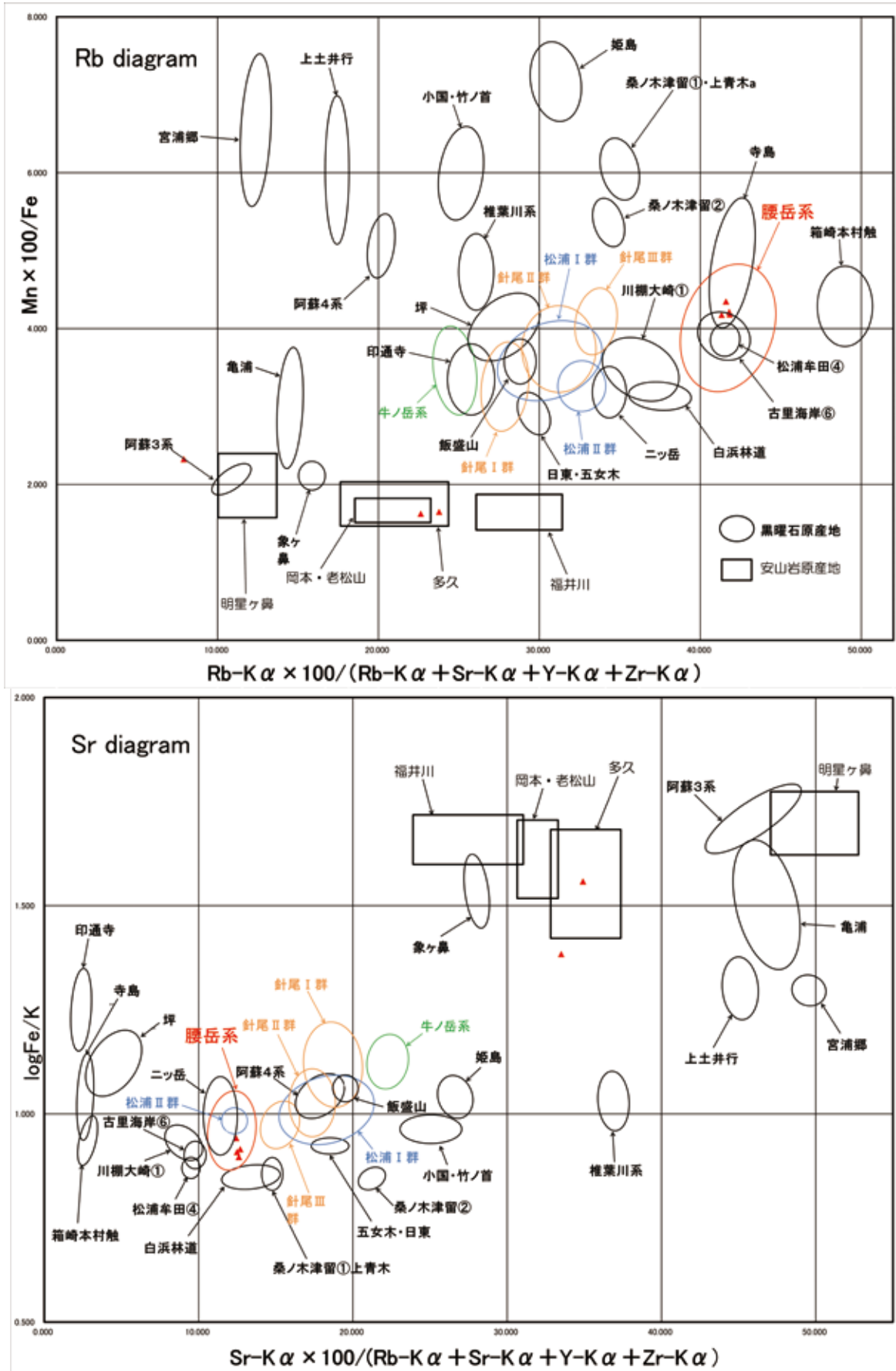


図 13 黒曜石・安山岩産地推定判別図 (上: Rb 分率 vs Mn/Fe、下: Sr 分率 vs Fe/K)

表 8 黑曜石・安山岩分析結果一覽

ID	出土位置	系・群	K	Mn	Fe	Rb	Sr	Y	Zr	Rb分率	Mn × 100/Fe	Sr分率	log Fe/K	備考
5001	Gr5147C II層下位 P18	產地不明	39.68	97.44	4193.65	63.89	413.49	49.01	282.09	7.90	2.32	51.14	2.02	
5002	Gr5247A II層下位	多久産か	78.96	31.46	1910.02	192.25	270.95	80.44	265.15	23.77	1.65	33.50	1.38	
5005	Gr4946D I e層	腰岳系	69.05	22.92	543.78	301.04	90.83	124.18	204.18	41.80	4.21	12.61	0.90	
5006	Gr4946A I e層	腰岳系	67.47	22.84	546.35	302.61	90.37	124.96	205.48	41.83	4.18	12.49	0.91	
5018	Gr5246D I e層	多久産	61.14	35.88	2209.76	182.32	281.28	78.90	263.22	22.63	1.62	34.91	1.56	
5021	Gr5046B I e層	腰岳系	63.58	21.83	522.89	290.25	89.20	119.36	203.63	41.32	4.18	12.70	0.92	
5023	Gr5046B I e層	腰岳系	61.58	23.41	538.57	295.08	88.24	123.19	202.87	41.60	4.35	12.44	0.94	



図 14 分析資料



写真9 出土遺物



写真10 着手前調査区風景（北西方向から）



写真11 完掘状況調査区風景（南方向から）



写真12 II e層検出状況（南西方向から）



写真13 II e層検出状況（南東方向から）



写真14 調査区南側完掘状況（北東方向から）



写真15 調査区東側完掘状況（南東方向から）



写真16 調査区西側完掘状況（南方向から）



写真17 調査区東側完掘状況（北西方向から）

III. 津吹遺跡



写真 18 北壁土層堆積状況（南東方向から）



写真 19 東壁土層堆積状況 1（南西方向から）



写真 20 東壁土層堆積状況 2（南西方向から）



写真 21 東壁土層堆積状況 3（南西方向から）



写真 22 東壁土層堆積状況 4（南西方向から）

IV. 原口B遺跡

1. 試掘調査

(1)2019(令和元)年度の試掘調査【調査番号:HGB201912】

①調査期間と面積

期間:2020(令和2)年1月14日~同年1月31日

面積:38㎡ 所在地:長崎県島原市原口町丙397地先

②調査の方法

立ち入り可能となった畑面に2m×3mを基本とした試掘坑を地点3に3か所、地点4に2か所、地点5に1か所の計6か所設定した。※地点3、地点4が原口B遺跡の範囲。

③基本層序 ※層序の番号表記は報告当時のままである。

I層:造成土等。

II層:黒ボク。縄文時代前期から中世の遺物包含層。

III層:褐色細砂質土。鬼界アカホヤ火山灰層由来か。ほぼ無遺物か。

IV層:黒ボク。後期旧石器時代~縄文時代相当か。

V層:黒褐色混パミス硬質土。通称カシノミ層:礫石原火砕流由来。後期旧石器時代相当か。

VI層:褐色硬質土。始良丹沢火山灰層由来か。後期旧石器時代相当。

VII層:黒ボク。

VIII層:橙色シルト土。

④調査結果

地点3では部分的にII層やIII層が残存するが、大部分はV層またはVI層まで掘削を受けている。地点4では耕作土下に105~170cmの造成土があり、その下はII層中まで削平を受けている。

地点3TP1のVI層で旧石器時代の所産とみられる黒曜石剥片3点が出土した。地点4TP1のII層とIII層の境でピット3基を検出したほか、II層とIII層で弥生土器や縄文土器の破片が出土した。

⑤協議

工事に際しては本調査についての協議が必要である。

(2)2020(令和2)年度の試掘調査【調査番号:HGB202017】

①調査期間と面積

期間:2021(令和3)年2月2日~同年2月26日

面積:55㎡ 所在地:長崎県島原市原口町388-1地先

②調査の方法

立ち入り可能となった畑面に試掘坑をTP26・27・30~35の計8か所設定した。※TP33~35原口B遺跡の範囲。

③基本層序 ※層序の番号表記は報告当時のままである。

I層:耕作土等。

II層:黒ボク。縄文時代前期~中世の遺物包含層。

Ⅲ層：褐色砂質土。鬼界アカホヤ火山灰由来か。

Ⅳ層：黒ボク。縄文時代早期か。

Ⅴ層：黒褐色混パミス硬質土。通称カンノミ層。礫石原火砕流由来か。後期旧石器時代相当か。

Ⅵ層：褐色硬質土。始良丹沢火山灰由来か。後期旧石器時代相当。

Ⅶ層：黒ボク。

Ⅷ層：黄橙色シルト土。

④調査結果

Ⅱ層はいずれの試掘坑でも削平されており、試掘坑によってはいずれかの層が欠落している場合がある。また、TP33ではⅥ層上半以上が削平を受けている。TP34、35は周辺地形から谷部にあたるものと考えられるが、造成土下でⅥ層やⅧ層由来のブロックを含む黄褐色土の堆積が見られ、さらに黄褐色土下では一本松火砕流由来と考えられる硬質混礫砂質土を確認した。火砕流あるいは土石流が谷部を流下したことによる堆積と考えられる。TP33の表土から遺物が出土した。

⑤協議

TP33～35については、本調査は不要と判断した。



図 15 試掘調査と本調査の位置図 (S=1/800)

2. 本調査 【HGB202104】

(1) 調査概要

①調査期間と面積

期間：2021（令和3）年7月2日～2022（令和4）年1月31日

面積：1,325㎡ 所在地：長崎県島原市原口町丙382-5、丙994-1

②調査の方法

グリッドは5m×5mで設定し、北西交点（グリッドの左上）を基準にX座標の百の位、十の位、Y座標の百の位、十の位の数字を組み合わせた4桁の番号と、A～Dのアルファベットを北西、北東、南西、南

東の順に付与したものをグリッド名とした。さらに、グリッド内に2m×2mの小グリッドと1mのベルトを設定し、a～dのアルファベットを北西、北東、南西、南東の順に付与したものを小グリッド名とした。サブレンチは、1区はT字状に3か所、2区はL字状に2か所に設定した。

掘削は、表土・造成土・大規模な攪乱坑は重機掘削、遺構確認作業は人力掘削で行った。土坑等は半截、完掘の手順で行った。樹痕を含む攪乱等は、内包物が包含層出土遺物に混入することを防ぐため基本完掘としたが、一部は安全を優先して段下げに留めた。VI層以下は等間隔に選定した小グリッドから掘削し、状況に応じて掘削範囲を拡張した。遺物は、V層まではグリッドごとの取り上げを基本とし、VI層以下はすべて座標と標高値の情報を記録しながら取り上げを行った。

③発掘作業の経過

発掘調査支援業者との現地協議は同年7月5日に行った。環境整備と現況測量を行ったあと、調査は1区から着手した。表土を除去し、精査完了後に空撮と記録作業を行い、1区の埋め戻し作業と2区の表土及び造成土の除去を行った。2区の精査完了後、空撮と記録作業を行い、追加の下層確認後に埋め戻しを行って調査を完了した。

④調査結果の概要

遺構は積極的に認定できるものはなかった。2区で谷を検出した。遺物は、土器・陶磁器類が約770点、石器が約370点、金属製品が約110点、合計約2,240点出土した。谷の埋土からは縄文土器と黒曜石剥片合わせて11点が出土した(写真23)。石器のうちVI a～VII a層から出土したものは約40点である。

(2) 層序

基本層序は以下の通り。なお、層序の番号表記については、II-3. 調査の概略で述べた通り、今回報告する4遺跡5地点の土層を総括して付与した番号である。

①1区の基本層序

I層：現代の耕作土・旧耕作土・造成土等。

I a層：暗褐色土(Hue10YR3/3)。現代の耕作土。しまり弱い。

I d層：褐色土(Hue10YR4/6)。旧耕作土。しまり弱い。

V層：黒褐色土。遺物が極めて希薄な層。

V a層：黒褐色硬質土(Hue10YR2/2)。クラックが発達する。

V c層：暗褐色土(Hue10YR3/3)。硬質土のブロックを含む。

VI層：褐色硬質土。旧石器時代の遺物包含層。

VI a層：褐色硬質土(Hue10YR3/3)。クラックが発達する。

VI b層：黒褐色硬質土(Hue10YR2/2)。クラックが発達する。

VI c層：にぶい黄褐色硬質土(Hue10YR4/3)。クラックが発達する。

VII層：黒褐色粘質土。旧石器時代の遺物包含層。

VII a層：黒褐色粘質土(Hue10YR2/2)。

VII b層：暗褐色粘質土(Hue10YR3/3)。

VII d層：にぶい黄褐色粘質土(Hue10YR4/3)。

VII e層：暗褐色粘質土(Hue10YR3/4)。

VIII層：橙色シルト土。無遺物層。

VIII層：橙色シルト土 (Hue7.5YR6/8)。しまり弱い。400mm～700mm程度の火山岩の亜円礫を含む。

IX層：黄褐色砂質土。無遺物層。

IX a層：橙色礫質砂 (Hue7.5YR6/8)。原口B遺跡のみで確認。

IX b層：にぶい橙色礫質砂 (Hue2.5YR6/4)。原口B遺跡のみで確認。

1区の大部分はVI a層(褐色硬質土層)上面まで削平を受けている。III b～V b層は部分的に残存するが、トレンチャー(溝掘機)による攪乱を受けている。旧地形は、北西方向から南東方向へと緩やかに傾斜する。

② 2区の基本層序

I層：現代の耕作土・旧耕作土・造成土等

I a層：黒褐色土 (Hue10YR3/3)。現代の耕作土。

I c層：暗褐色土 (Hue10YR3/3)。現代の造成土。

I d層：褐色土 (Hue10YR4/6)。旧耕作土。

I e層：暗褐色土 (Hue10YR4/4)。旧耕作土。

VII層：黒褐色粘質土。旧石器時代の遺物包含層。

VII d層：にぶい黄褐色粘質土 (Hue10YR4/3)。

VIII層：橙色シルト土。無遺物層。

VIII層：橙色シルト土 (Hue7.5YR6/8)。

IX層：黄褐色砂質土。無遺物層。

IX c層：にぶい黄褐色シルト土 (Hue10YR5/4)。原口B遺跡のみで確認。

IX d層：明褐色シルト質粗粒砂 (Hue7.5YR5/6)。原口B遺跡のみで確認。

2区は、一部を除きIX a層まで削平を受けている。北角で北西方向へと落ち込む自然地形を確認した。旧地形は南西方向から有明海のある北東方向へと延びる谷の斜面地に当たると思われる。谷埋土の層序については以下の通りである。

谷埋土1層：黒褐色砂質土 (Hue10YR3/2)。しまりやや強い。砂粒と白色粒子をごく少量含む。

谷埋土2層：黒褐色砂質土 (Hue10YR2/3)。しまり強い。砂粒をごく少量含む。暗褐色の斑紋が入る。

谷埋土3層：暗褐色砂質土 (Hue10YR3/3)。しまりやや弱い。砂粒と細礫をわずかに含む。上位から縄文土器、4層に近い下層から黒曜石製剥片が出土。

谷埋土4層：黒褐色細礫混入砂質泥 (Hue10YR2/3)。しまり強い。細礫や礫を多く含む。礫の密度は層状に濃淡がある。

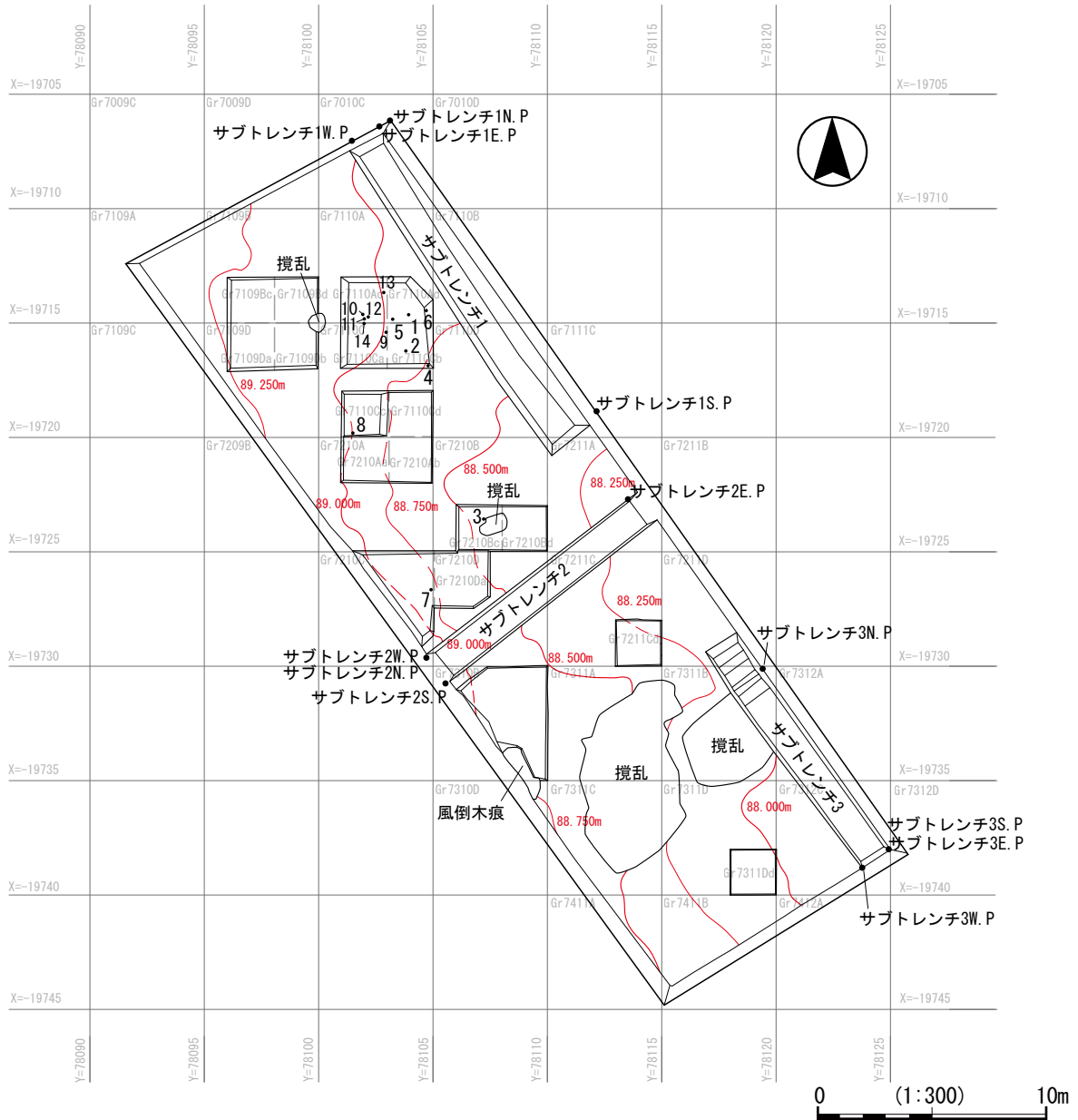


図 16 1区平面図及び等高線図 (S=1/300)

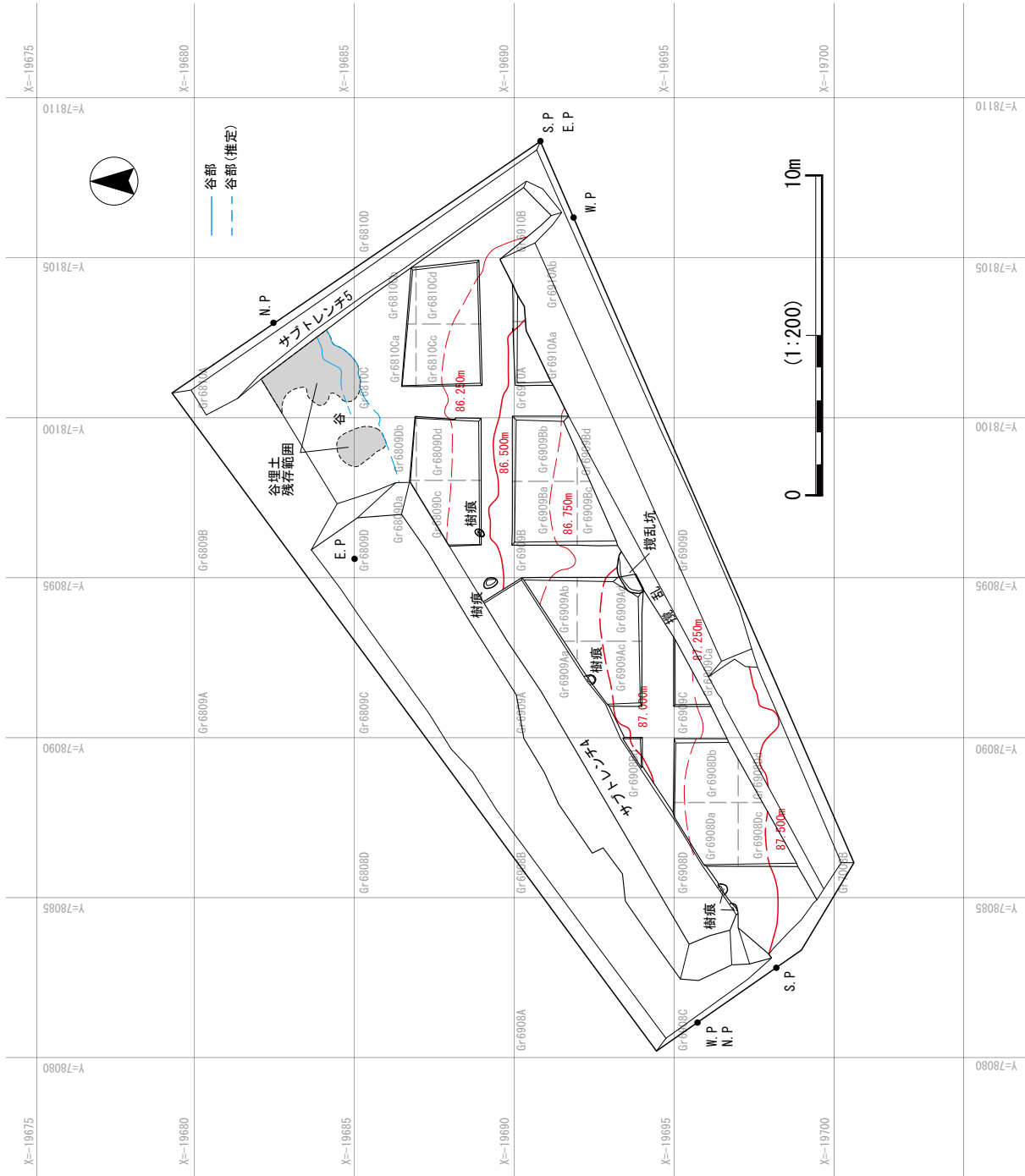
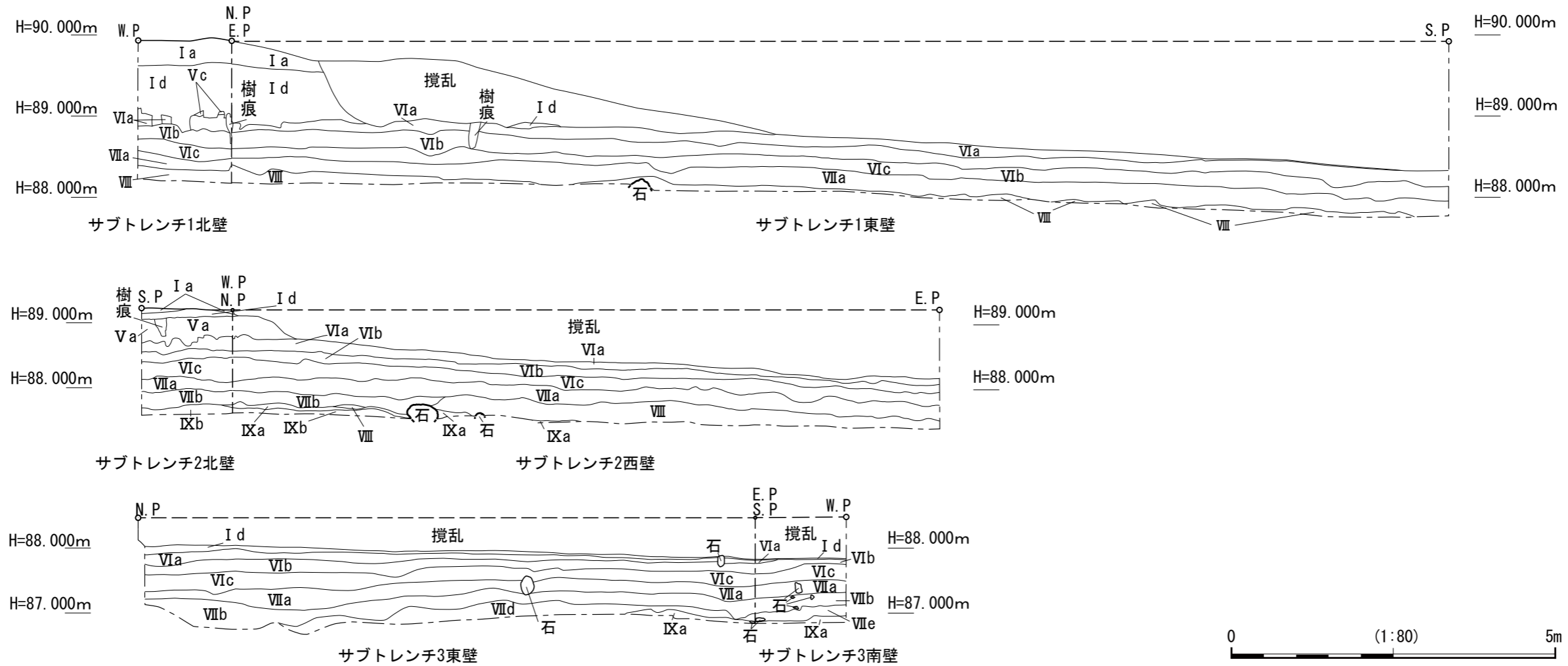


図19 2区平面図及び等高線図 (S=1/200)



【土層注記】

I a層：暗褐色土 (Hue10YR3/3)

現代の耕作土。しまり弱い。2mm前後の白色粒子を10%、5~10mm程度の垂円礫または垂角礫を5%、30~50mm程度の硬質土由来のブロックを7%程度含む。

I d層：褐色土 (Hue10YR4/6)

旧耕作土。しまり弱い。2~3mm程度の垂円礫または垂角礫を10%、50~100mm程度の硬質土由来のブロックを3%含む。

V a層：黒褐色硬質土 (Hue10YR2/2)

クラックが発達する。しまり非常に強い。粗粒砂を20%程度、3mm前後の白色・黄灰色・赤褐色の粒子を20%含む。

V c層：暗褐色土 (Hue10YR3/3)

硬質土のブロックを含む。暗褐色土はしまりが強く、粗粒砂を7%含む。硬質土のブロックは30mm前後の大きさを20%程度。漸移層。

VI a層：褐色硬質土 (Hue10YR4/4)

クラックが発達する。しまり非常に強い。中~粗粒砂を3%程度含む。

VI b層：暗褐色硬質土 (Hue10YR3/3)

クラックが発達する。しまり非常に強い。砂粒を多量に含むほか、1~3mm程度の白色粒子を10%、5mm前後の白色粒子を1%程度含む。

VI c層：にぶい黄褐色硬質土 (Hue10YR4/3)

クラックが発達する。しまり非常に強い。0.2~1mm程度の透明色の砂粒を多量に含むほか、2~3mm程度の白色粒子を15%、5~8mm程度の白色粒子を2%含む。また褐色と暗褐色の斑文が入る。

VII a層：黒褐色粘質土 (Hue10YR2/2)

しまりやや強い。きめ細かい均一な土に、0.2~1mm程度の砂粒を3%、3~8mm程度の白色粒子を2%、150~250mm大の垂円または円礫をごくわずかに含む。ややクラックが発達する。

VII b層：暗褐色粘質土 (Hue10YR3/3)

しまりやや強い。0.2~1mm程度の砂粒をごくわずかに含むほか、2~10mm程度の白色粒子をわずかに、50~80mmの垂円礫をごくわずかに含む。VII a層と比べて砂粒の量は少なく、白色粒子は大きくなる。

VII d層：にぶい黄褐色砂質土 (Hue10YR4/3)

しまりやや強い。3~8mmの白色・黄土色・赤褐色の垂角礫を部分的に多く含む箇所が見られる。

VII e層：暗褐色礫質土 (Hue10YR3/4)

しまり強い。基質は暗褐色粘質土で、多量の砂粒のほか、8mm前後の黄土色・橙色・赤褐色の垂角礫を30%、20~30mm程度の灰白色・赤褐色の垂角礫を5%含む。

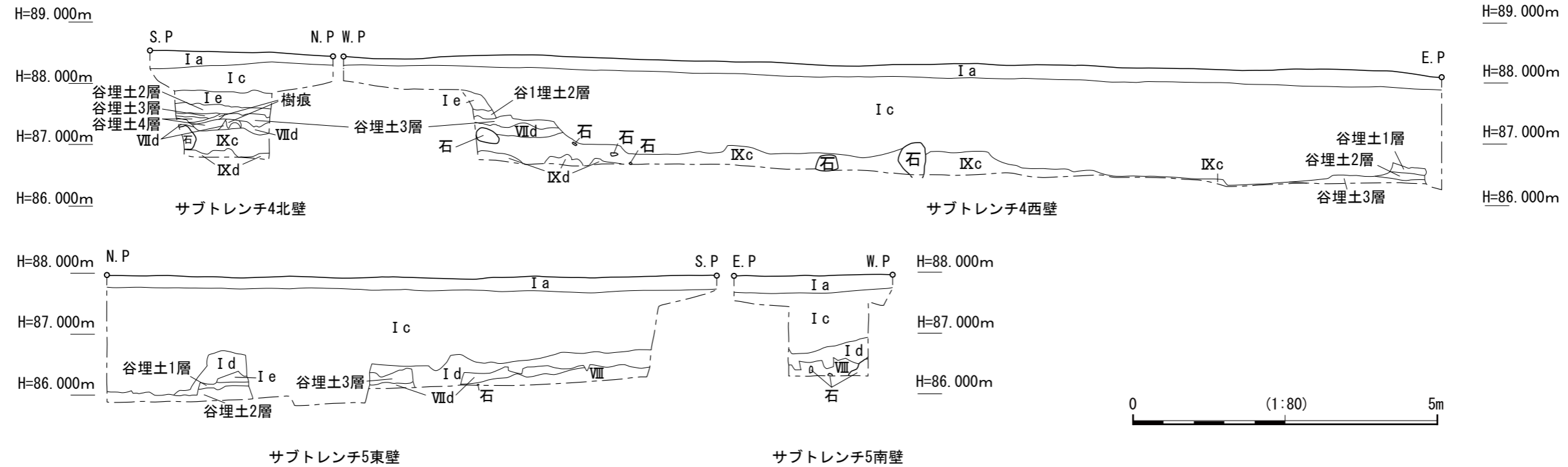
VIII層：橙色シルト土 (Hue7.5YR6/8)

しまり弱い。最大400~700mm大の垂円礫を含む。

IX a層：橙色礫質砂 (Hue7.5YR6/8)

原口B遺跡でのみ確認。しまり強い。橙色シルト土に細~中粒砂を3%、8mm前後の灰色・黄土色・赤褐色の垂角礫を3%、100~200mm程度の礫を8%程度含む。

図 17 1区土層断面図 (S=1/80)



【土層注記】

I a 層：暗褐色土 (Hue10YR3/3)

現代の耕作土。しまりやや強い。1～3mm程度の黒褐色の顆粒を10%、2～10mm程度の白色粒子を5%、5mm前後の角礫を2%、20～40mm程度の円礫を2%含む。

I c 層：暗褐色土 (Hue10YR3/3)

現代の造成土。しまり弱い。主体となる土は、2～5mm程度の垂円礫を3%、2～4mm程度の白色・黄色土・赤褐色の砂粒を3%、3～10mm程度の黄褐色シルト土のブロックを1%、黒褐色粘質土のブロックを2%、褐色硬質土のブロックを10%、黒褐色砂質土のブロックを少量含む。その他、30cmを越えるコンクリート・アスファルト、側溝の蓋・100cm大の巨礫・ガラス瓶が含まれていた。

I d 層：褐色土 (Hue10YR4/6)

旧耕作土。しまりはやや弱い所と強い所がある。下位ではⅧ層由来の橙色シルト土のブロックが入る。自然堆積の黒褐色土が攪乱されてきたものと考えられる。

I e 層：黒褐色土 (Hue10YR2/3)

旧耕作土。縄文時代～明治時代初頭の遺物が含まれる。しまり弱い。1mm前後の粗粒砂を7%、4～10mm程度の白色粒子を2%含む。5～26mm程度の炭化物を3%含む。一部炭化物が集中する箇所が見られる。

VII d 層：にぶい黄褐色砂質土 (Hue10YR4/3)

しまりやや弱い。漸移層。

VIII 層：橙色砂質シルト土 (Hue7.5YR6/8)

しまり弱い。白色粒子をほとんど含まず、30～500mmの礫を3%含む。

IX c 層：にぶい黄褐色シルト土 (Hue10YR5/4)

原口B遺跡でのみ確認。しまり強い。1mm前後の白色粒子を1%、3～10mm程度の白色粒子を2%含む。40～400mm程度の礫を10%含む。Ⅷ層と比べてシルト土の粒子が粗い。

IX d 層：明褐色シルト質粗粒砂 (Hue7.5YR5/6)

原口B遺跡でのみ確認。しまりはⅧ層と比べてやや弱く、砂粒も粗い。1～3mm前後の白色粒子を1%、400mm前後の礫を30%含む。明褐色の斑紋が入り、下面になるにつれて薄くなる。

谷埋土1層：黒褐色砂質土 (Hue10YR2/2)

しまりやや強い。粗粒砂と3mm前後の白色粒子をごく少量含む。

谷埋土2層：黒褐色砂質土 (Hue10YR2/3)

しまり強い。粗粒砂をごく少量含む。20～30mm程度の暗褐色の斑紋が見られる。

谷埋土3層：暗褐色砂質土 (Hue10YR3/3)。

しまりやや弱い。粗粒砂を6%、2～3mm程度の細礫を5%含む。

谷埋土4層：黒褐色細礫混入砂質泥 (Hue10YR2/3)。

しまり強い。細礫や礫を多く含む。礫の密度は層状に濃淡がある。

図 18 2区土層断面図 (S=1/80)

(3) 遺構

1区では風倒木痕を1基確認したが、遺構は認められなかった。ピット状のプランを複数検出したが、いずれも不整形で埋土からの出土遺物も無く、建物跡や柵列のような柱穴配置も認められず、積極的に遺構と認定できるものではなかった。

(4) 遺物

①VI層

1は安山岩製の横長剥片である。3は黒曜石製の剥片で、使用痕が確認できる。4、5、9は黒曜石製の剥片である。6は黒曜石製の剥片と思われるが、細石刃の可能性も考えられる。

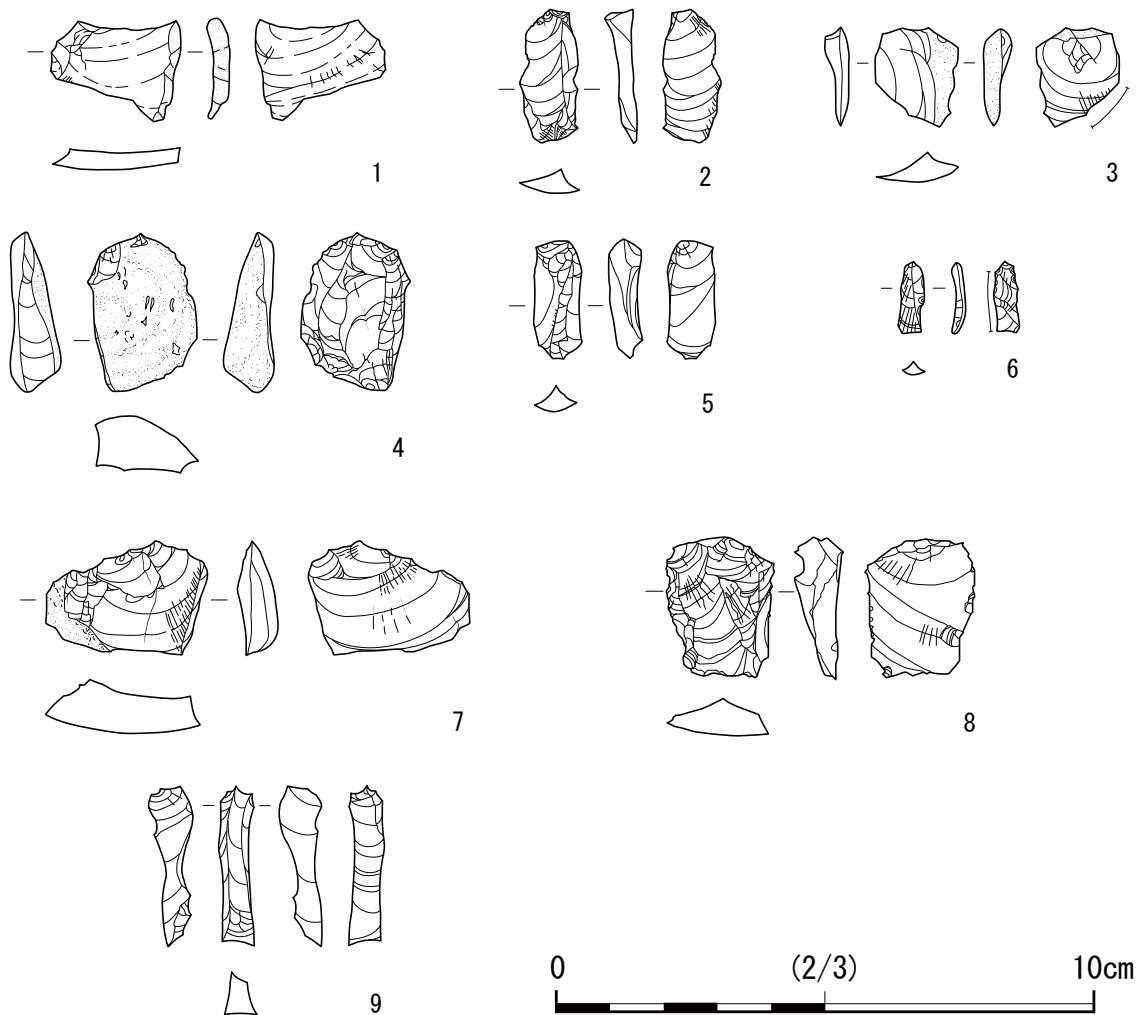


図 20 VI層出土遺物 (S=2/3)

表9 遺物一覧（VI層出土遺物）

番号	ID	出土位置	器種	石材	法量 (cm・g)				調整ほか特徴	備考
					長さ	幅	厚み	g		
1	5073	1区Gr7110Ad VIa層下位 P20	剥片	安山岩か	1.9	2.4	0.4	1.88		横長剥片
2	5004	1区Gr7110Cb VIb層下位 P9	剥片	黒曜石	2.5	1.1	0.6	1.03		
3	5072	1区Gr7210Bc VIb層下位 P21	剥片	黒曜石	1.8	1.6	0.55	0.82	使用痕あり	
4	5080	1区Gr7110Cb VIb層下位 Atb層 P11	剥片	黒曜石	2.9	2.0	1.0	5.35		
5	5070	1区Gr7110Ad VIc層 P23	剥片	黒曜石	2.3	0.9	0.6	1.16	スポール状	
6	5052	1区Gr7110Ad VIc層 P41	剥片	黒曜石	1.9	0.5	0.3	0.1		細石刃か
7	5013	1区Gr7210C VIc層下位 P1	剥片	黒曜石	2.1	3.1	1.0	5.1		
8	5005	1区Gr7110Cc VIc層下位 P10	剥片	黒曜石	2.6	2.1	0.9	4.12		二次加工痕・使用痕あり
9	5066	1区Gr7110Ca VIc層下位 P27	剥片	黒曜石	3.0	0.7	0.7	1.36	スポール状	

②VII層

10は黒曜石製の縦長剥片と思われるが、細石刃の可能性も考えられる。11、12、13は安山岩製の剥片である。14は流紋岩製の剥片である。

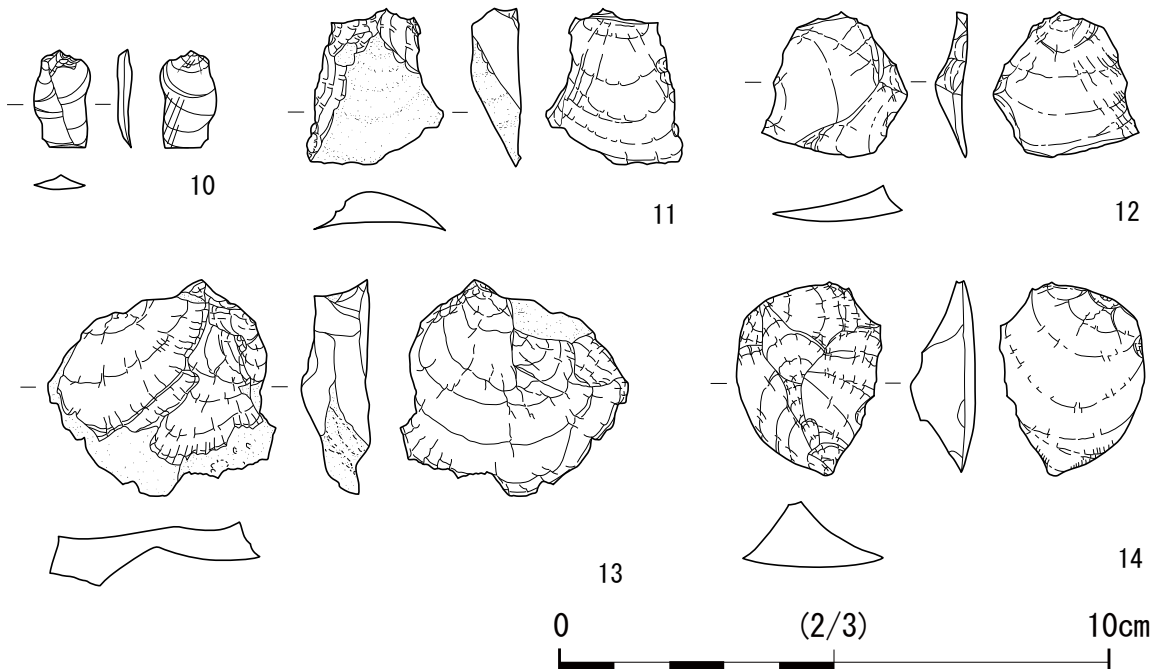


図21 VII層出土遺物 (S=2/3)

表 10 遺物一覧（Ⅶ層出土遺物）

番号	ID	出土位置	器種	石材	法量 (cm・g)				調整ほか特徴	備考
					長さ	幅	厚み	g		
10	5059	1区Gr7110Ac Ⅶ層上位 P34	剥片	黒曜石	1.9	1.1	0.3	0.3		細石刃か
11	5060	1区Gr7110Ac Ⅶ層上位 P33	剥片	安山岩	2.9	2.4	0.9	4.54	二次加工痕あり	
12	5061	2区Gr7110Ac Ⅶ層上位 P32	剥片	安山岩	2.7	2.7	0.6	3.58		
13	5049	1区Gr7110Ac Ⅶ層上位 P44	剥片	安山岩	3.9	4.3	1.3	15.19		
14	5058	1区Gr7110Ca Ⅶ層上位 P35	剥片	流紋岩	3.5	2.6	1.2	9.13		

(5) 自然科学分析

①黒曜石、安山岩産地推定

長崎県埋蔵文化財センターでは、2014（平成26）年以來主に九州圏内から産出する黒曜石原石の分析データを蓄積し、遺跡出土黒曜石の産地推定を実施している（片多2015、川道ほか2018）。また、2022（令和4）年度から新たに安山岩の分析データを蓄積し、産地推定を実施している。今回の原口B遺跡発掘調査で出土した40点の資料（図23）を対象に、分析した結果を報告する。

分析には、エネルギー分散型蛍光X線分析装置を用いて非破壊で定性分析を実施し、判別図法によって原産地を推定している。装置の使用及び分析条件は以下のとおり。エネルギー分散型蛍光X線分析装置：SSI ナノテクノロジー社（現株式会社日立ハイテクサイエンス）製「SEA1200VX」を使用した。下面照射式で照射径は8Φ、Rh（ロジウム）管球、SDD検出器で液体窒素を必要としない。分析状況は管電圧40kVで、管電流は抵抗値によって自動設定とした。大気雰囲気中で測定時間は100秒（デッドタイム30%前後でのライブタイム）で分析を行った。分析資料は極力石器表面が均一で、風化していない面を測定した。

産地推定の手法は、検出した元素のうち、K（カリウム）、Mn（マンガン）、Fe（鉄）、Rb（ルビジウム）、Sr（ストロンチウム）、Y（イットリウム）、Zr（ジルコニウム）の7元素のX線強度（CPS値：Count Per Second/1秒間に蛍光X線を検出した量）から下記の①～④のパラメータを用いて①・②の散布図（以下、Rb散布図）と、③・④の散布図（以下、Sr散布図）の2種類の散布図（判別図）を作成するという望月明彦氏の開発した手法に基づいている（望月1997）。

$$\textcircled{1} \text{ Mn 強度} \times 100 / \text{Fe 強度}$$

$$\textcircled{2} \text{ Rb 分率} = \{ \text{Rb 強度} \times 100 / (\text{Rb 強度} + \text{Sr 強度} + \text{Y 強度} + \text{Zr 強度}) \}$$

$$\textcircled{3} \text{ Log (Fe 強度 / K 強度)}$$

$$\textcircled{4} \text{ Sr 分率} = \{ \text{Sr 強度} \times 100 \} / (\text{Rb 強度} + \text{Sr 強度} + \text{Y 強度} + \text{Zr 強度}) \}$$

分析結果を表11に、判別図を図22に示す。分析IDにはセンターが出土品に付与し、管理している遺物ID（遺跡調査番号 - 遺物番号）を使用している。今回報告する分析結果は、令和4年12月14日時点までの原産地データの成果を利用した。

分析の結果、黒曜石製石器は9点が『腰岳系（腰岳・有田川・松浦Ⅲ群・古里海岸⑥）』を示した。それ以外の産地は7点が『椎葉川系（椎葉川・古里海岸②）』を示した。[5012]、[5075]は『阿蘇4系（国

見町海岸・神代海岸・和泉町・的石)』を示した。[5010]、[5062]、[5064]、[5069]、[5074]の5点もRb分率の散布図で周辺に表示されているため『阿蘇4系(国見海岸・神代海岸・和泉町・的石)』の可能性が高いと思われる。他では[5067]、[5068]の2点が『牛ノ岳系(牛ノ岳「土器田」・淀姫・針尾米軍基地・久木島米軍基地・砲台山・前畑弾薬庫・淀姫神社・東浜)』を示した。今回の分析では産地が特定できなかった資料も多かったが、内5点([5050]、[5051]、[5056]、[5071]、[5077])はRb分率、Sr分率共に近い位置に集中して表示されているため、同じ原産地である可能性が考えられる。

安山岩石器は4点分析した。確実に『多久産』と判明したのは[5049]1点だけであったが、風化面が多い点、分析結果が散布図のRb分率とSr分率ともに『多久産』周辺に出ている点から、([5060]、[5061]、[5073])の3点も多久産安山岩である可能性が考えられる。原口B遺跡では腰岳系以外の黒曜石の流通網を有していた、又は時代により利用する黒曜石の石材産地が変遷した可能性があり、安山岩は多久産安山岩を主な給源地としていた可能性があると考えられる。

【参考文献】

片多雅樹 2015「判別法を用いた黒曜石の安置推定～基礎データの構築～」『長崎県埋蔵文化財センター研究紀要第5号』長崎県埋蔵文化財センター

川道寛・隅田祥光・片多雅樹・辻田直人 2018「原産地判別プログラムを用いた黒曜石製石器の産地同定」『九州旧石器第22号』九州旧石器文化研究会

望月明彦 1997「蛍光X線分析による中部・関東地方の黒曜石産地の判別」『X線分析の進歩第28集』アグネ技術センター

長崎県教育委員会 2022『津吹遺跡』長崎県埋蔵文化財センター調査報告書第41集

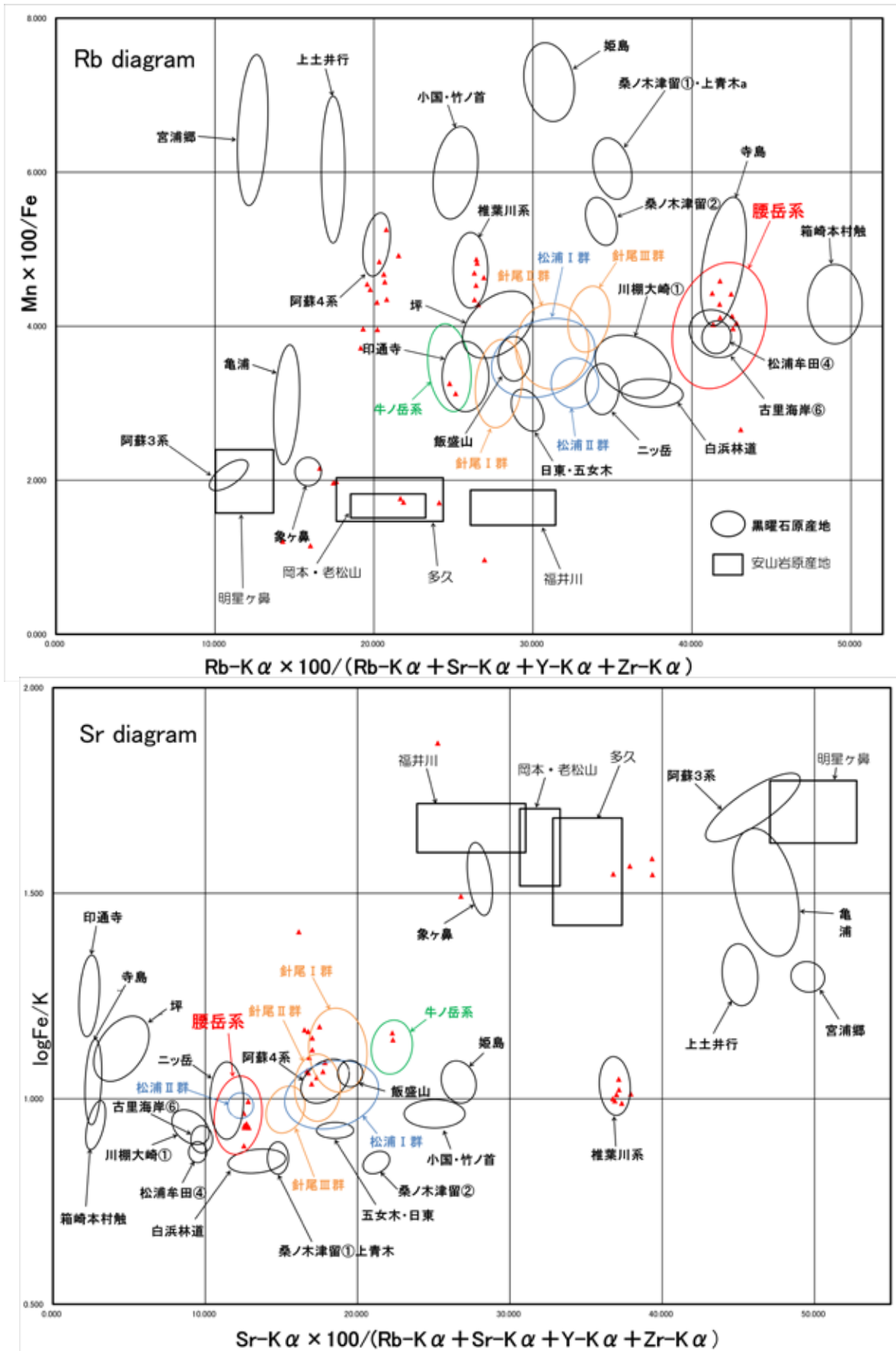


図 22 黒曜石・安山岩産地推定判別図 (上: Rb 分率 vs Mn/Fe、下: Sr 分率 vs Fe/K)

表 11 黒曜石・安山岩分析結果一覧

ID	出土位置	系・群	K	Mn	Fe	Rb	Sr	Y	Zr	Rb分率	Mn× 100/Fe	Sr分率	log Fe/K	備考
5002	1区 Gr7110Ca Vb層 P7	椎葉川系	67.27	32.16	751.20	264.84	370.40	101.60	260.25	26.56	4.28	37.15	1.05	
5004	1区 Gr7110Cb Vb層下位 P9	腰岳系	63.35	22.18	551.35	295.87	91.01	119.99	208.90	26.56	4.02	12.71	0.94	
5005	1区 Gr7110Cc Vc層下位 P10	腰岳系	66.26	23.21	564.15	297.69	91.69	120.07	203.23	26.56	4.11	12.87	0.93	
5009	1区 Gr7110Cc Vb層 P5	腰岳系	79.60	27.48	679.37	325.91	95.83	128.23	211.60	42.79	4.04	12.58	0.93	
5010	1区 Gr7109Db Va層 P4	阿蘇4系か	58.80	32.60	662.83	173.07	139.08	81.45	409.73	21.54	4.92	17.31	1.05	
5011	1区 Gr7110Cd Vc層 P3	産地不明	17.17	32.65	2836.52	67.27	54.15	50.25	248.71	16.00	1.15	12.88	2.22	
5012	1区 Gr7109Bd Va層 P2	阿蘇4系	69.65	39.84	757.69	262.35	214.44	133.66	652.46	20.77	5.26	16.98	1.04	
5013	1区 Gr7210C Vc層 P1	腰岳系	63.32	23.41	545.82	292.29	88.08	119.49	200.36	41.74	4.29	12.58	0.94	
5029	谷埋土3層	腰岳系	67.33	23.76	517.61	296.30	88.97	118.21	206.02	41.76	4.59	12.54	0.89	
5030	谷埋土3層	腰岳系	85.87	32.32	731.36	362.92	107.37	145.27	239.03	42.47	4.42	12.56	0.93	
5049	1区 Gr7110Ac VII層上位 P44	多久産	52.94	32.91	1865.52	154.00	261.54	68.91	226.49	21.66	1.76	36.79	1.55	
5050	1区 Gr7110Cc VII層上位 P43	産地不明	61.62	34.31	922.59	236.57	216.16	125.28	656.61	19.16	3.72	17.51	1.18	Sr分率では針尾I群を示す。
5051	1区 Gr7110Cc VII層上位 P42	産地不明	68.21	43.28	1003.59	273.52	223.76	140.70	716.61	20.19	4.31	16.52	1.17	Sr分率では針尾I群を示す。
5052	1区 Gr7110Ad Vc層 P41	腰岳系	80.27	31.40	790.45	343.87	103.54	135.30	224.90	42.58	3.97	12.82	0.99	
5053	1区 Gr7110Ad VII層上位 P40	産地不明	79.60	27.48	679.37	325.91	95.83	128.23	211.60	42.79	4.04	12.58	0.93	
5054	1区 Gr7110Ad VII層上位 P39	椎葉川系	65.55	31.28	690.11	246.60	346.84	96.16	243.80	26.42	4.53	37.16	1.02	
5055	1区 Gr7110Ac VII層上位 P38	産地不明	48.85	48.37	5000.03	127.98	57.25	61.58	228.02	26.95	0.97	12.06	2.01	
5056	1区 Gr7110Ac VII層上位 P37	産地不明	74.94	45.83	1053.59	291.58	238.71	145.34	726.31	20.80	4.35	17.03	1.15	Sr分率では針尾I群を示す。
5057	1区 Gr7110Ac VII層上位 P36	産地不明	44.72	19.49	1139.91	168.55	112.90	80.10	337.74	24.10	1.71	16.15	1.41	Rb分率では多久系を示す。
5058	1区 Gr7110Ca VII層上位 P35	産地不明	36.32	32.21	2663.68	98.60	173.71	60.78	355.08	14.33	1.21	25.24	1.87	流紋岩。
5059	1区 Gr7110Ac VII層上位 P34	腰岳系	74.00	28.19	682.22	340.16	100.25	133.23	226.19	42.53	4.13	12.53	0.96	
5060	1区 Gr7110Ac VII層上位 P33	多久産か	53.62	40.54	2058.86	148.64	334.98	76.27	291.68	17.45	1.97	39.34	1.58	全体的に風化する。Rb分率では象ヶ鼻を示す。
5061	2区 Gr7110Ac VII層上位 P32	多久産か	56.68	39.50	1989.76	149.81	334.38	75.21	290.20	17.63	1.99	39.36	1.55	全体的に風化する。Rb分率では象ヶ鼻を示す。
5062	1区 Gr7110Ac VII層上位 P31	阿蘇4系か	72.22	41.71	911.02	280.56	228.26	141.80	705.96	20.68	4.58	16.83	1.10	
5063	1区 Gr7110Ac VII層上位 P30	椎葉川系	47.79	20.79	478.34	167.12	233.34	63.87	170.54	26.32	4.35	36.75	1.00	
5064	1区 Gr7110Ca Vc層下位 P29	阿蘇4系か	84.73	45.83	979.98	304.27	247.45	153.96	770.05	20.62	4.68	16.77	1.06	
5065	1区 Gr7110Ca Vc層下位 P28	椎葉川系	72.16	34.37	741.88	253.65	357.53	91.60	239.55	26.92	4.63	37.94	1.01	
5066	1区 Gr7110Ca Vc層下位 P27	椎葉川系	58.57	27.93	579.28	222.08	309.30	83.32	223.74	26.49	4.82	36.89	1.00	
5067	1区 Gr7110Cb Vc層下位 P26	牛ノ岳系	63.38	29.87	916.75	223.81	201.40	102.67	376.00	24.76	3.26	22.28	1.16	
5068	1区 Gr7110Ca Vc層 P25	牛ノ岳系	56.99	24.81	793.34	215.18	191.07	96.80	352.91	25.14	3.13	22.32	1.14	
5069	1区 Gr7110Cc VII層上位 P24	阿蘇4系か	72.81	39.96	892.08	272.31	246.03	143.42	715.94	19.77	4.48	17.86	1.09	
5070	1区 Gr7110Ad Vc層 P23	椎葉川系	67.88	32.24	662.14	245.03	346.02	91.49	244.05	26.44	4.87	37.34	0.99	
5071	1区 Gr7110Cc VII層上位 P22	産地不明	70.50	36.80	927.97	254.46	224.29	136.19	702.50	19.31	3.97	17.02	1.12	Sr分率では針尾I群を示す。
5072	1区 Gr7210Bc Vb層下位 P21	腰岳系	67.15	25.40	573.39	304.08	93.63	125.62	213.43	41.27	4.43	12.71	0.93	
5073	1区 Gr7110Ad Va層下位 P20	多久産か	59.69	37.76	2198.47	178.11	308.61	75.93	252.23	21.86	1.72	37.87	1.57	全体的に風化する。
5074	1区 Gr7210Aa VII層上位 P19	阿蘇4系か	57.71	30.57	672.16	226.81	205.49	118.03	608.77	19.57	4.55	17.73	1.07	
5075	1区 Gr7210Ab Vc層下位 P18	阿蘇4系	67.62	38.28	790.88	265.54	218.06	135.49	687.07	20.33	4.84	16.69	1.07	
5076	1区 Gr7210Bc Va層下位 P17	象ヶ鼻系か	58.92	39.55	1832.04	229.86	371.18	118.17	666.28	16.59	2.16	26.79	1.49	
5077	1区 Gr7210Bc Va層下位 P16	産地不明	61.03	35.21	889.48	246.76	204.63	126.87	642.68	20.21	3.96	16.76	1.16	Sr分率では針尾I群を示す。
5080	1区 Gr7110Cb Vb層下位 P11	椎葉川系	61.16	29.40	626.64	226.30	318.28	86.14	229.43	26.31	4.69	37.00	1.01	



图 23 分析資料



写真 23 出土遺物



写真 24 1区表土除去状況遠景（南東方向から）



写真 25 1区完掘状況調査区遠景（南東方向から）



写真 26 1区サブトレンチ1北壁土層堆積状況（南東方向から）



写真 27 1区サブトレンチ1東壁土層堆積状況（南西方向から）



写真 28 1区サブトレンチ2西壁土層堆積状況（北東方向から）



写真 29 1区サブトレンチ2北壁土層堆積状況（南東方向から）



写真 30 1区サブトレンチ3南壁土層堆積状況（北西方向から）



写真 31 1区サブトレンチ3東壁土層堆積状況（南西方向から）



写真 32 1区 Gr7109Bc・Gr7109Bd・Gr7109Da・Gr7109Dd
完掘状況（南東方向から）



写真 33 1区 Gr7110Ac・Gr7110Ad・Gr7110Ca・Gr7110Cb
完掘状況（南東方向から）



写真 34 1区 Gr7110Cc・Gr7110Cd・Gr7210Aa・Gr7210Ab
完掘状況（南東方向から）



写真 35 1区 Gr7210Bc・Gr7210Bd・Gr7210C・Gr7210Da
完掘状況（東方向から）



写真 36 1区 Gr7211Cd 完掘状況（北東方向から）



写真 37 1区 Gr7311Dd 完掘状況（南東方向から）



写真 38 1区 VII a 層上面流紋岩剥片 (14) 出土状況



写真 39 1区 VII a 層上面安山岩剥片 (13) 出土状況



写真 40 2区着手前状況（南西方向から）



写真 41 2区表土除去状況（南西方向から）



写真 42 2区VII d層検出状況（北東方向から）



写真 43 2区完掘状況（北東方向から）



写真 44 2区サブトレンチ4西壁土層堆積状況（北東方向から）



写真 45 2区サブトレンチ4北壁土層堆積状況（南東方向から）



写真 46 2区サブトレンチ5南壁土層堆積状況（北西方向から）



写真 47 2区サブトレンチ5西壁土層堆積状況（南西方向から）

V. 上新高野遺跡

1. 試掘調査

(1)2020 (令和 2) 年度の試掘調査【調査番号:HGB202017】

①調査期間と面積

期間:2021 (令和 3) 年 2 月 2 日～同年 2 月 26 日

面積:55 m² 所在地:長崎県島原市原口町乙 388-1 地先

②調査の方法

立ち入り可能となった畑面に試掘坑を TP26・27・30～35 の計 8 か所を設定した。

③基本層序 ※層序の番号表記は報告当時のままである。

I層:造成土等。

II層:黒ボク。縄文時代前期～中世の遺物包含層。

III層:褐色砂質土。鬼界アカホヤ火山灰由来か。

IV層:黒ボク。縄文時代早期か。

V層:黒褐色混パミス硬質土。通称カシノミ層。礫石原火砕流由来か。後期旧石器時代相当か。

VI層:褐色硬質土。AT火山灰由来か。後期旧石器時代相当。

VII層:黒ボク。

VIII層:黄橙色シルト土。

④調査結果

II層はいずれの試掘坑でも削平されており、試掘坑によってはいずれかの層が欠落している場合がある。TP26、27、30、31 で遺物が出土した。TP27 ではVI層中から今峠型ナイフ型石器の可能性のある大型縦長剥片が、TP30 ではVI層中、TP31 ではV層上面から黒曜石や安山岩の剥片が出土した。

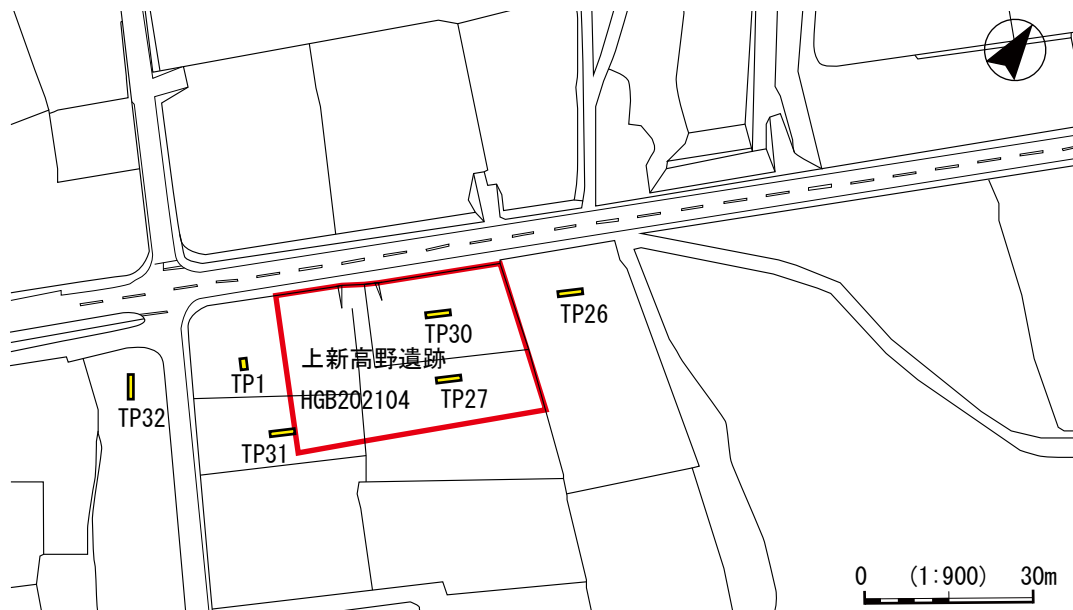


図 24 試掘調査と本調査の位置図 (S=1/900)

⑤協議

遺物包含層の確認された箇所を含むように遺跡範囲を拡張する必要がある。また、工事に際しては本調査についての協議が必要である。

2. 本調査 【HGB202104】

(1) 調査概要

①調査期間と面積

期間：2021（令和3）年7月2日～2022（令和4）年1月31日

面積：2,551 m² 所在地：長崎県島原市原口町丙 382-5、丙 994-1

②調査の方法

グリッドは、5m×5mで設定し、北西交点（グリッドの左上）を基準にX座標の百の位、十の位、Y座標の百の位、十の位の数字を組み合わせた4桁の番号と、A～Dのアルファベットを北西、北東、南西、南東の順に付与したものをグリッド名とした。さらにグリッド内に2m×2mの小グリッドと1mのベルトを設定し、a～dのアルファベットを北西、北東、南西、南東の順に付与したものの小グリッド名とした。

調査区は、使用中の灌漑用水管と隣地の営農者への影響を考慮し、1～5に分割して調査を行った。サブトレンチは6～10の計5か所に設定し、土層を記録した。

掘削は、表土・造成土・大規模な攪乱坑は重機掘削、遺構確認作業は人力掘削で行った土坑等は半截、完掘の手順で行った。樹痕や風倒木痕を含む攪乱等は、内包物が包含層出土遺物に混入することを防ぐために基本完掘としたが、一部は安全を優先して段下げに留めた。表土以下は等間隔に選定した小グリッドから掘削し、状況に応じて掘削範囲を拡張した。

遺物は、V層まではグリッドごとの取り上げを基本とし、VI層以下はすべて座標を記録しながら取り上げを行った。

③発掘作業の経過

発掘調査支援業者との現地協議は同年7月5日に行い、環境整備と現況測量を行った。表土を除去し、精査完了後に空撮、記録作業と埋め戻しを行って調査を完了した。

(2) 層序

基本層序は以下の通り。なお、層序の番号表記については、II-3. 調査の概略で述べた通り、今回報告する4遺跡5地点の土層を総括して付与した番号である。

I層：現代の耕作土・旧耕作土・造成土等。

I a層：暗褐色土（Hue10YR3/3）。現代の耕作土。

III層：褐色砂質土。縄文時代の遺物包含層。

III b層：褐色砂質土（Hue10YR4/6）。

IV層：暗褐色砂質土。縄文時代早期の遺物包含層。

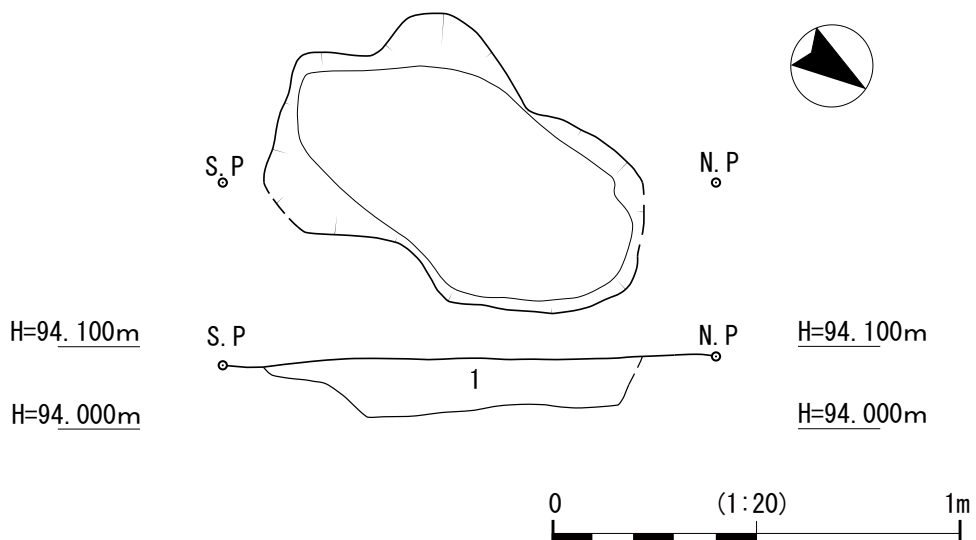
IV a層：暗褐色砂質土（Hue10YR3/3）。

V層：黒褐色土。遺物が極めて希薄な層。

- V a 層：黒褐色硬土 (Hue10YR2/2)。
- VI層：褐色硬質土。旧石器時代の遺物包含層。
 - VI a 層：褐色硬質土 (Hue10YR4/4)。クラックが発達する。
 - VI b 層：暗褐色硬質土 (Hue10YR3/3)。クラックが発達する。
 - VI c 層：にぶい黄褐色硬質土 (Hue10YR4/3)。クラックが発達する。
 - VI d 層：褐色硬質土 (Hue10YR4/6)。クラックが発達する。
- VII層：黒褐色粘質土。旧石器時代の遺物包含層。
 - VII a 層：黒褐色粘質土 (Hue10YR2/2)。
 - VII e 層：暗褐色粘質土 (Hue10YR3/4)。
- VIII層：橙色シルト土。無遺物層。
 - VIII層：橙色シルト土 (Hue75YR6/8)。

(3) 遺構

2区のIV b層でSK1を検出した。上面は削平され、トレンチャーによる攪乱も受けていた。埋土はIV b層由来の硬質土のブロックを多く含む。平面プランは不整形な楕円形である。底面が平らなことや埋土の様相から人為的な土坑と考えられるが、出土遺物はなく年代や性格は不明である。また、III層からIV層にかけて全面的に樹痕や風倒木痕が認められた。



【土層注記】

にぶい黄褐色粘質土 (Hue10YR5/4)
 しまりやや強い。埋土はVIb層由来の硬質土のブロックで充填され、耕作土はあまり入り込んでいない。

図 25 SK1 平面図及び断面図 (S=1/20)

(4) 遺物

① 風倒木痕

1は風倒木痕から出土した縄文時代晩期の浅鉢底部である。外面にミガキが施される。

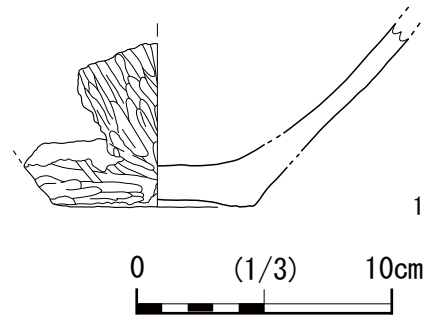


図 26 風倒木痕出土遺物 (S=1/3)

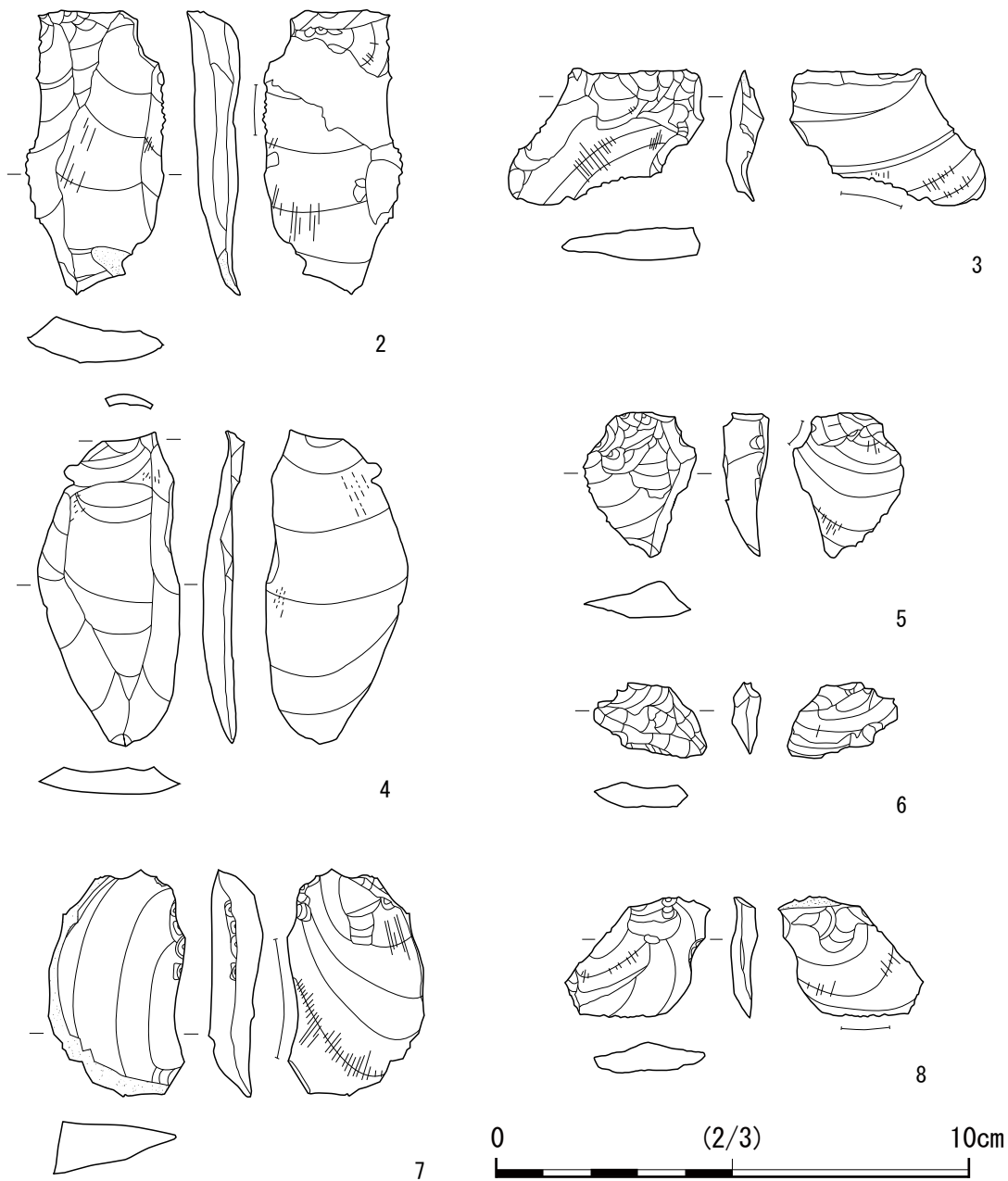


図 27 VI層出土遺物 (S=2/3)

表 12 遺物一覧（Ⅲ層出土遺物）

番号	ID	出土位置	種別 型式・時期	器種	部位	法量 (cm)			調整ほか特徴	色調 上段：外面 下段：内面	備考
						器高	口径	底径			
1	0201	3区-5Ⅲ層 風倒木痕P177	縄文 晩期	浅鉢	底	-	-	8.1	外】ミガキ	10YR6/4にぶい黄橙 2.5YR6/3にぶい黄	やや上げ底

②Ⅵ層

2は黒曜石製の縦長剥片である。3は使用痕、基部加工が見られる黒曜石製の剥片である。ナイフ型石器の未成品か。4、6は黒曜石製の剥片である。5、7、8は微細剥離のある黒曜石製の剥片である。

表 13 遺物一覧（Ⅵ層出土遺物）

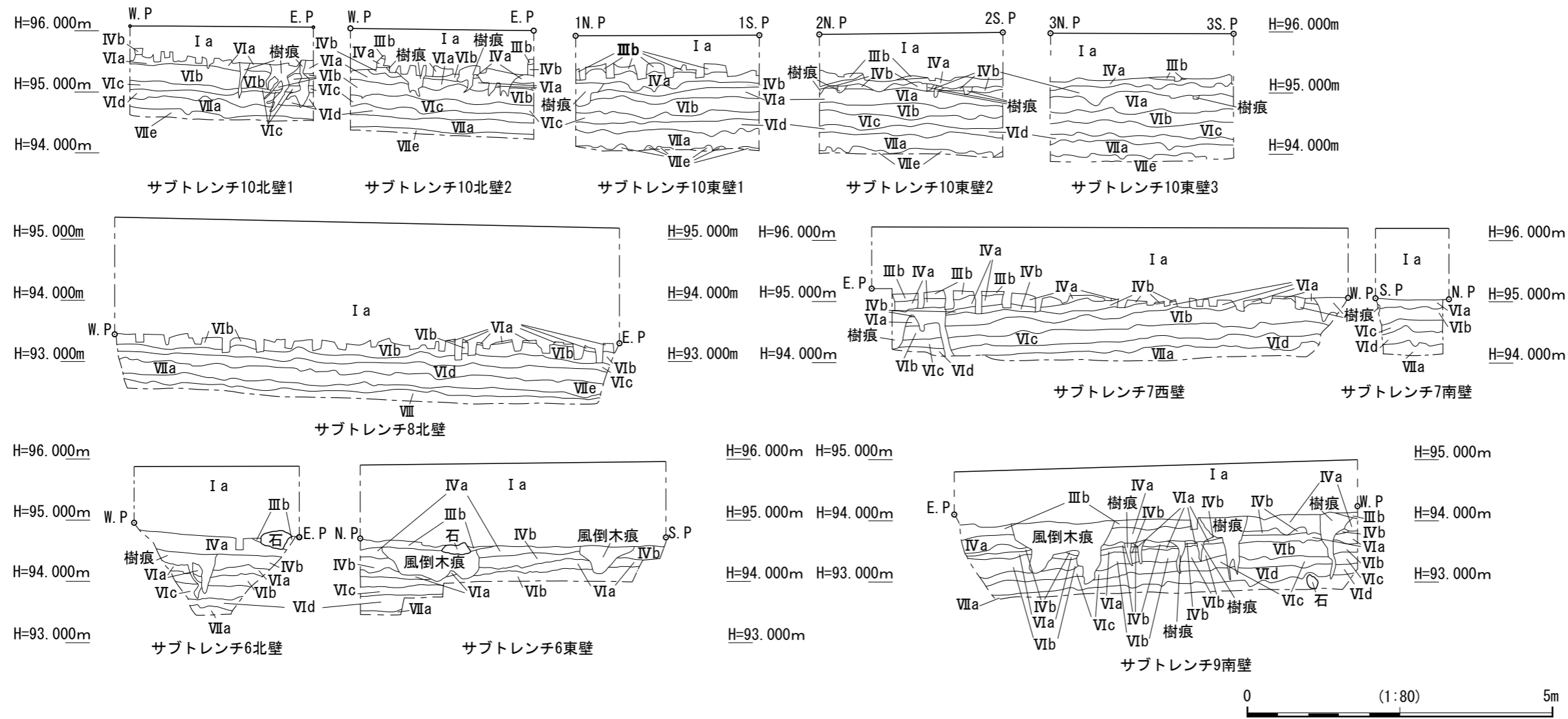
番号	ID	出土位置	器種	石材	法量 (cm・g)				調整ほか特徴	備考	
					長さ	幅	厚み	g			
2	5133	3区-2 Ⅵa層下位	Gr5196Ab P172	縦長剥片	黒曜石	6.1	2.4	1.0	16.46		
3	5135	3区-2 Ⅵa層下位	Gr5095Db P169	剥片	黒曜石	2.9	4.2	0.8	5.15	縁辺部に使用痕あり	一部に基部加工あり
4	5130	3区-2 Ⅵd層	Gr5196Ab P173	剥片	黒曜石	6.7	3.1	0.6	12.88	無加工	やや風化する
5	5134	3区-2 Ⅵb層	Gr5095Db P170	剥片	黒曜石	3.1	2.4	1.0	5.06	擦痕、微細剥離あり	
6	5146	3区-1 Ⅵb層下位	Gr5194D P179	剥片	黒曜石	1.6	2.4	0.6	2.1		全体的に風化する
7	5131	3区-2 Ⅵc層	Gr5095Db P176	剥片	黒曜石	4.8	2.9	1.1	14.79	微細剥離あり	
8	5132	3区-2 Ⅵc層	Gr5095Db P175	剥片	黒曜石	2.6	3.1	0.6	3.54	縁辺部に若干の微細剥離あり	

(5) 自然科学分析

①黒曜石、安山岩産地推定

長崎県埋蔵文化財センターでは、2014（平成26）年以来主に九州圏内から産出する黒曜石原石の分析データを蓄積し、遺跡出土黒曜石の産地推定を実施している（片多2015、川道ほか2018）。また、2022（令和4）年度から新たに安山岩の分析データを蓄積し、産地推定を実施している。今回の上新高野遺跡発掘調査で出土した8点の資料（図30）を対象に、分析した結果を報告する。

分析には、エネルギー分散型蛍光X線分析装置を用いて非破壊で定性分析を実施し、判別図法によって原産地を推定している。装置の使用及び分析条件は以下のとおり。エネルギー分散型蛍光X線分析装置：



【土層注記】

I a層：暗褐色土 (Hue10YR3/3)。耕作土。
しまり弱い。3~5mmの垂角礫を10%程度、極粗粒砂を5%含む。
土器類や黒曜石剥片、近世末の陶磁器が出土。

IIIb層：褐色砂質土 (Hue10YR4/6)
しまり弱い。1mm前後の黒褐色・橙色・白色の顆粒を5%含む。
植物による攪乱の可能性あり。

IVa層：暗褐色砂質土 (Hue10YR3/3)
しまりやや強い。1mm前後の黒褐色・橙色・白色の顆粒を5%含む。
20mm前後の褐色 (Hue10YR4/6) の斑紋が入るが、やや不明瞭である。植物による攪乱の可能性あり。

IVb層：黒褐色粘質土 (Hue10YR2/2)
しまり強い。中~粗粒砂 (火山灰由来) を5%、2mm前後の灰白色・黄土色・赤褐色の白色粒子を3%含む。5~25mm程度の白色粒子を含んだ硬質土のブロックを少量含む。

VIa層：褐色硬質土 (Hue10YR4/4)。
しまり非常に強い。中~粗粒砂を5%、2~3mm程度の灰白色・赤褐色の白色粒子を5%含む。

VIb層：暗褐色硬質土 (Hue10YR3/3)。
しまり非常に強い。中粒砂を6%、2mm前後の乳白色・黄土色の白色粒子を3%含む。VIa層やVIc層と比べて黄色味をおびる。

VIc層：にぶい黄褐色硬質土 (Hue10YR4/3)。クラックが発達する。
しまり非常に強い。中粒砂を10%、3mm前後の白色粒子を2%含む。VIb層やVID層と比べてやや暗色。

VID層：褐色硬質土 (Hue10YR4/6)。クラックが発達する。
しまり非常に強い。中~粗粒砂 (火山灰由来) を8%、3mm前後の白色粒子を1%含む。VIa層~VIc層と比べて橙色味を帯びる。

VIIa層：黒褐色粘質土 (Hue10YR2/2)
しまりやや弱い。中粒砂を2%含む。

VIIe層：暗褐色粘質土 (Hue10YR3/4)
しまりやや弱い。土色は均一ではなくまだらである。VIIa層とVII層の漸移層。

図 28 調査区土層断面図 (S=1/80)

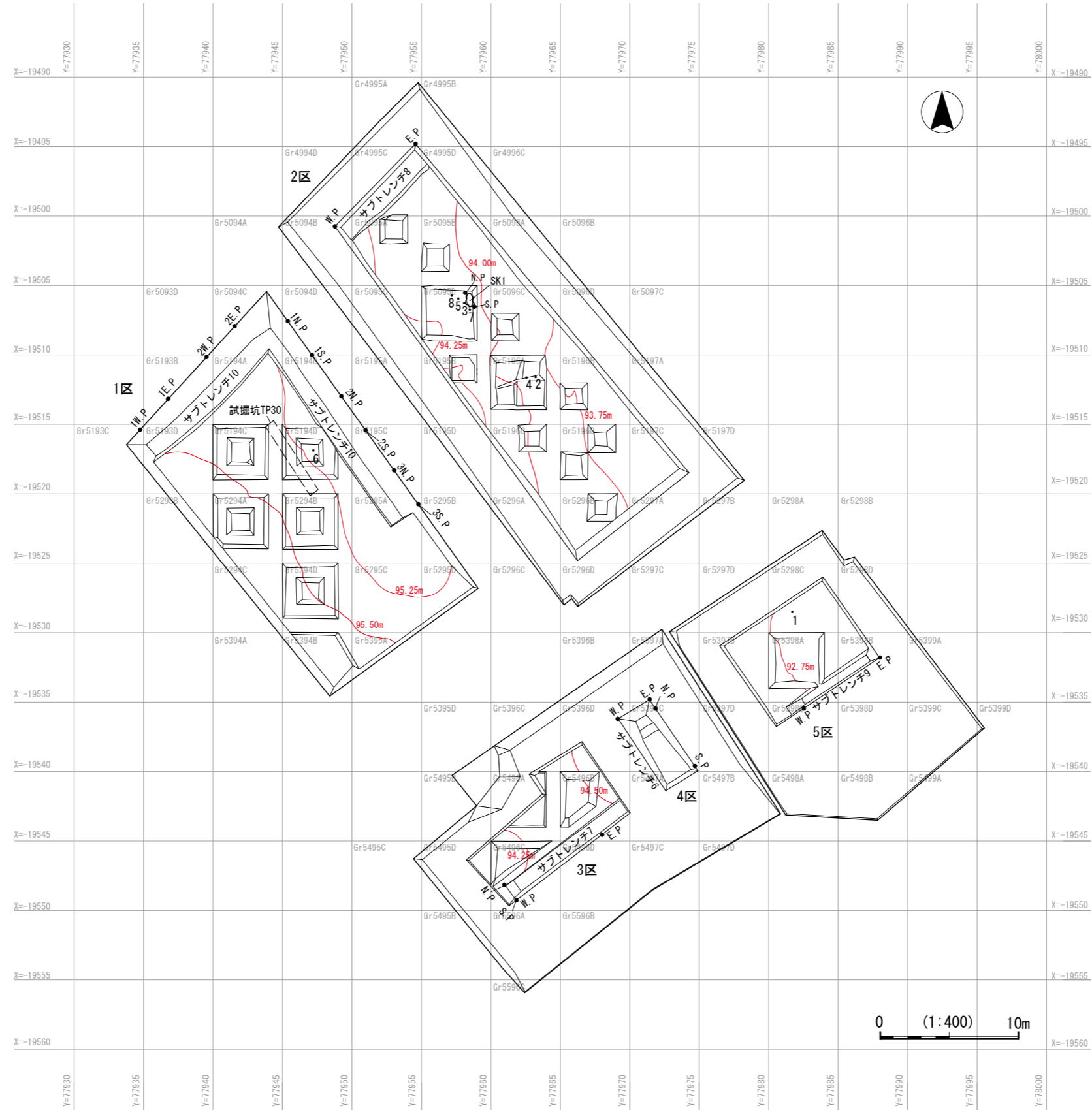


図 29 調査区平面図及び等高線図 (S=1/400)

SSI ナノテクノロジー社（現株式会社日立ハイテクサイエンス）製「SEA1200VX」を使用した。下面照射式で照射径は8Φ、Rh（ロジウム）管球、SDD 検出器で液体窒素を必要としない。分析状況は管電圧 40 kV で、管電流は抵抗値によって自動設定とした。大気雰囲気中で測定時間は 100 秒（デッドタイム 30%前後でのライブタイム）で分析を行った。分析資料は極力石器表面が均一で、風化していない面を測定した。

産地推定の手法は、検出した元素のうち、K（カリウム）、Mn（マンガン）、Fe（鉄）、Rb（ルビジウム）、Sr（ストロンチウム）、Y（イットリウム）、Zr（ジルコニウム）の 7 元素の X 線強度（CPS 値：Count Per Second/1 秒間に蛍光 X 線を検出した量）から下記の①～④のパラメータを用いて①・②の散布図（以下、Rb 散布図）と、③・④の散布図（以下、Sr 散布図）の 2 種類の散布図（判別図）を作成するという望月明彦氏の開発した手法に基づいている（望月 1997）。

- ① Mn 強度×100 / Fe 強度
- ② Rb 分率 = {Rb 強度×100 / (Rb 強度+ Sr 強度+ Y 強度+ Zr 強度) }
- ③ Log (Fe 強度 / K 強度)
- ④ Sr 分率 = {Sr 強度×100} / (Rb 強度+ Sr 強度+ Y 強度+ Zr 強度) }

分析結果を表 14 に、判別図を図 31 に示す。分析 ID にはセンターが出土品に付与し、管理している遺物 ID（遺跡調査番号 - 遺物番号）を使用している。今回報告する分析結果は、2022（令和 4）年 12 月 14 日時点までの原産地データの成果を利用した。

分析の結果、黒曜石製石器は 4 点が『腰岳系（腰岳・有田川・松浦Ⅲ群・古里海岸⑥）』を示した。[5133] がやや範囲から外れるが、全体的に風化しており、腰岳系の範囲周辺に分析結果が反映していることから腰岳系と判断した。それ以外の産地は[5130] が『亀浦産』、[5146] は Rb 分率の散布図では『阿蘇 3 系（御舟町、長谷峠）』の範囲からやや外れるが、[5133] 同様全体的に風化しており、分析結果が阿蘇 3 系の範囲付近に反映している点から阿蘇 3 系と判断した。

上新高野遺跡では周辺の原口 B 遺跡や津吹遺跡では出土していない亀浦産や阿蘇 3 系の黒曜石が出土しており、周辺に存在する遺跡とは違った黒曜石の流通ルートを持っていた可能性がある。但し、分析点数が少ないため、判断材料とするにはまだ十分とは言えない。今回分析した石器以外の上新高野遺跡で出土した黒曜石製石器・安山岩製石器分析や、試掘で出土した資料を用い分析資料を増やし、結果を精査する必要がある。

【参考文献】

- 片多雅樹 2015「判別法を用いた黒曜石の安置推定～基礎データの構築～」『長崎県埋蔵文化財センター研究紀要第 5 号』長崎県埋蔵文化財センター
- 川道寛・隅田祥光・片多雅樹・辻田直人 2018「原産地判別プログラムを用いた黒曜石製石器の産地同定」『九州旧石器第 22 号』九州旧石器文化研究会
- 望月明彦 1997「蛍光 X 線分析による中部・関東地方の黒曜石産地の判別」『X 線分析の進歩第 28 集』アグネ技術センター
- 長崎県教育委員会 2022『津吹遺跡』長崎県埋蔵文化財センター調査報告書第 41 集

表 14 黒曜石・安山岩分析結果一覧

ID	出土位置	系・群	K	Mn	Fe	Rb	Sr	Y	Zr	Rb分率	Mn×100/Fe	Sr分率	log Fe/K	備考
5129	3区-2 Gr-5196Bc VId層 P174	産地不明	78.08	49.39	1120.81	308.52	268.05	151.51	775.68	20.52	4.41	17.83	1.16	Sr分率では松尾I群を示す。
5130	3区-2 Gr-5196Ab VId層 P173	亀浦産	40.32	29.94	915.63	126.64	420.14	59.30	278.66	14.31	3.27	47.49	1.36	
5131	3区-2 Gr-5095Db VIc層 P176	腰岳系	72.82	27.68	642.08	316.65	93.81	123.97	210.96	42.48	4.31	12.59	0.95	
5132	3区-2 Gr-5095Db VIc層 P175	腰岳系	66.60	24.82	542.98	296.85	89.89	120.31	209.10	41.45	4.57	12.55	0.91	
5133	3区-2 Gr-5196Ab VIa層下位 P172	腰岳系	64.87	24.77	516.56	288.12	89.27	119.70	202.43	41.19	4.80	12.76	0.90	風化箇所が多い。
5134	3区-2 Gr-5095Db VIb層 P170	腰岳系	64.98	25.76	567.41	303.68	90.47	121.50	210.20	41.84	4.54	12.46	0.94	
5135	3区-2 Gr-5095Db VIa層下位 P169	腰岳系	60.33	24.85	527.14	290.09	88.88	118.08	203.55	41.41	4.71	12.69	0.94	
5146	3区-1 Gr-5194D VIb層下位 P179	阿蘇3系か	50.20	47.83	2306.03	120.33	543.79	87.52	503.06	9.59	2.07	43.34	1.66	風化箇所が多い。



図 30 分析資料

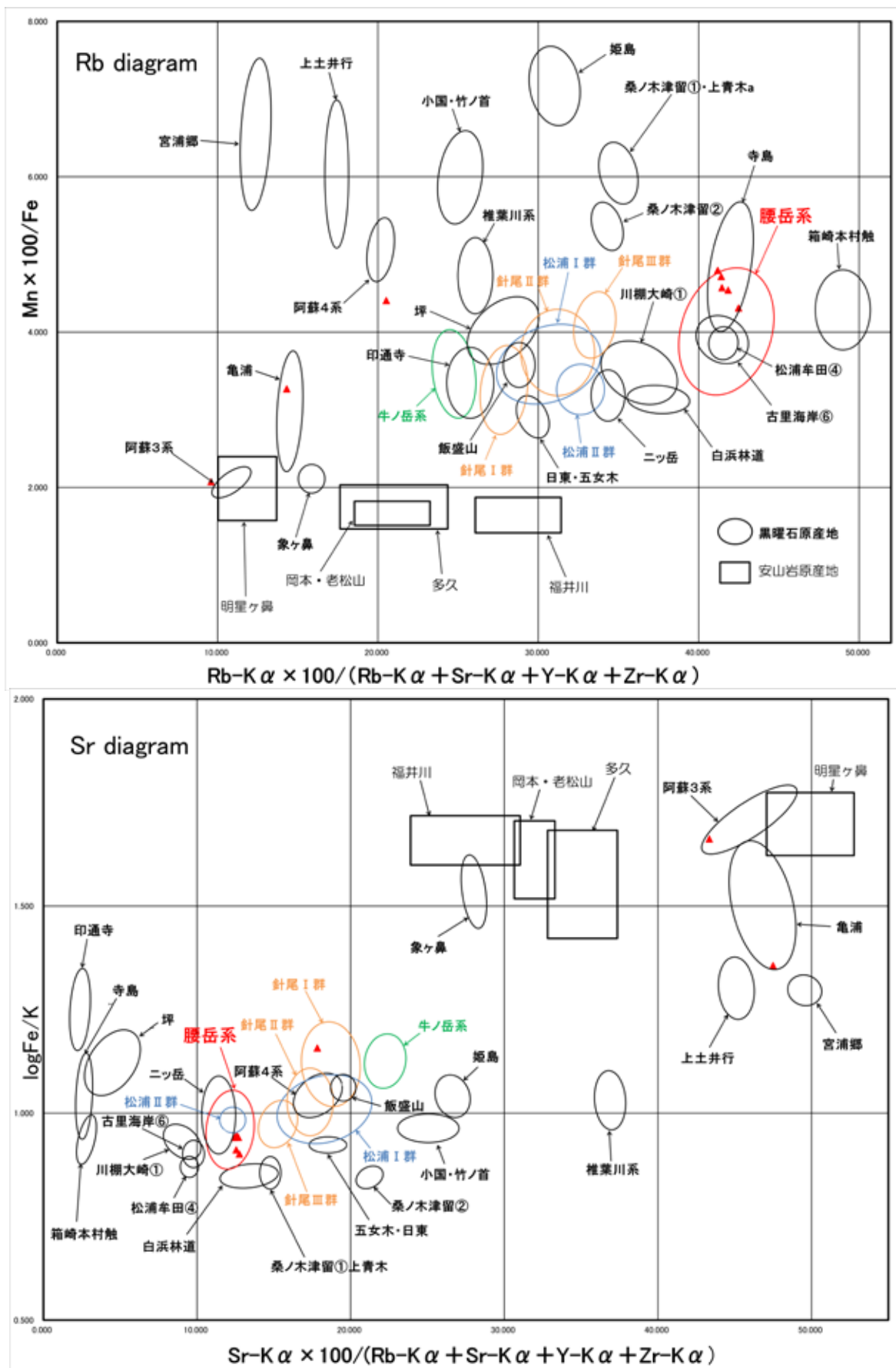


図 31 黒曜石・安山岩産地推定判別図 (上: Rb 分率 vs Mn/Fe、下: Sr 分率 vs Fe/K)



写真 48 出土遺物



写真 49 1区完掘状況（南西方向から）



写真 50 1区サブトレンチ10 東壁1 土層堆積状況（南西方向から）



写真 51 1区サブトレンチ10 東壁2 土層堆積状況（南西方向から）



写真 52 1区サブトレンチ10 東壁3 土層堆積状況（南西方向から）



写真 53 1区サブトレンチ10 北壁1 土層堆積状況（南東方向から）



写真 54 1区サブトレンチ10 北壁2 土層堆積状況（南東方向から）



写真 55 1区 Gr5190D 完掘状況（南東方向から）



写真 56 1区 Gr5194D VI b層下面黒曜石剥片(6) 出土状況



写真 57 2区完掘状況（南東方向から）



写真 58 2区サブトレンチ 8 北壁土層堆積状況（南東方向から）



写真 59 2区 Gr5095D 完掘状況と 2020(令和2)年度試掘坑 TP27



写真 60 2区 Gr5196A 完掘状況（南東方向から）



写真 61 2区 Gr5196Bb 完掘状況（南東方向から）



写真 62 2区 Gr5095DbSK1 半截状況（北東方向から）



写真 63 2区 Gr5095Db VI b 層黒曜石剥片 (3) 出土状況



写真 64 2区 Gr5095Db VI b 層黒曜石剥片 (4) 出土状況



写真 65 2区 Gr5196Ab VI b 層黒曜石剥片 (2) 出土状況



写真 66 2区 Gr5196Ab VI b 層黒曜石剥片 (5) 出土状況



写真 67 2区 Gr5198Bc VI d 層黒曜石剥片 (8) 出土状況



写真 68 2区 Gr5095Db VI b 層黒曜石剥片 (7) 出土状況



写真 69 2区 5095Db VI c 層クラック内黒曜石剥片
出土状況



写真 70 3区完掘状況（北西方向から）



写真 71 3区サブトレンチ7西壁土層堆積状況（北東方向から）



写真 72 3区サブトレンチ7南壁土層堆積状況（北西方向から）



写真 73 4区サブトレンチ6北壁土層堆積状況（南東方向から）



写真 74 4区サブトレンチ6東壁土層堆積状況（南西方向から）



写真 75 5区完掘状況（南東方向から）



写真 76 5区サブトレンチ9南壁土層堆積状況（北西方向から）



写真 77 5区風倒木痕出土土器(1)出土状況

VI. 大高野遺跡

1. 試掘調査

(1)2019(令和元)年度の試掘調査【調査番号:JCA201911】

①調査期間と面積

期間:2020(令和2)年1月14日~同年1月31日

面積:81.4㎡ 所在地:長崎県島原市寺中町乙429-4地先

②調査方法

立ち入り可能となった畑面に地点2TP1~2の計2か所の試掘坑を設定し、すべて人力掘削による調査を行った。

③基本層序 ※層序の番号表記は報告当時のままである。

I層:耕作土等。

II層:黒ボク。遺物包含層(縄文時代前期~中世の遺物包含層)。土質によってa~cに細分。

III層:褐色砂質土。鬼界アカホヤ火山灰由来か。ほぼ無遺物か。

IV層:黒ボク。後期旧石器時代~縄文時代早期相当か。

V層:黒褐色混パミス砂質土。通称カシノミ層。礫石原火砕流由来か。後期旧石器時代相当か。

VI層:褐色硬質土。始良丹沢火山灰由来か。後期旧石器時代相当。

VII層:黒ボク。

VIII層:黄橙色シルト土。

④調査結果

TP2西側のIIb層上面で硬化層を確認した。IIb・IIc層を削り込むように南に下って堆積している。何らかの遺構である可能性がある。遺物ではIb層とII層で土器細片が多く出土した。弥生土器・土師器の小片が主で、龍泉窯系青磁碗片、瓦質播鉢片、備前産陶器壺片、安山岩系の剥片や結晶片岩片も出土した。また、鉄鏃片や鉄滓も出土した。II・III層境では縄文時代晩期の土器片が、IV層上面では縄文時代早期の押型文土器小片が少量出土した。

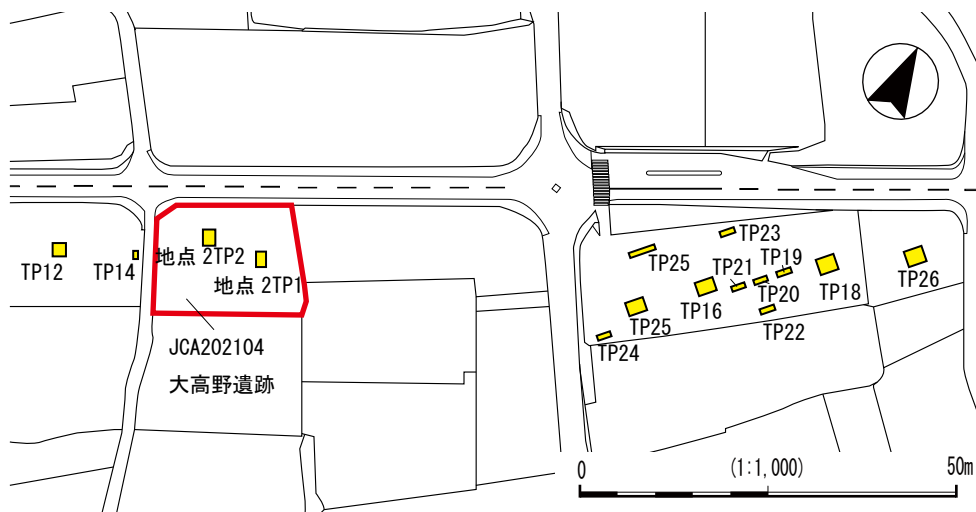


図32 試掘調査と本調査の位置図(S=1/1,000)

⑤協議

遺物包含層の確認された箇所を含むように遺跡範囲を拡張する必要がある。また、当該範囲での工事に際しては協議が必要となることを申し合わせた。

2. 本調査 【JCA202105】

(1) 調査概要

①調査期間と面積 所在地：長崎県島原市寺中町乙 429-1 地先

期間：2021（令和3）年7月2日～2022（令和4）年1月31日

面積：1,011 m² 所在地：長崎県島原市津吹町乙 487-1

②調査の方法

グリッドは、5m × 5m で設定し、北西交点（グリッドの左上）を基準に X 座標の百の位、十の位、Y 座標の百の位、十の位の数字を組み合わせた4桁の番号と、A～Dのアルファベットを北西、北東、南西、南東の順に付与したものをグリッド名とした。さらに、5m ピッチのグリッド内に 2m × 2m の小グリッドと 1m のベルトを設定し、a～dのアルファベットを北西、北東、南西、南東の順に付与したものの小グリッド名とした。サブトレンチは1～3の3か所設定し、土層を記録した。

掘削は、表土・造成土・大規模な攪乱坑は重機掘削、遺構確認作業は人力掘削で行った。土坑等は半截、完掘の手順で行った。樹痕や風倒木を含む攪乱等は、内包物が包含層出土遺物に混入することを防ぐため基本完掘としたが、一部は安全を優先して一部は段下げに留めた。V層以下は等間隔に選定した小グリッドから掘削し、状況に応じて掘削範囲を拡張した。遺物は、V層まではグリッドごとの取り上げを基本とし、VI層以下はすべて座標を記録しながら取り上げを行った。

③発掘作業の経過

発掘調査支援業者との現地協議は同年7月5日に行い、環境整備と現況測量を行った。表土を除去し、精査完了後に空撮、記録作業と埋め戻しを行って調査を完了した。

④調査結果の概要

遺構は、溝(SD)3条、不明土坑(SX)1基を検出した。遺物は、土器・陶磁器類が約3,890点、石器が約110点、炭化物が約10点、金属製品が約50点、合計約4,060点出土した。

(2) 層序

基本層序は以下の通り。なお、層序の番号表記については、II-3. 調査の概略で述べた通り、今回報告する4遺跡5地点の土層を総括して付与した番号である。

I層：現代の耕作土・旧耕作土・造成土等。

I a層：暗褐色土(Hue10YR3/3)。現代の耕作土。

I e層：黒褐色土(Hue10YR2/3)。旧耕作土。縄文時代～明治時代初頭の遺物包含層。

II層：黒色砂質土。縄文時代～中世の遺物包含層。

II a層：黒褐色砂質土(Hue10YR1.7/1)。

II b層：黒色砂質土(Hue10YR2/1)。

II c 層：黒褐色砂質土 (Hue10YR3/2)。

II d 層：黒褐色砂質土 (Hue10YR2/2)。

III層：褐色砂質土。縄文時代の遺物包含層。

III a 層：にぶい黄褐色砂質土 (Hue10YR5/4)。

III b 層：褐色砂質土 (Hue10YR4/6)。

IV層：暗褐色砂質土。縄文時代早期の遺物包含層。

IV a 層：暗褐色砂質土 (Hue10YR3/3)。

IV b 層：黒褐色粘質土 (Hue10YR2/2)。

V層：黒褐色土。遺物が極めて希薄な層。

V b 層：黒褐色土 (Hue10YR2/2)。硬質土のブロックを含む。

V c 層：暗褐色土 (Hue10YR3/3)。硬質土のブロックを含む。

VI層：褐色硬質土。旧石器時代の遺物包含層。

VI a 層：褐色硬質土 (Hue10YR4/4)。クラックが発達する。

VI b 層：暗褐色硬質土 (Hue10YR3/3)。クラックが発達する。

VI c 層：にぶい黄褐色硬質土 (Hue10YR4/3)。クラックが発達する。

VII層：黒褐色粘質土。旧石器時代の遺物包含層。

VII a 層：黒褐色粘質土 (Hue10YR2/2)。

VII b 層：暗褐色粘質土 (Hue10YR3/3)。

VII c 層：黒褐色粘質土 (Hue10YR2/3)。

VII d 層：にぶい黄褐色粘質土 (Hue10YR4/3)。

VIII層：橙色シルト土。無遺物層。

VIII層：褐色シルト土 (Hue7.5YR6/8)。

(3) 遺構

III層上面で3本の溝(SD1～3)を検出した。本来はII層か、それよりも上層から掘り込まれた溝であるが、土色がII層と似ていたため平面検出が困難であった。また、不明遺構(SX1)1基を検出した。そのほか、II層からIII層にかけて複数の樹痕や風倒木痕が認められた。

IV b 層下で東から西方向へと伸びる谷を検出した。谷の埋土はしまりが非常に強く、小礫を多量に含んでいた。雲仙岳災害記念館の長井大輔氏によると、周辺の火山灰が谷に集まったのではないかとのことであった。

【SD】

SD1

SD1は土層断面から幾度か掘りなおされた状況が観察できる。年代は出土遺物から近世頃と考えられる。被熱した堆積岩や鉄滓(表17・写真81)も出土している。

SD2

SD2はSD3と直行しており、SD3を切っている。上部は削平され、底面がわずかに残存する程度である。埋土から縄文土器の小片がごくわずか出土している。年代不明。

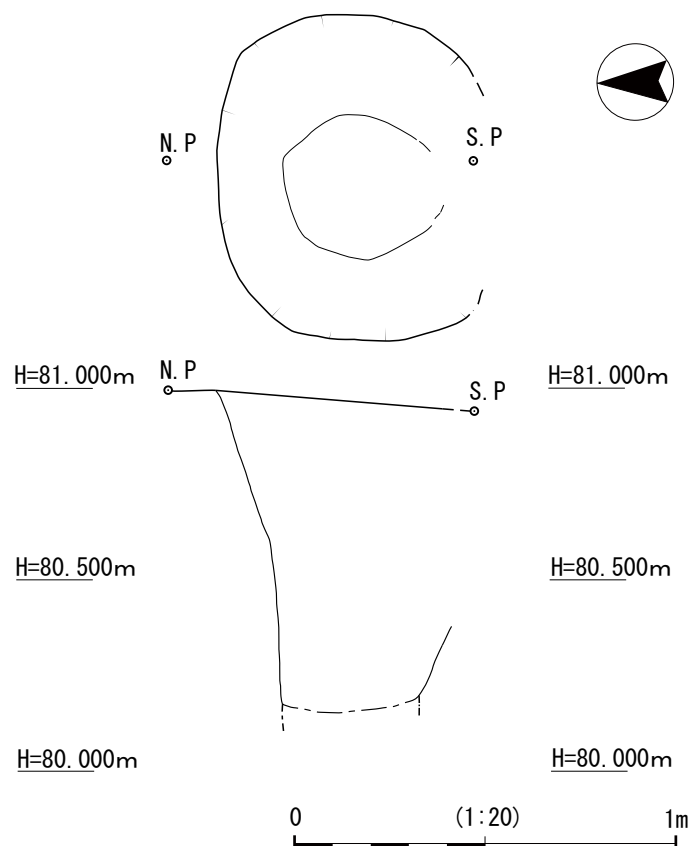
SD3

SD3 はSD2 と直交しており、SD2 に切られている。上面は削平されている。底面はやや硬化する。埋土から縄文土器や弥生土器の小片が出土したが、年代を特定するには量が少ない。年代不明。

【SX】

SX1

規模は長径 90cm × 短径 70cm。検出面から 2m 掘り下げた地点で掘削深度が安全上の限界に達したため調査を中止したが、本来の底面はかなり深いことが予想される。VIII層上面で検出したが、本来はVIII層より上層から掘り込まれた可能性が高い。埋土中から出土遺物は無く、年代は不明であるが、形状や埋土の状況から素掘りの井戸である可能性がある。

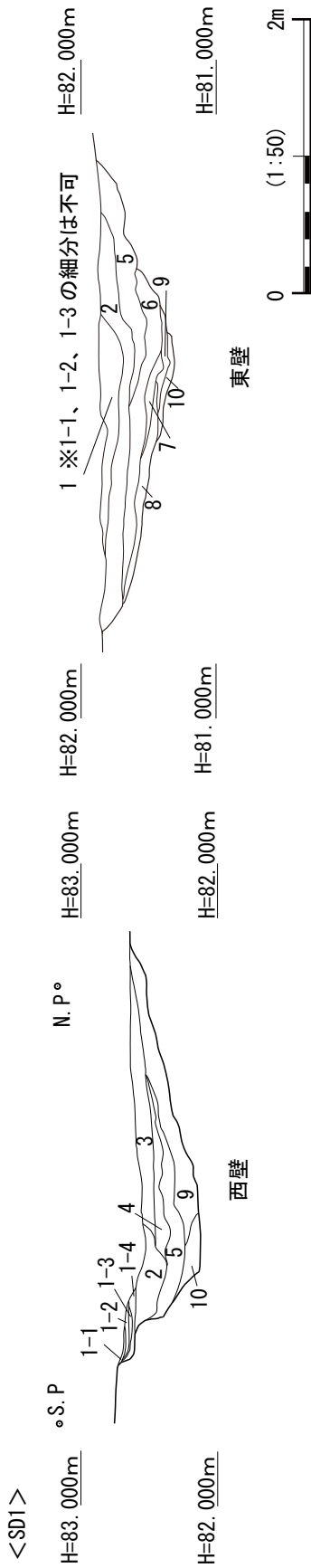


<土層注記>

1層：黒褐色粘質土 (Hue10YR2/2)

しまりやや強い。中粒砂を3%、2~5mmの白色・黄土色の白色粒子を2%含むほか、100~150mmの黄橙色シルト土のブロックを2%含む。全体的に均一であるが、深さ600~700mm付近になると、10~30mm程度の硬質土のブロックと8mm前後の白色粒子、10~40mm前後の風化礫が混じるようになる。

図 33 SX1 平面図及び断面図 (S=1/20)



<土層注記>

- 1-1 : 黒褐色砂質土 (Hue10YR2/3)
しまりやや強い。中粒砂を15%、粗粒砂5%、極粗粒砂を2%含む。
- 1-2 : 黒褐色粘質土 (Hue10YR2/2)
しまりやや強い。中粒砂を3%、粗粒砂を1%含む。
- 1-3 : 黄灰褐色粘質土 (Hue10YR4/2)
しまり非常に弱い。中粒砂を50%、粗粒砂を30%、極粗粒砂を3%含む。
砂粒の約50%が透明色。
- 1-4 : 黒褐色粘質土 (Hue10YR2/2)
しまりやや強い。中粒砂を5%、粗粒砂を3%、2~3mm程度の白色粒子を3%含む。
- 2 : 黒褐色砂質土 (Hue10YR2/2)
しまり弱い。中粒砂を3%、粗粒砂を2%、2mmの白色粒子を2%、20~40mm程度の黒色砂質土のブロックを30%、30mm程度の垂円礫をごく少量含む。
- 3 : 暗褐色粘質土 (Hue10YR3/3)
しまり弱い。中粒砂を7%、粗粒砂を2%、2~3mmの白色粒子を3%、3mm前後の炭化物を2%含む。
- 4 : 黒褐色粘質土 (Hue10YR2/3)
しまりやや弱い (3よりやや強い)。中粒砂を5%、粗粒砂を2%、3~7mm前後の炭化物を1%、2~3mmの白色粒子を1%含む。3と比べて土色は暗く、含有物が少ない。

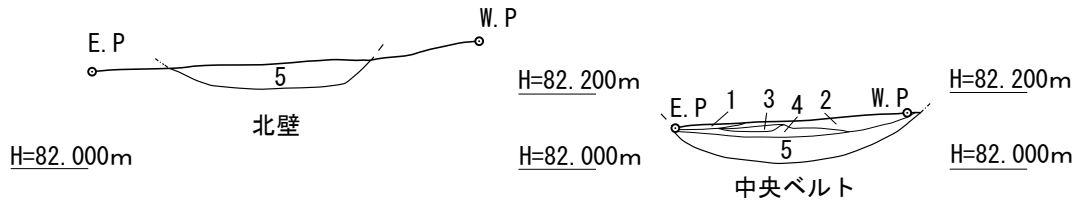
- 5 : 黒褐色粘質土 (Hue10YR2/2)
しまりやや強い。中粒砂を3%、粗粒砂を2%、1mm前後の白色粒子を1%含む。
- 6 : 暗褐色粘質土 (Hue10YR3/3)
しまり弱い (3より弱い)。中粒砂を7%、粗粒砂を2%、2~3mmの白色粒子を3%、3mm前後の炭化物を20%含む。※3と比べて土色は明るく、褐色砂質土のブロックを含まない。
- 7 : 黒褐色粘質土 (Hue10YR2/3)
しまりやや弱い (6よりやや強い)。中粒砂を5%、粗粒砂を2%、3~7mm前後の炭化物を1%、2~3mmの白色粒子を1%含む。6と比べて土色は暗く、含有物が少ない。
- 8 : 暗褐色粘質土 (Hue10YR3/3)
しまりやや弱い (7よりやや強い)。中粒砂を3%、粗粒砂を2%、2mmの白色粒子を2%含む。
- 9 : 黒褐色粘質土 (Hue10YR3/2)
しまりやや強い。中粒砂を5%、粗粒砂を2%、2~3mm前後の白色粒子を5%、30mm前後の円礫を少量含む。
- 10 : 黒褐色粘質土 (Hue10YR2/2)
しまりやや強い。分粒度普通。中粒砂を10%、粗粒砂を3%、極粗粒砂を3%含む。3mm前後の白色粒子を1%、30mm程度の角礫をごく少量含む。

図 34 SD1 土層断面図 (S=1/50)

<SD2>

H=82.500m

H=82.500m



<土層注記>

1層：黒褐色砂質土 (Hue10YR2/2)
しまりやや強い。1mm前後の白色・黄土色の粒子を3%含む。

3層：黒褐色砂質土 (Hue10YR2/2)
しまりやや弱い。中粒砂を1%含む。

5層：黒褐色砂質土 (Hue10YR2/2)
しまりやや弱い。1~3mm程度の白色粒子を3%含むほか、底面に近いところで、Ⅲ層由来の10mm前後のブロックを2%含む。

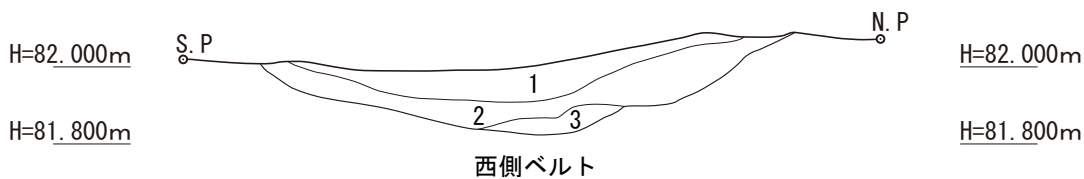
2層：暗褐色砂質土 (Hue10YR3/3)
しまり強い。中粒砂が混入するが密度に15%~25%程度のムラがある。粗粒砂2%、1mm前後の白色・黄土色の粒子を3%含む。

4層：暗褐色中粒砂 (Hue10YR3/3)
しまりやや強い。暗褐色の砂質土に中~粗粒砂が入るが、密度に30~70%程度のムラがある。

<SD3>

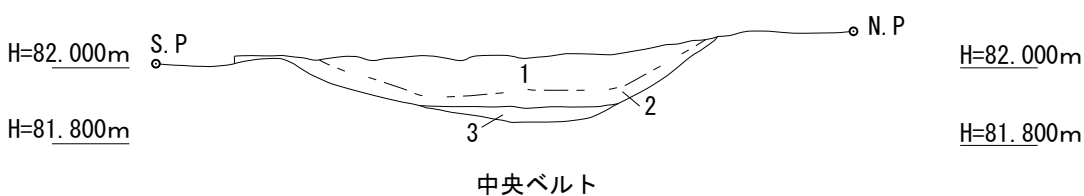
H=82.200m

H=82.200m



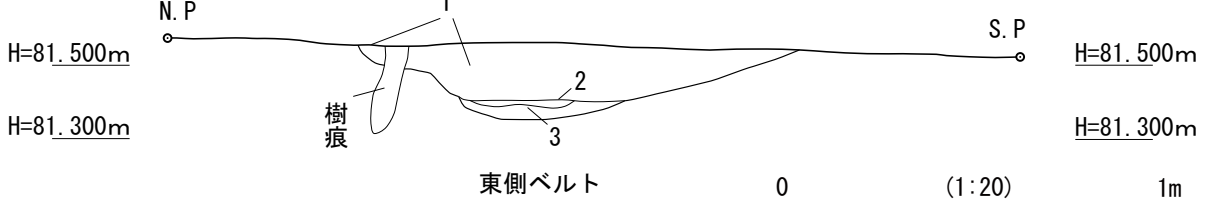
H=82.200m

H=82.200m



H=81.700m

H=81.700m



<土層注記>

1層：黒褐色砂質土 (Hue10YR2/3)
しまり弱い。粗粒砂5%、2~3mm程度の白色粒子を2%含むほか、わずかに暗褐色や褐色土のブロックが混入する。

2層：暗褐色砂質土 (Hue10YR3/3)
しまりやや弱い。粗粒砂を7%、2~3mm程度の白色粒子を5%含む。1層と2層の境は不明瞭。1層とは砂や粒子の量と褐色砂質土が混じる点で異なる。

3層：にぶい黄褐色粘質土 (Hue10YR4/3)
しまり非常に強い。1~3mmの白色の白色粒子を15%含む。SD3の底面に堆積する。土質はⅥ層褐色硬質土に似ている。

図 35 SD2 及び SD3 土層断面図 (S=1/20)

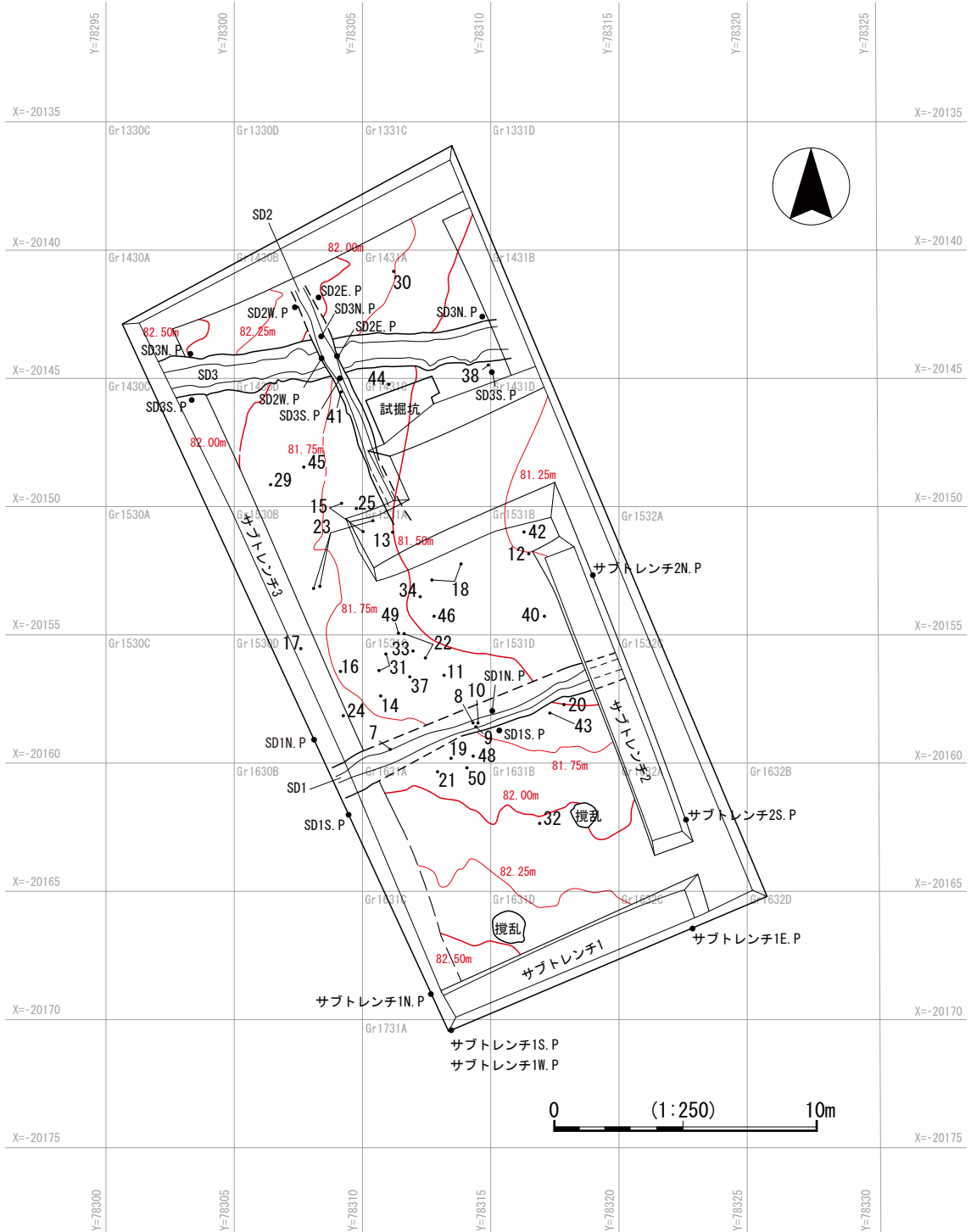


図 36 調査区Ⅲ b 層平面図及び等高線図 (S=1/250)

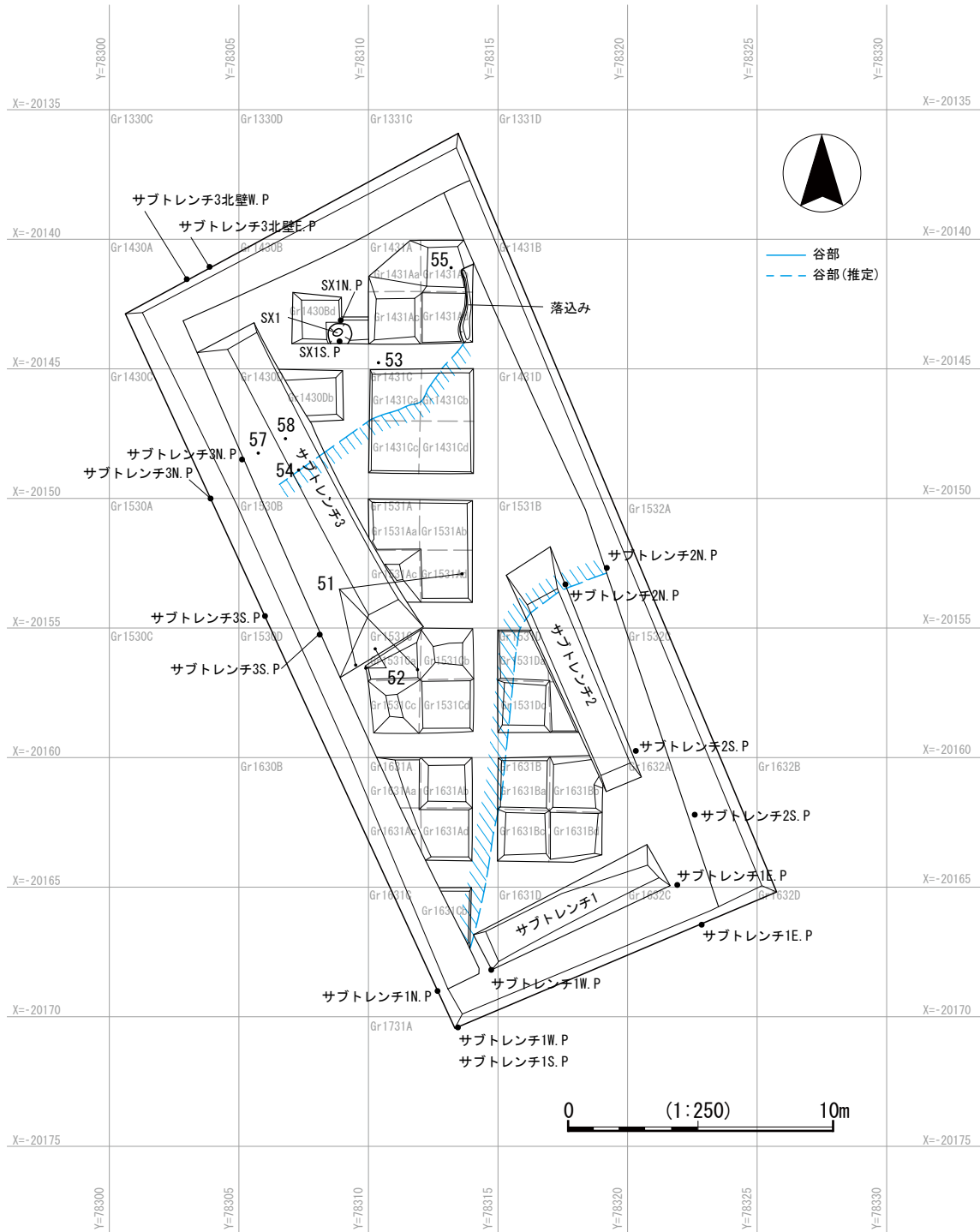


図 37 調査区IV b層平面図 (S=1/250)

(4) 遺物

① SD1

1は片面に被熱痕がある堆積岩の石製品である。2は縄文時代晩期の深鉢である。口縁部付近に三条の沈線文が施される。3は弥生時代中期の甕、または壺である。外面に三条の突帯が施される。4は近世陶器碗である。5は円形土製品である。甕等の胴部を打ち欠いて整形したと思われる。6は土錘である。一方の先端部が僅かに欠損するが、ほぼ完形である。7は中世の陶器である。底部に緑青が付着する。8は須恵器の口縁部である。内面にハケメが施される。9は中世の青磁碗高台である。13世紀頃か。10は中世の白磁高台である。11世紀頃か。

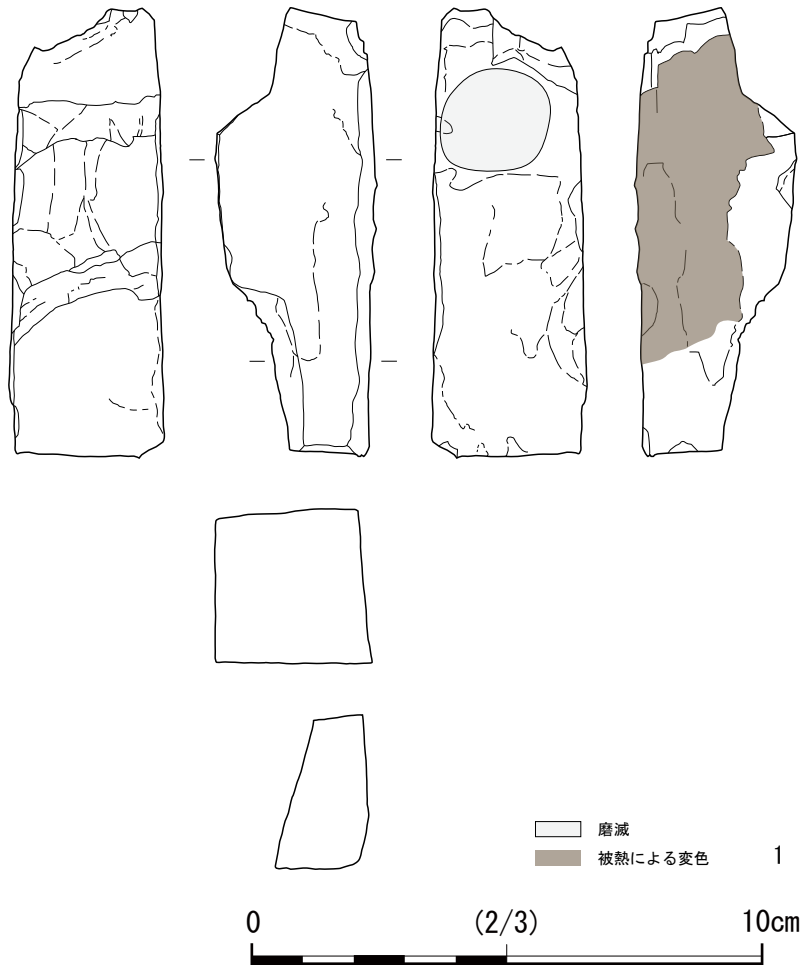


図 38 SD1 出土石器 (S=2/3)

表 15 遺物一覧 (SD1 出土石器)

番号	ID	出土位置	器種	石材	法量 (cm・g)				調整ほか特徴	備考
					長さ	幅	厚み	g		
1	5023	SD1	石製品	堆積岩	8.9	3.1	3.1	136.1	断面「ト」の字。片面被熱する	

②II層

11は縄文土器口縁、12は縄文土器の胴部片である。13は縄文土器底部である。14、15は弥生時代の土器である。16、17、18は弥生時代の壺である。21、22は弥生時代の台付甕脚部である。胴部は欠損する。19、20、23、24、25は弥生時代の土器である。26、27、28は中近世頃の土師質小皿と思われる。29は縄文時代の土器口縁である。30は縄文時代の黒色磨研磨土器胴部片である。31は縄文土器の胴部片である。32、33は黒曜石製の剥片である。34は玄武岩製の剥片である。35は蛇紋岩性の磨製石斧刃部である。36は安山岩製の石鏃である。37は砂岩製の砥石と思われる。38、39は石器ではなく玄武岩の破片と思われる。どちらも付着物があり、何かしら手を加えた可能性がある。

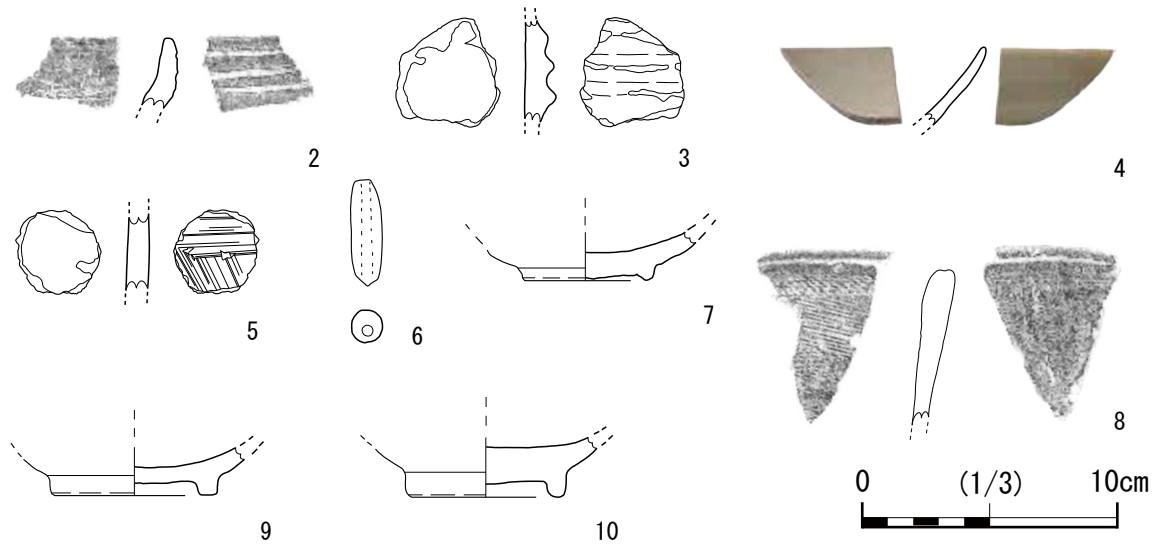


図 41 SD1 出土土器・陶磁器 (S=1/3)

表 16 遺物一覧 (SD1 出土土器・陶磁器)

番号	ID	出土位置	種別 器種 型式・時期	部位	法量 (cm)			調整ほか特徴	色調 上段：外面 下段：内面	備考
					器高	口径	底径			
2	0387	SD1	縄文 深鉢	口縁	-	-	外】沈線文	5YR6/4にぶい橙 10YR5/2灰黄褐	御領式系か	
3	0303	SD1	弥生 壺/甕	胴	-	-	外】突帯	10YR4/1褐灰 5YR6/6橙	筑後系か	
4	2036	SD1	陶器 碗 近世	口縁	-	(15.0)	紅口か	2. 5GY7/1明オリーブ灰 2. 5GY7/1明オリーブ灰	肥前系	
5	2077	SD1	陶器 近世				釉無し	5YR5/2灰褐 2. 5YR5/3にぶい赤褐		
6	2076	SD1	土錘	ほぼ完形		0.6		5YR6/6橙	一方の先端僅かに欠損	
7	2004	SD1埋土中 底面直上P89	陶器 中世	底	-	-	4.4 底部に緑青付着	2. 5Y7/2灰黄 5Y7/2灰白	瀬戸系か 蛍光X線分析で 銅・鉛検出	
8	2007	SD1 P97	須恵器	口縁	-	-	赤色 内】ハケメ	2. 5YR6/8橙 7. 5YR6/6橙		
9	2005	SD1 P94	青磁 中世	高台	-	-	(6.3) 見込みにスタンプ	2. 5Y5/2暗灰黄～10Y6/2 オリーブ灰 10Y6/2オリーブ灰		
10	2006	SD1 P95	白磁 中世	高台	-	-	(6.0)	10Y8/2灰白 10Y8/2灰白		

表 17 遺物一覧 (SD1 出土鉄滓)

番号	ID	出土位置	器種	材質	法量 (cm・g)				備考
					長さ	幅	厚み	g	
—	9044	II層 P75	鉄滓	鉄	5.1	5.8	4.0	108.23	写真81に掲載。
—	9045	II層 P86	鉄滓	鉄	9.2	6.6	3.2	209.05	写真81に掲載。

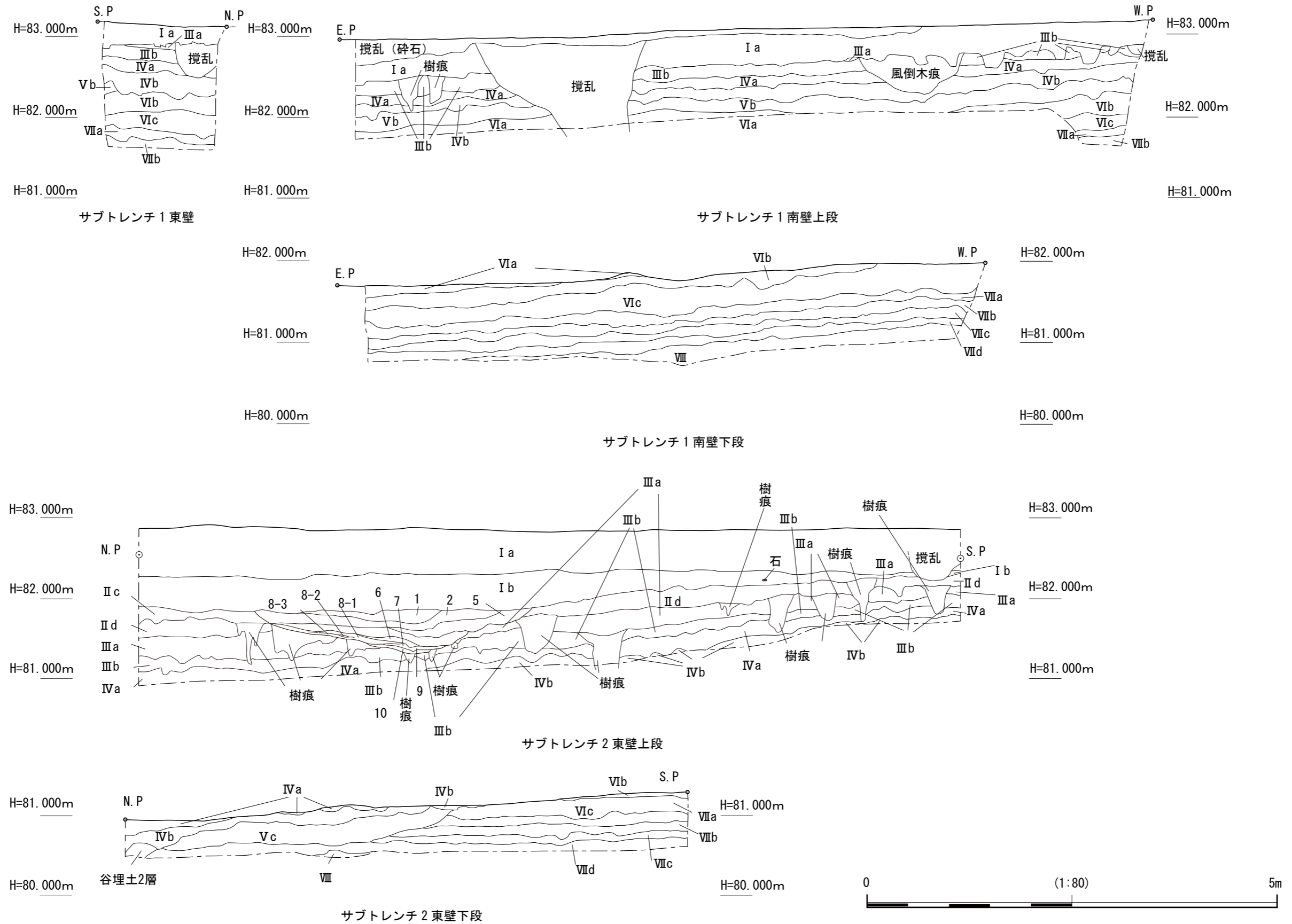
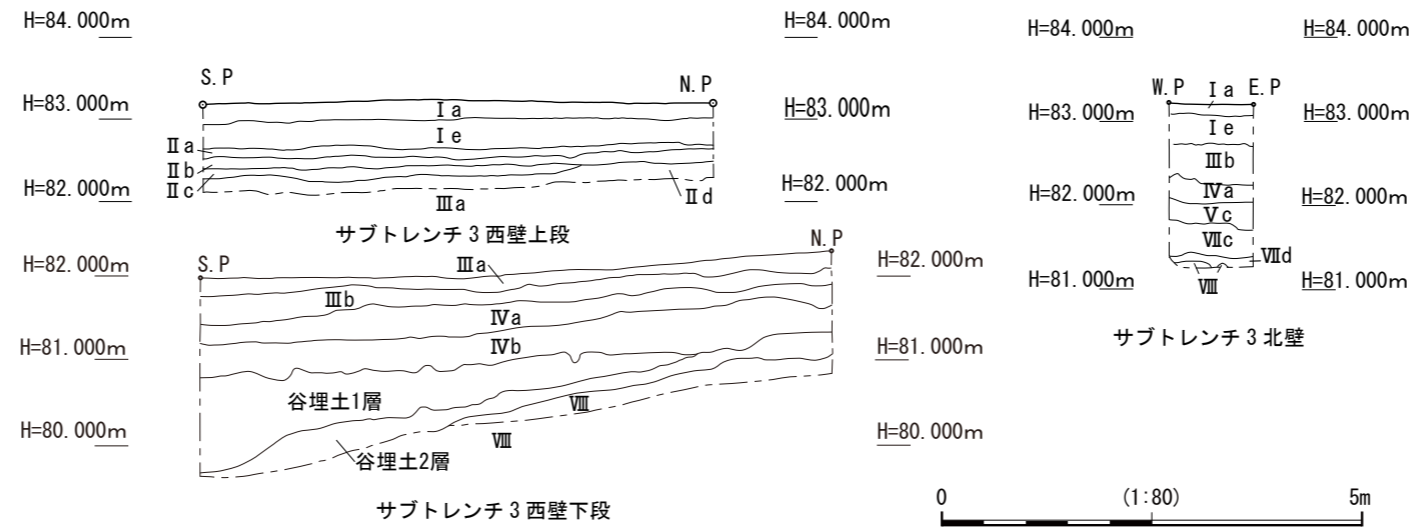


図 39 調査区土層断面図 1 (S=1/80)



<土層注記>

- I a層：暗褐色土 (Hue10YR3/3)
現代の耕作土。しまり強い。2～3mm程度の白色粒子を10%、5mm前後の白色粒子を7%、10mm前後の白色粒子を3%含む。
- I e層：黒褐色土 (Hue10YR2/3)
旧耕作土。縄文時代～明治時代初頭の遺物包含層。しまり弱い。2～3mm程度の白色粒子を8%、5mm前後の白色粒子を5%、10mm前後の白色粒子を3%含む。
- II a層：黒色砂質土 (Hue10YR1.7/1)
II b層より暗色で、砂粒をほとんど含まない。しまりやや強い。細粒砂を3%、2～3mm程度の白色粒子を2%含む。
- II b層：黒色砂質土 (Hue10YR2/1)
II a層より明色で砂粒が多い。II c層より暗色で砂粒・白色粒子の量は少ない。しまりやや強い。細粒砂を5%、2～3mm程度の白色粒子を3%含む。
- II c層：黒褐色砂質土 (Hue10YR3/2)
II層と比べてやや褐色味を帯びる。しまり弱い。細粒砂を7%含む。西壁中央で100mmの厚さで堆積し、北側に行くにつれて徐々に薄くなり消える。
- II d層：黒褐色砂質土 (Hue10YR2/2)
III層との漸位層。しまりやや弱い。細～中粒砂を25%、粗粒砂を2%、4mm前後の白色粒子を3%含む。黒色と褐色の斑紋が入る。
- III a層：にぶい黄褐色砂質土 (Hue10YR5/4)
縄文時代晩期の遺物包含層。しまり非常に強い。土色は均一ではなく、20～30mmの暗褐色の斑紋が入る。土質は明色なほどしまりが強く砂質(細～中粒砂20%、粗粒砂5%、極粗粒砂2%)で、暗色なほど含有する砂粒は少なく(細～中粒砂10%)しまりは弱い。全体的に2～4mm程度の白色粒子を20%、8mm程度の白色粒子をごく稀に含む。
- III b層：褐色砂質土 (Hue10YR4/6)
遺物が極めて希薄な層。しまり強い。III a層と比べて土色は赤味を帯び、しまりもやや弱くサラサラしている。中粒砂10%、粗粒砂6%、極粗粒砂を3%、4mm前後の白色粒子を3%含む。

- IV a層：暗褐色砂質土 (Hue10YR3/3)
しまりやや強い。20～30mm程度の褐色の斑紋が入り、上層ほど密で下に行くほど希薄になる。III b層とIV b層の漸移層。
- IV b層：黒褐色粘質土 (Hue10YR2/2)
しまりやや強い。粗粒砂を3%、2～4mm程度の白色粒子を2%、8mm前後の白色粒子を1%含む。
- V b層：黒褐色土 (Hue10YR2/2)
硬質土のブロックを含む。しまりやや弱い。基質は2mm前後の白色粒子を2%含む火山灰土で、硬質土ブロックは黒褐色でしまりは非常に強くクラックが発達する。粗粒砂を6%、3mm前後の白色粒子を20%、5～10mm程度の白色粒子を5%含む。大きさは、西側では100～150mm程度で、東側では200mm前後と大きくなる傾向がある。
- V c層：暗褐色土 (Hue10YR3/3)
硬質土のブロックを含む。しまり弱い。基質は細～中粒砂を10%、2mm前後の白色粒子2%、3mm前後の垂角礫を2%含む。硬質土のブロックは、にぶい黄褐色、褐色、暗褐色があり、中～粗粘砂や白色粒子を含んでいる。
- VI a層：褐色硬質土 (Hue10YR4/4)
クラックが発達する。しまり非常に強い。中～粗粒砂を5%、3mm前後の白色粒子を2%含む。VI b層と比べて褐色味を帯びる。
- VI b層：暗褐色硬質土 (Hue10YR3/3)
クラックが発達する。しまり非常に強い。中粒砂を5%、2mm前後の白色粒子をごく少量含む。VI a層やVI c層と比べて暗色。
- VI c層：にぶい黄褐色硬質土 (Hue10YR4/3)
クラックが発達する。しまり非常に強い。中～粗粒砂を8%、2mm前後の白色粒子を3%含む。VI b層と比べて黄褐色味を帯びる。

- VII a層：黒褐色粘質土 (Hue10YR2/2)
しまりやや弱い。中粒砂を0.8%、3mm前後の白色粒子をごく少量含む。
- VII b層：暗褐色粘質土 (Hue10YR3/3)
しまりやや強い。細～中粒砂を1%、2mm前後の白色粒子を1%含む。クラックがやや発達する。
- VII c層：黒褐色粘質土 (Hue10YR2/3)
しまりやや弱い。中粒砂を3%、3mm前後の白色粒子を3%含む。下位で粘質が高いところが部分的に見られる。
- VII d層：にぶい黄褐色粘質土 (Hue10YR4/3)
しまりやや強い。中～粗粒砂を1%、4mm前後の垂角礫を0.6%含む。土色にムラがある。漸移層。
- VIII層：橙色シルト土 (Hue7.5YR6/8)
しまりやや弱い。極粗粒砂を1%、3～8mm程度の垂角礫を2%含む。
- 谷埋土1層：含細礫暗褐色砂質泥 (Hue10YR3/3)
しまり非常に強い。土色は均一ではなく、上層では黒褐色から下に行くにつれて暗褐色へとグラデーション状に変化する。中間から下層にかけてはやや不明瞭であるが、黒褐色土と暗褐色土が交互に堆積している。基質の砂質泥は、中粒砂を20%、2～4mmの細礫を25%、5～15mmの中礫を10%含む。その他の含有する礫は下に行くほど大きくなる傾向があり、上層では30mm前後で、最下層では40～60mmを超える風化した礫を含むようになる。礫は、乳白色・灰白色・黄土色・赤褐色の角礫・垂角礫・垂円礫が混在する。ク
- 谷埋土2層：にぶい黄褐色粘質土 (Hue10YR4/3)
しまり非常に強い。土色は均一ではなく、20mm前後の暗褐色の斑紋が入り、橙色シルト土が混在する。漸移層。

図40 調査区土層断面図2(S=1/80)

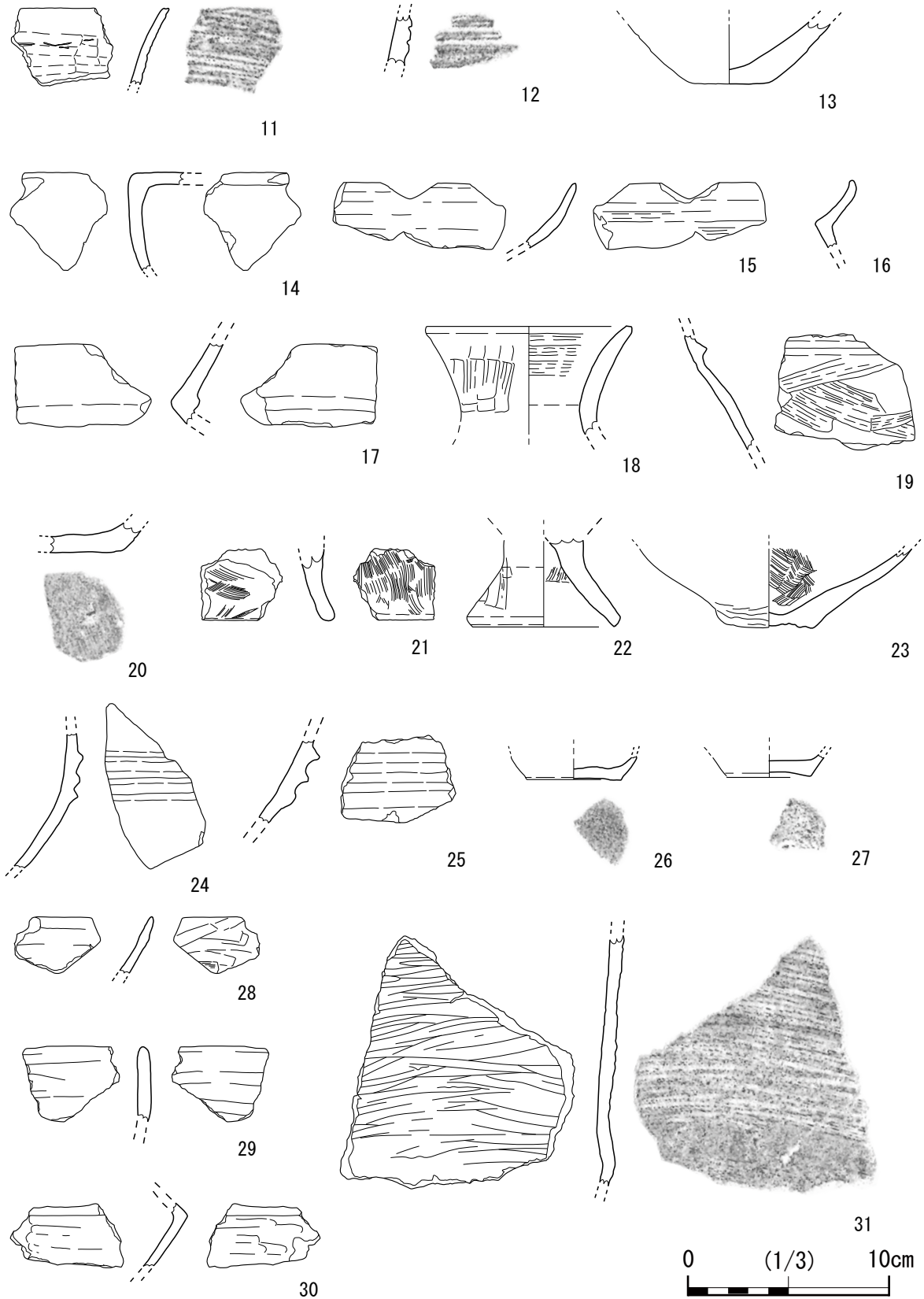


图 42 II層出土遺物 1(S=1/3)

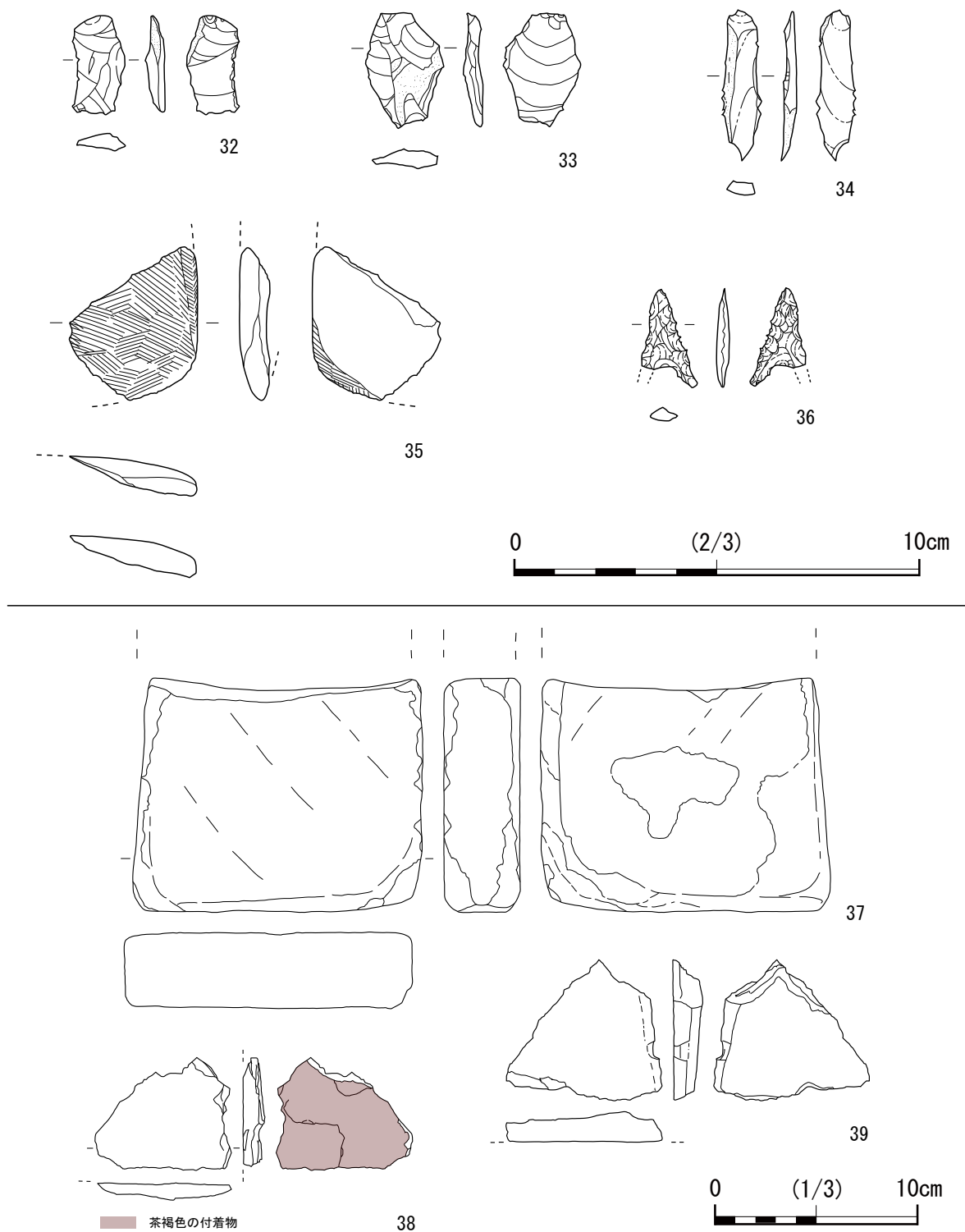


図 43 II 層出土遺物 2 (S=2/3)

表 18 遺物一覧（Ⅱ層出土土器・陶磁器）

番号	ID	出土位置	種別 型式	器種 時期	部位	法量 (cm)			調整ほか特徴	色調 上段：外面 下段：内面	備考
						器高	口径	底径			
11	0100	Ⅱ層 P87	縄文		口	-	-	-	外】条痕文 内】ミガキ、ヨコナデ	2. 5Y6/2灰黄 10YR7/4にぶい黄橙	
12	0079	Ⅱ層 P61	縄文 晩期		胴	-	-	-	外】沈線文	7. 5YR4/2灰褐 2. 5YR5/6明赤褐～ 5YR4/2灰褐	黒川式系か
13	0107	Ⅱ層 P102	縄文	土器	底	-	-	(6.0)		7. 5YR5/2灰褐 7. 5YR6/4にぶい橙	
14	0030	Ⅱ層 P8	弥生		口	-	-	-		5YR6/8橙 5YR7/8橙～2. 5Y7/3浅黄	
15	0054	Ⅱ層 P31	弥生		口	-	-	-	内外】ナデ 外】赤色顔料	5YR6/6橙～10YR7/4にぶ い黄橙 10YR7/4にぶい黄橙	
16	0070	Ⅱ層 P49	弥生	壺	口	-	-	-		10YR7/4にぶい黄橙 10YR7/4にぶい黄橙	
17	0073	Ⅱ層 P52	弥生	甕	口	-	-	-		10YR7/6明黄褐 10YR8/4浅黄橙	
18	0065	Ⅱ層 P44	弥生	壺	口～頸	-	(10.4)	-	内外】ハケメ、ナデケ シ	2. 5Y6/4にぶい黄 10YR6/6明黄褐	
19	0095	Ⅱ層 P80	弥生		胴	-	-	-	外】三角突帯、ハケ メ、赤色顔料	2. 5YR5/6明赤褐 10YR8/4浅黄橙	
20	0091	Ⅱ層 P76	弥生		底	-	-	-	平底	2. 5Y7/4浅黄 2. 5Y8/4浅黄	
21	0094	Ⅱ層 P79	弥生		脚部	-	-	-	外】ハケメ	10YR6/6明黄褐 10YR5/2灰黄褐	
22	0064	Ⅱ層 P43	弥生	台付甕	脚部	-	-	(7.2)	外】ハケメ、ナデケシ	10YR7/6明黄褐 10YR7/6明黄褐	胴部欠損
23	0052	Ⅱ層 P28	弥生		底	-	-	(5.0)	内】ハケメ	10YR8/4浅黄橙 7. 5YR8/4浅黄橙	
24	0105	Ⅱ層 P96	弥生 中期	壺	胴	-	-	-	外】3条の突帯	10YR8/4浅黄橙 2. 5Y7/4浅黄	筑後式系か
25	0076	Ⅱ層 P55	弥生	中期	胴	-	-	-	外】3条の突帯	2. 5Y4/3オリーブ褐 7. 5YR6/6橙	筑後式系か
26	2061	Ⅱ層北側	土師器 中近世		口～底	-	-	(4.6)	1/4残存、糸切痕あり	7. 5YR6/6橙 7. 5YR7/8黄橙	
27	2065	Gr5131DⅡ層	土師器 中近世		底	-	-	(4.2)	糸切痕あり	7. 5YR6/6橙 7. 5YR6/6橙	
28	2079	Ⅱ層北側	土師器 中近世		口	-	-	-		10YR7/4にぶい黄橙 10YR7/6明黄褐	
29	0027	Ⅱ層下位 P5	縄文		口	-	-	-	内外】ヨコナデ	7. 5YR6/6橙 10YR6/4にぶい黄橙	
30	0078	Ⅱ層下位 P57	縄文 晩期	浅鉢	胴	-	-	-	黒色磨研土器 内外】ミガキ	5Y4/1灰 2. 5Y5/1黄灰	
31	0082	Ⅱ層下位 P64	縄文 晩期		胴	-	-	-	外】条痕文 内】ミガキ	2. 5Y5/2暗灰黄 7. 5YR7/6橙	

表 19 遺物一覧（Ⅱ層出土石器）

番号	ID	出土位置	器種	石材	法量 (cm・g)				調整ほか特徴	備考
					長さ	幅	厚み	g		
32	5017	Ⅱ層下位P65	剥片	黒曜石	2.4	1.3	0.6	1.36	全体的に風化する	
33	5015	Ⅱ層P58	剥片	黒曜石	2.9	1.9	0.5	1.80	全体的に風化する	
34	5016	Ⅱ層P60	剥片	玄武岩	3.8	1.0	0.4	1.30		縦長剥片か
35	5035	Gr1431CⅡ層	磨製石斧	蛇紋岩	3.8	3.3	0.7	9.07	刃部の一部と基部欠損	刃部
36	5021	Gr1531AⅡ層	石鏃	安山岩	2.5	1.4	0.4	0.66	脚部片方欠損	
37	5027	Ⅱ層P85	板状石製品	砂岩	11.7	14.3	3.8	1300.0	部分的に研磨痕あり	砥石か
38	5003	Ⅱ層P33	自然石	玄武岩	5.6	6.7	1.1	40.20	黒褐色の付着物あり	
39	5039	Gr1531BⅡ層	自然石	玄武岩	7.0	7.8	1.4	94.40	片面に茶褐色の付着物あり	

③Ⅲ層

40 は縄文時代晩期の浅鉢口縁である。両面にミガキが施される。41 は縄文時代晩期の深鉢である。42 は縄文時代の土器口縁である。外面に条痕文、内面にミガキが施される。43、44 は縄文時代晩期の深鉢である。45、46 は弥生時代の壺、又は甕の底部である。47 は縄文時代早期の押型文土器胴部片である。やや摩滅するが、楕円形押型文と思われる。48、49 は黒曜石製の剥片である。50 は敲石である。片面に研磨痕があり、磨石として使用した可能性も考えられる。

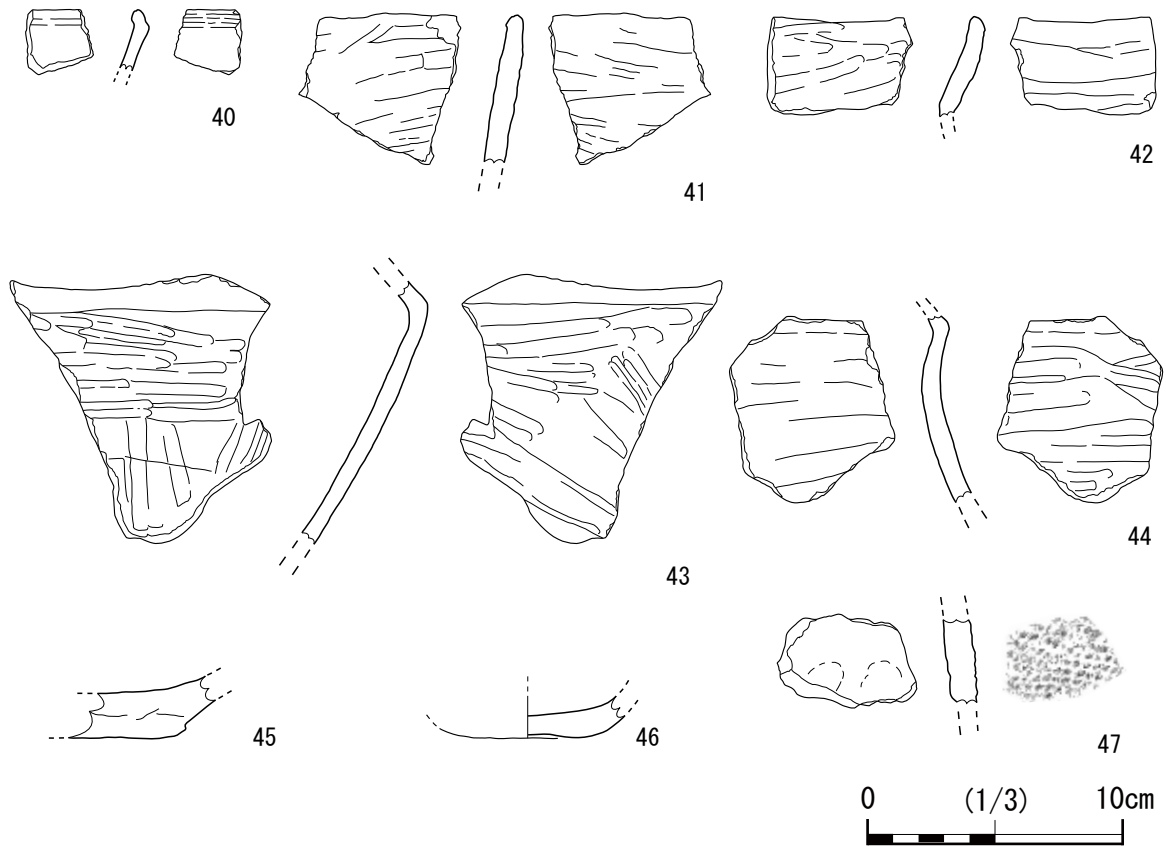


図 44 Ⅲ層出土遺物 1 (S=1/3)

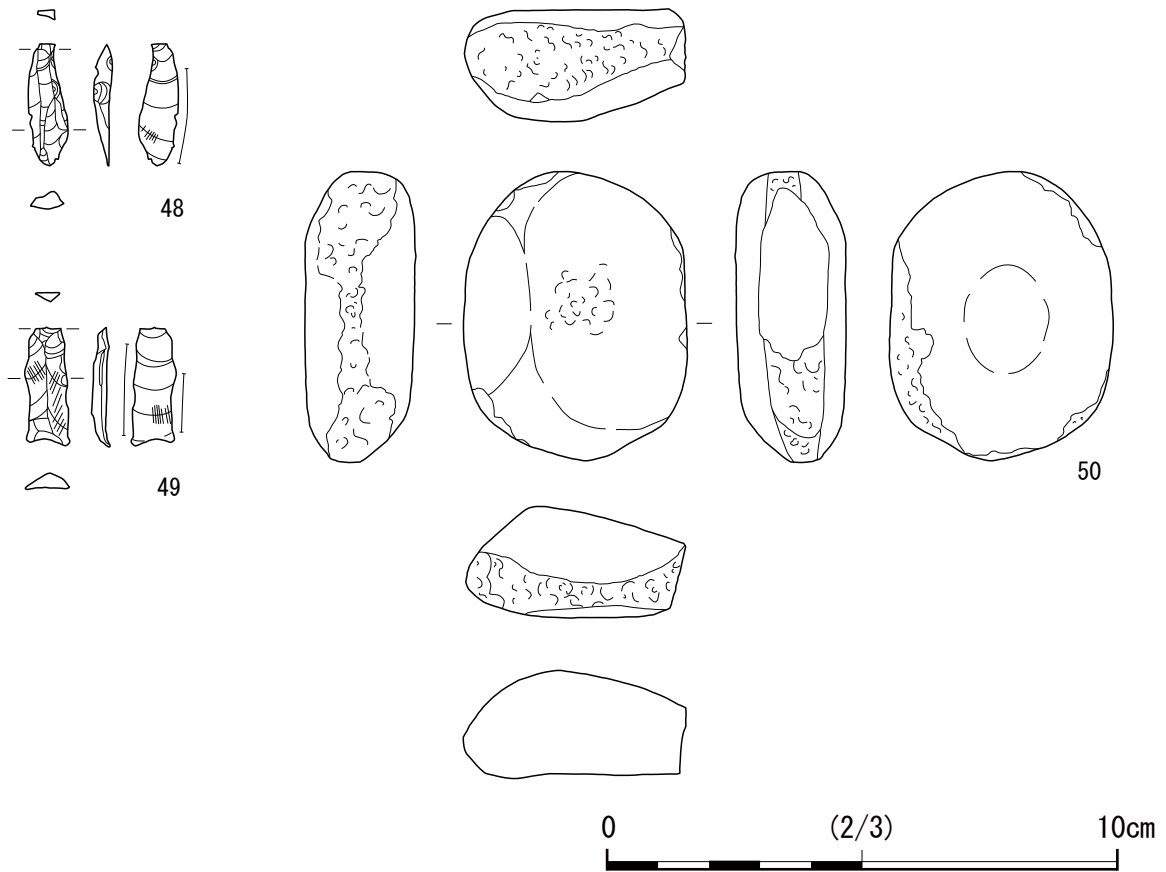


図 45 Ⅲ層出土遺物 2(S=2/3)

表 20 遺物一覧（Ⅲ層出土土器）

番号	ID	出土位置	種別 型式・時期	器種	部位	法量 (cm)			調整ほか特徴	色調 上段：外面 下段：内面	備考
						器高	口径	底径			
40	0112	Ⅲa層P112	縄文	浅鉢	口	-	-	-	内外】ミガキ	2. 5Y7/2灰黄 2. 5Y7/2灰黄	
41	0088	Ⅲa層上位P72	縄文	深鉢	口	-	-	-	外】条痕文 内】ヨコナデ	5Y4/1灰 10YR5/3にぶい黄褐	
42	0089	Ⅲa層上位P73	縄文	土器	口	-	-	-	外】条痕文 内】ミガキ	10YR6/4にぶい黄橙 10YR7/6明黄褐	
43	0102	Ⅲa層上位P90	縄文	深鉢	胴	-	-	-	内外】ミガキ	2. 5Y6/2灰黄 10YR5/1褐灰	内面黒色、粗製土器
44	0115	Ⅲa層上位P117	縄文	深鉢	胴	-	-	-	外】ミガキ 内】ヨコナデ	10YR6/3にぶい黄橙 2. 5Y6/2灰黄	
45	0108	Ⅲa層上位P103	弥生	土器	底	-	-	(13)	平底	7. 5YR6/6橙 10YR7/4にぶい黄橙	
46	0109	Ⅲa層上位P104	弥生	土器	底	-	-	(5)	やや上底	10YR6/4にぶい黄橙 10YR7/4にぶい黄橙	
47	0118	Ⅲb層	縄文		胴	-	-	-	外】楕円形押型文	2. 5Y7/4浅黄 2. 5Y7/3浅黄	縄文早期

表 21 遺物一覧（Ⅲ層出土石器）

番号	ID	出土位置	器種	石材	法量 (cm・g)				調整ほか特徴	備考
					長さ	幅	厚み	g		
48	5018	Ⅲa層上位P100	剥片	黒曜石	2.4	0.8	0.4	0.42		
49	5019	Ⅲa層上位P106	剥片	黒曜石	2.3	0.9	0.3	0.52		
50	5020	Ⅲa層P116	敲石		5.7	4.4	2.2	88.33	片面に研磨痕あり	

④IV層

51、52は縄文時代早期の格子目文押型文土器である。53、54、55、56は縄文時代早期の楕円形押型文土器である。57は縄文時代早期の山形押型文土器である。58は安山岩製の剥片である。

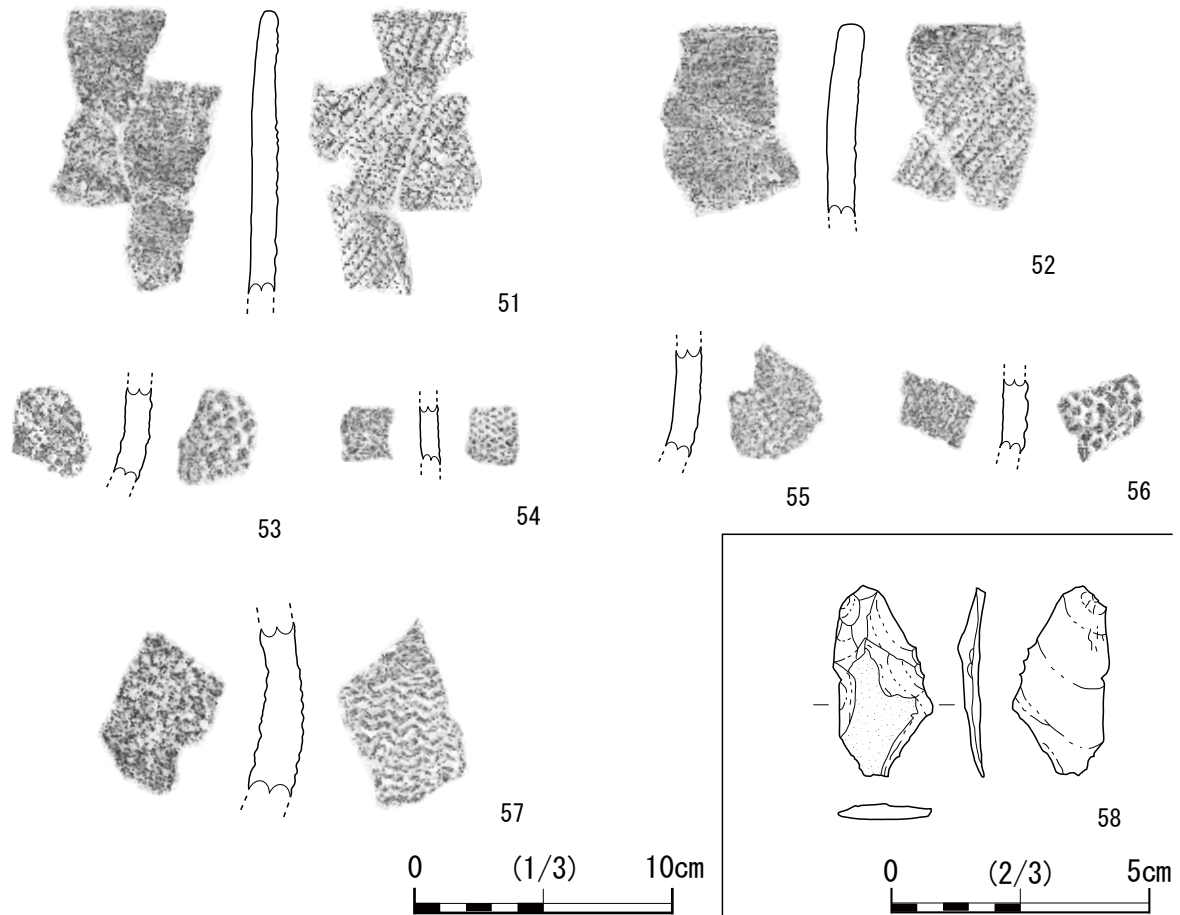


図 46 IV層出土遺物 (S=2/3)

表 22 遺物一覧 (IV層出土土器)

番号	ID	出土位置	種別・器種 型式・時期	部位	法量 (cm)			調整ほか特徴	色調 上段：外面 下段：内面	備考
					器高	口径	底径			
51	0122	IVa層P120	縄文 早期 深鉢	口～胴	-	-	-	外】格子形押型文	7. 5YR6/6橙 10YR6/2灰黄褐	
52	0123	IVa層P121	縄文 早期 深鉢	口	-	-	-	外】格子形押型文	7. 5YR6/6橙 7. 5YR6/4にぶい橙	
53	0126	IVa層P124	縄文 早期 深鉢	胴	-	-	-	外】楕円形押型文	10YR6/4にぶい黄橙 2. 5Y7/3浅黄	やや摩滅する
54	0113	IVa層P114	縄文 早期 深鉢	胴	-	-	-	外】楕円形押型文	5YR5/6明赤褐 5YR5/6明赤褐	
55	0130	IVa層P130	縄文 早期 深鉢	胴	-	-	-	外】楕円形押型文	10YR7/4にぶい黄橙 2. 5Y6/2灰黄	
56	0141	IVa層	縄文 早期 深鉢	胴	-	-	-	外】楕円形押型文	5YR6/6橙 2. 5Y6/3にぶい黄	
57	0119	IVa層P109	縄文 早期 深鉢	胴	-	-	-	外】山形押型文	7. 5YR6/6橙 10YR7/6明黄褐	

表 23 遺物一覧（IV層出土石器）

番号	ID	出土位置	器種	石材	法量 (cm・g)				調整ほか特徴	備考
					長さ	幅	厚み	g		
58	5009	IVb層P113	剥片	安山岩	3.7	1.9	0.4	2.17	二次加工痕あり	

(5) 自然科学分析

① 黒曜石、安山岩産地推定

長崎県埋蔵文化財センターでは、2014(平成26)年以来主に九州圏内から産出する黒曜石原石の分析データを蓄積し、遺跡出土黒曜石の産地推定を実施している(片多2015、川道ほか2018)。また、2022(令和4年)度から新たに安山岩の分析データを蓄積し、産地推定を実施している。今回の大高野遺跡発掘調査で出土した11点の資料(図47)を対象に、分析した結果を報告する。

分析には、エネルギー分散型蛍光X線分析装置を用いて非破壊で定性分析を実施し、判別図法によって原産地を推定している。装置の使用及び分析条件は以下のとおり。エネルギー分散型蛍光X線分析装置: SSI ナノテクノロジー社(現株式会社日立ハイテクサイエンス)製「SEA1200VX」を使用した。下面照射式で照射径は8Φ、Rh(ロジウム)管球、SDD検出器で液体窒素を必要としない。分析状況は管電圧40kVで、管電流は抵抗値によって自動設定とした。大気雰囲気測定時間は100秒(デッドタイム30%前後でのライブタイム)で分析を行った。分析資料は極力石器表面が均一で、風化していない面を測定した。

産地推定の手法は、検出した元素のうち、K(カリウム)、Mn(マンガン)、Fe(鉄)、Rb(ルビジウム)、Sr(ストロンチウム)、Y(イットリウム)、Zr(ジルコニウム)の7元素のX線強度(CPS値: Count Per Second/1秒間に蛍光X線を検出した量)から下記の①～④のパラメータを用いて①・②の散布図(以下、Rb散布図)と、③・④の散布図(以下、Sr散布図)の2種類の散布図(判別図)を作成するという望月明彦氏の開発した手法に基づいている(望月1997)。

$$\textcircled{1} \text{ Mn 強度} \times 100 / \text{Fe 強度}$$

$$\textcircled{2} \text{ Rb 分率} = \{ \text{Rb 強度} \times 100 / (\text{Rb 強度} + \text{Sr 強度} + \text{Y 強度} + \text{Zr 強度}) \}$$

$$\textcircled{3} \text{ Log} (\text{Fe 強度} / \text{K 強度})$$

$$\textcircled{4} \text{ Sr 分率} = \{ \text{Sr 強度} \times 100 \} / (\text{Rb 強度} + \text{Sr 強度} + \text{Y 強度} + \text{Zr 強度}) \}$$

分析結果を表24に、判別図を図48に示す。分析IDにはセンターが出土品に付与し、管理している遺物ID(遺跡調査番号-遺物番号)を使用している。今回報告する分析結果は、2022(令和4年)12月14日時点までの原産地データの成果を利用した。

分析の結果、黒曜石は5点が『腰岳系(腰岳・有田川・松浦Ⅲ群・古里海岸⑥)』を示した。それ以外は[5007]が『川棚大崎①産』を示し、[5015]が『牛ノ岳系(牛ノ岳「土器田」・淀姫・針尾米軍基地・久木島米基地・砲台山・前畑弾薬庫・淀姫神社・東浜)』を示した。[5017]、[5040]の2点は産地不明と判断した。

安山岩は2点[5006]、[5071]を分析した結果、[5071]が『多久産』を示した。[5006]はSr分率では多久産を示したが、Rb分率では多久の範囲から大きく外れるため産地不明と判断した。

以上のことから大高野遺跡では腰岳系を黒曜石の主な給源地としていたものの、腰岳系以外の産地も確認できることから他の地域での黒曜石の流通網を有していた、又は時代により流通路が変遷していった可能性が考えられる。但し、分析点数が少ないため判断材料とするにはまだ十分とは言えない。今回分析し

た石器以外での大高野遺跡で出土した黒曜石・安山岩分析や、試掘で出土した資料を用いて分析資料を増やし、精査する必要がある。

【参考文献】

片多雅樹 2015「判別法を用いた黒曜石の安置推定～基礎データの構築～」『長崎県埋蔵文化財センター研究紀要第5号』長崎県埋蔵文化財センター

川道寛・隅田祥光・片多雅樹・辻田直人 2018「原産地判別プログラムを用いた黒曜石製石器の産地同定」『九州旧石器第22号』九州旧石器文化研究会

望月明彦 1997「蛍光 X 線分析による中部・関東地方の黒曜石産地の判別」『X 線分析の進歩第28集』アグネ技術センター

長崎県教育委員会 2022『津吹遺跡』長崎県埋蔵文化財センター調査報告書第41集

表 24 黒曜石・安山岩分析結果一覧

ID	出土位置	系・群	K	Mn	Fe	Rb	Sr	Y	Zr	Rb分率	Mn × 100/Fe	Sr分率	log Fe/K	備考
5006	SD3 東	産地不明	9.38	12.49	318.90	27.64	95.49	38.93	90.79	10.93	3.92	37.77	1.53	Sr分率では多久を示す。
5007	SD3 埋土 (黒褐色土) P68	川棚大崎産	80.86	22.83	666.87	299.31	68.13	130.98	299.57	37.51	3.42	8.54	0.92	
5015	II層 P58	牛ノ岳系	59.43	24.57	772.72	211.52	201.52	98.20	358.21	24.33	3.18	23.18	1.11	
5017	II層下位 P65	産地不明	113.51	30.00	905.26	243.84	212.40	106.32	393.67	25.50	3.31	22.21	0.90	Rb分率では牛ノ岳系を示す。
5018	IIIa層上位 P100	腰岳系	69.82	24.77	624.51	326.73	100.78	131.36	222.12	41.84	3.97	12.90	0.95	
5019	IIIa層上位 P106	腰岳系	69.11	24.87	606.96	331.24	99.37	136.72	227.12	41.69	4.10	12.51	0.94	
5032	Gr1631A II層下位	腰岳系	64.61	22.65	552.18	301.51	90.36	122.49	206.24	41.84	4.10	12.54	0.93	
5033	Gr1531B II層下位	腰岳系	65.38	22.50	548.50	308.31	92.80	126.85	208.45	41.87	4.10	12.60	0.92	
5040	Gr1531B II層	産地不明	105.15	25.91	638.92	356.59	105.86	140.28	230.49	42.80	4.06	12.70	0.78	Rb分率では腰岳系を示す。
5041	Gr1531B II層	腰岳系	64.27	23.51	590.65	303.85	94.17	125.91	210.95	41.35	3.98	12.81	0.96	
5071	SD3 東	多久産	67.28	38.08	2391.97	213.94	320.20	89.17	290.19	23.42	1.59	35.05	1.55	



図 47 分析資料

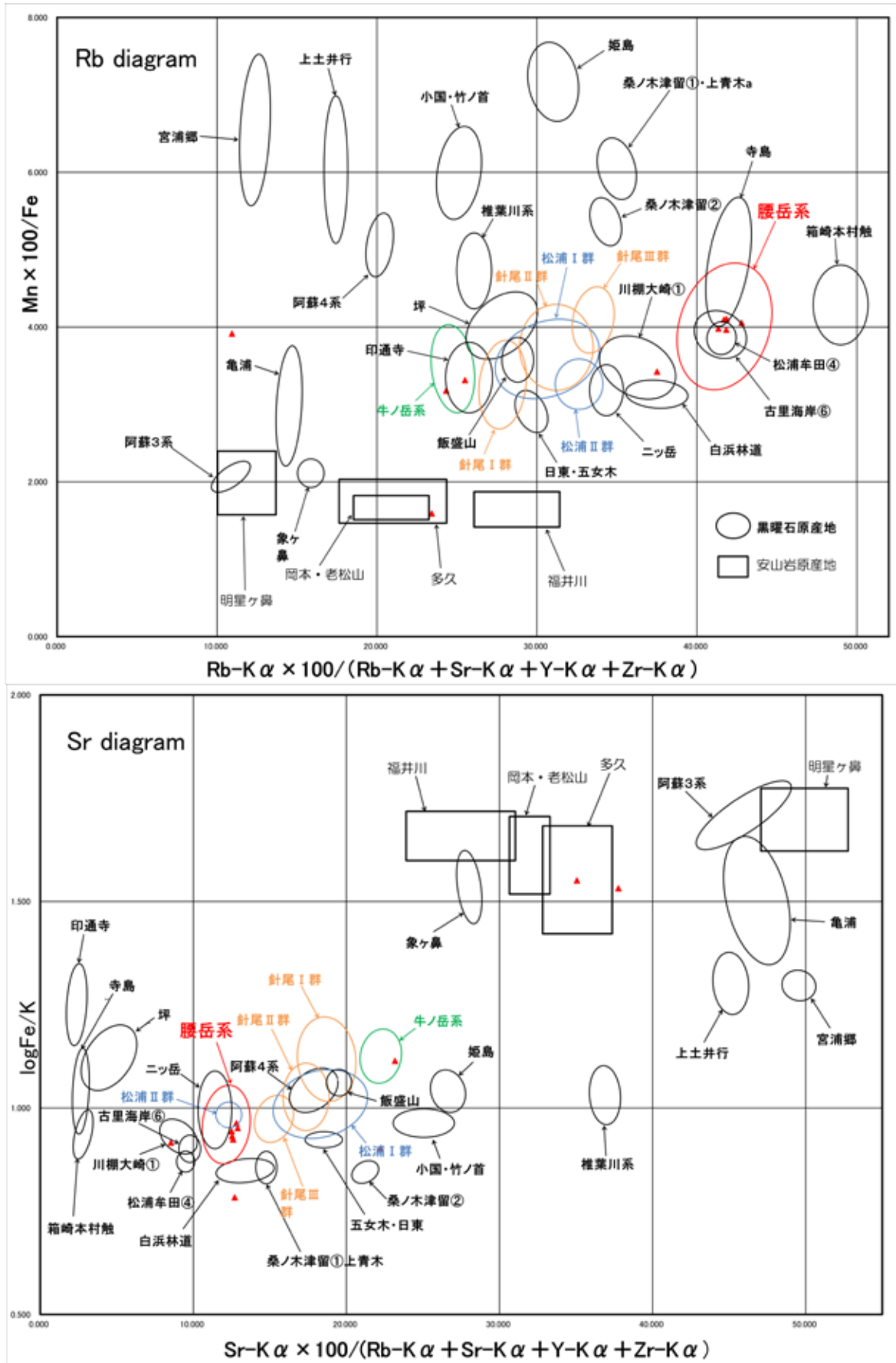


図 48 黒曜石・安山岩産地推定判別図 (上: Rb 分率 vs Mn/Fe、下: Sr 分率 vs Fe/K)



写真 78 出土遺物 1



写真 79 出土遺物 2



写真 80 出土遺物 3



出土鉄滓 (9044)

出土鉄滓 (9045)

写真 81 出土遺物 4



写真 82 北側Ⅱ a層上面検出状況(南方向から)



写真 83 南側Ⅱ a層上面検出状況(北方向から)



写真 84 サブトレンチ1西壁上段土層堆積状況(北東方向から)



写真 85 サブトレンチ1西壁下段土層堆積状況(北東方向から)



写真 86 サブトレンチ1南壁土層堆積状況1(北東方向から)



写真 87 サブトレンチ1南壁土層堆積状況2(北東方向から)



写真 88 サブトレンチ2東壁土層堆積状況1(南東方向から)



写真 89 サブトレンチ2東壁土層堆積状況2(南東方向から)



写真 90 サブトレンチ 3 西壁土層堆積状況 1 (北東方向から)



写真 91 サブトレンチ 3 西壁土層堆積状況 2 (北東方向から)



写真 92 谷埋土堆積状況 (北東方向から)



写真 93 SD1 完掘状況 (北東方向から)



写真 94 SD1 北壁埋土堆積状況 (南西方向から)



写真 95 SD1 中央ベルト埋土堆積状況 (南方向から)



写真 96 SD1 陶器 (7) 出土状況



写真 97 SX1 半截状況 (西方向から)



写真 98 SD2 完掘状況（南方向から）



写真 99 SD2 埋土堆積状況（北東方向から）



写真 100 SD3 中央ベルト埋土堆積状況（東方向から）



写真 101 SD3 南ベルト埋土堆積状況（南東方向から）



写真 102 SD3 完掘状況（東方向から）



写真 103 Ⅲ b 層検出状況（東方向から）



写真 104 完掘状況（南東方向から）

VII. 総括

津吹遺跡については、今年度の発掘調査地が昨年度の津吹遺跡本調査（TBK202011）の隣地ということもあり、昨年度の本調査同様に遺構は確認出来ず、遺物の出土も散逸的で昨年度の本調査成果を追認する結果となった。遺物については、Ⅱe層下位及びⅢc層上面で遺物が散逸的に出土する状況から、原位置ではなく山側から流れ込んだものと考えられる。このため調査区より標高が高い場所に遺跡の本体が存在する可能性がある。

原口B遺跡については、今回の発掘調査では、攪乱や削平によって遺物包含層が大きく失われている箇所もあり、島原半島広域農道（雲仙グリーンロード）の工事に伴う畑地造成時に大規模な土地改変が行われたことがうかがえる。遺構は確認出来なかった。遺物については、原位置ではなく山側から流れ込んだものと考えられる。1区のⅥ層（褐色硬質土）から黒曜石製剥片が出土するが、出土数は少量で道具等が確認できない状況から拠点やキャンプサイトの可能性は低いと考えられる。また、2区で検出した自然の落ち込みは、元々は現況で確認できる2区から北東方向（海側）にある谷の上流部分に当たると思われる。このため調査区より標高が高い場所に遺跡の本体が存在する可能性がある。

上新高野遺跡については、事前の試掘調査（HGB202017）でⅥ層（褐色硬質土）から黒曜石の剥片が出土していたことから旧石器時代の遺構や遺物が包含されている可能性を想定し慎重に精査を行ったが、石器製作跡などの遺構は確認できなかった。遺物については、Ⅵ層から剥片が出土し、Ⅵ層が旧石器時代の遺物包含層であることが確認できたが、出土状況から原位置ではなく山側から流れ込んだものと考えられる。このため調査区より標高が高い場所に遺跡の本体が存在する可能性がある。なお、Ⅵ層に入った亀裂内から土器等の遺物が出土する状況が確認できたことからⅥ層出土遺物の取り扱いに留意する必要がある。

大高野遺跡については、今回の発掘調査では、3本の溝を検出した。本来はⅡa層か、それよりも上層から掘り込まれた溝と思われるが、土色がⅡa層と似ていたため検出が困難であった。SD1では被熱痕のある堆積岩や鉄滓が出土しており、周辺に鍛冶関連施設が存在する可能性がある。

また、原口B遺跡2区同様に谷状の自然の落ち込みを検出した。遺物については、各層の遺物が散逸的に出土する状況から、原位置ではなく山側から流れ込んだものと考えられ、調査区より標高が高い場所に遺跡の本体が存在する可能性がある。

今回の4遺跡5地点の調査を通じて明確な遺構の検出は無く、遺物の出土は散逸的であった。それぞれの遺跡の中心は今回の調査地とは別の地点、おそらくは山側にあるものと思われる。また、剥片のみであったもののⅥ層から遺物が出土したことは、未だ発見されたことのない旧島原市北部から旧有明町域における旧石器時代の石器製作跡が今後発見される可能性を示している。

【引用・参考文献】

長崎県教育委員会 2019『長崎県埋蔵文化財調査報告 27〔平成30年度分〕』長崎県埋蔵文化財センター調査報告書第33集

長崎県教育委員会 2020『長崎県埋蔵文化財調査報告 28〔令和元年度分〕』長崎県埋蔵文化財センター調査報告書第36集

長崎県教育委員会 2021『畑中遺跡』長崎県埋蔵文化財センター調査報告書第 39 集

長崎県教育委員会 2021『長崎県埋蔵文化財調査報告 29〔令和 2 年度調査分〕』長崎県埋蔵文化財センター調査報告書第 40 集

長崎県教育委員会 2022『津吹遺跡』一般国道 251 号道路改良工事（出平有明バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ長崎県埋蔵文化財センター調査報告書第 41 集

川道 寛・辻田直人 2015「雲仙岳北麓土黒川流域の旧石器編年」『長崎県埋蔵文化財センター研究紀要第 5 号』長崎県埋蔵文化財センター

雲仙市教育委員会 2003『龍王遺跡Ⅲ』雲仙市文化財調査報告書第 3 集

有明町教育委員会 2001『一野遺跡Ⅱ』有明町文化財調査報告書第 14 集

島原市教育委員会 2008『小原下遺跡』島原市文化財調査報告書第 12 集

島原市教育委員会 2017『上油堀遺跡・下油堀遺跡』島原市文化財報告書集 17 集

島原市教育委員会 2020『長貫 A 遺跡』島原市文化財調査報告書第 19 集

島原市教育委員会 2021『長崎県指定島原城跡保存活用計画』

南島原市教育委員会 2021『権現脇遺跡』南島原市文化財調査報告書第 28 集

地質調査総合センター「雲仙」『日本の活火山』産業技術総合研究所ウェブサイト

報告書抄録

ふりがな	つぶきいせき・はらぐちびーいせき・かみしんごうやいせき・おおごうやいせき
書名	津吹遺跡・原口B遺跡・上新高野遺跡・大高野遺跡
副書名	一般国道251号道路改良工事（出平有明バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	II
シリーズ名	長崎県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号名	第46集
編著者名	前田加美、濱村一成、今西亮太、近藤佳恵
編集機関	長崎県埋蔵文化財センター
所在地	〒811-5322 長崎県壱岐市芦辺町深江鶴亀触 515 番地1 電話 0920 (45) 4080
発行年月日	西暦 2023 年 3 月 23 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
つぶきいせき 津吹遺跡	ながさきけんしまばらし 長崎県島原市 つぶきまち 津吹町	42203	019	32° 48' 43"	130° 20' 17"	本調査 2021.7.2 ～ 2021.9.29	487 m ²	道路建設
はらぐちびーいせき 原口B遺跡	ながさきけんしまばらし 長崎県島原市 はらぐちまち 原口町	42203	003	32° 49' 9"	130° 20' 3"	本調査 2021.7.2 ～ 2022.1.31	1,325 m ²	
かみしんごうやいせき 上新高野遺跡	ながさきけんしまばらし 長崎県島原市 ありあけちようおおみさき 有明町大三東 甲	42203	101	32° 49' 16"	130° 19' 55"		2,551 m ²	
おおごうやいせき 大高野遺跡	ながさきけんしまばらし 長崎県島原市 つぶきまち 津吹町	42203	098	32° 48' 56"	130° 20' 8"		1,011 m ²	

収録遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
津吹遺跡 原口B遺跡 上新高野遺跡 大高野遺跡	遺物包含地	旧石器時代 縄文時代 弥生時代 古墳時代 中世	溝状遺構 土坑 不明遺構	剥片 縄文土器（早期・ 晩期） 弥生土器（中期・ 後期） 石器 土師器 貿易陶磁器 鉄滓	

長崎県埋蔵文化財センター調査報告書第 46 集

津吹遺跡・原口 B 遺跡・
上新高野遺跡・大高野遺跡

令和 5(2023) 年 3 月 23 日

発行 長崎県教育委員会
長崎市尾上町 3 番 1 号

印刷 株式会社 昭和堂